

令和6年度
広島県立美術館年報

令和6年度
広島県立美術館年報



目 次

| | | |
|------|---------------------------------|----|
| I | 沿革 | 2 |
| II | 展覧会 | |
| | 展覧会一覧 | 5 |
| | 特別展 | |
| | 1 ブルターニュの光と風 | 6 |
| | 2 金曜ロードショーとジブリ展 | 10 |
| | 3 近代日本画の真髄 児玉希望一 千変万化、驚異の筆力展 | 12 |
| | 4 もしも猫展 | 17 |
| | 5 第71回日本伝統工芸展 | 20 |
| | 所蔵作品展 | 24 |
| III | 普及活動 | |
| | 1 第12回新県美展（第76回広島県美術展） | 37 |
| | 2 博物館実習 | 39 |
| | 3 学校・地域との連携事業 | 41 |
| | 4 鑑賞支援制作物 | 42 |
| | 5 学校等による利用状況 | 43 |
| | 6 県民ギャラリー利用状況 | 45 |
| | 7 友の会事業報告 | 48 |
| IV | 事業実施状況 | 50 |
| V | 業務一覧 | 54 |
| VI | 入館者数一覧 | 64 |
| VII | 美術品等収集状況 | 66 |
| VIII | 美術品等の貸出し | 76 |
| IX | 関係法規 | 77 |
| X | 名簿 | 87 |

I 沿革

| | | | |
|----------|---|-----------|---|
| 昭和31年 | 美術館建設の募金運動はじまる | 昭和52年 2月 | 広島県美術展開催運営規則施行(昭和52年 広島県教育委員会規則第2号) |
| 昭和38年 4月 | 調査費計上 | 昭和53年 10月 | 開館10周年記念展開催 |
| 昭和39年 4月 | 設計委託料計上 | 昭和54年 3月 | 開館10周年記念「広島県立美術館所蔵作品 集」発刊 |
| 10月 | 建設促進委員会開催 | 12月 | 収蔵庫拡張工事着工 |
| 昭和40年 4月 | 整地費など計上 | 昭和55年 2月 | 収蔵庫拡張工事完了 |
| 昭和41年 5月 | 文部省社会教育施設整備費補助金の交付 内定 | 4月 | 定宗一宏館長(非常勤)任命 広島県立美術館条例一部改正(昭和55年 広 島県条例第19号)施設使用料 |
| 12月 | 建設募金委員会発足 | 10月 | 広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和55年 広島県教育委員会規則第10号) |
| 昭和42年 1月 | 起工式挙行 | 昭和56年 4月 | 広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和56年 広島県教育委員会規則第5号)課の 名称変更・入館料の免除 広島県立美術館美術品等取得基金条例施 行(昭和56年 広島県条例第5号 基金額1億 円) |
| 昭和43年 3月 | 旧館竣工 | 10月 | 広島県美術品等取得基金運用規定制定 美術品等収集委員会設置要領制定 |
| 4月 | 広島県立美術館条例施行(昭和43年 広島県 条例第20号) 広島県立美術館管理運営規則施行(昭和43 年 広島県教育委員会規則第1号) 加藤豊館長(常勤)任命 | 昭和57年 3月 | 定宗館長辞職 |
| 6月 | 広島県立美術館協議会条例施行(昭和43年 広島県条例第38号) | 4月 | 広島県立美術館条例一部改正(昭和57年 広 島県条例第10号)入館料・施設使用料 阿川静明館長(非常勤)任命 |
| 7月 | 広島県立美術館協力を結成 | 9月 | 縮景園窓口入園窓口を設置 |
| 9月 | 広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和43年 広島県教育委員会規則第13号)分掌 事務 | 昭和60年 3月 | 阿川館長辞職 |
| 21日 | 落成式挙行 | 4月 | 赤木博典館長(常勤)任命 |
| 22日 | 旧館開館 | 昭和61年 10月 | 事務局職員による県立美術館整備計画検 討会議を設置 |
| 10月 | 広島県立美術館美術品収集要領制定 | 昭和62年 2月 | 渋谷文庫開設 |
| 12月 | 広島県立美術館展示施設運営要領制定 | 3月 | 県立美術館整備計画検討会議、整備構想 案をまとめる 赤木館長辞職 |
| 昭和44年 4月 | 広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和44年 広島県教育委員会規則第2号) 職員の職・職員の職務 館藏品常設展開設 | 4月 | 吉岡典威館長(兼務)任命 |
| 昭和46年 4月 | 宮地貫一館長事務取扱任命 | 11月 | 県教育委員会、広島県立美術館整備構想 検討委員会を設置、委員8名を委嘱 |
| 昭和47年 1月 | 広島県立美術館友の会発足 | 昭和63年 4月 | 菅川健二館長(兼務)任命 広島県立美術館条例一部改正(昭和63年 広 島県条例第7号)入館料・施設使用料 広島県立美術館美術品等取得基金、1億円 を増額(基金額2億円) |
| 5月 | 浜本正弘館長事務取扱任命 | 11月 | 広島県立美術館整備構想検討委員会、整 備構想をまとめ県教育委員会に答申 |
| 6月 | 佐々木司郎館長事務取扱任命 | 平成元年 3月 | さところ文庫開設 |
| 8月 | 広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和47年 広島県教育委員会規則第11号)職員 の職 羽白幸雄館長(非常勤)任命 | 5月 | 広島県立美術館整備基本計画検討委員会 を設置、委員18名を委嘱(座長 橋口収県商 工会議所連合会会長) |
| 11月 | 開館5周年記念「広島県立美術館所蔵作品 集」発刊 | 7月 | 広島県立美術館美術品等収集評価委員会 を設置、委員6名を委嘱 |
| 昭和48年 6月 | 広島県立美術館条例一部改正(昭和48年 広 島県条例第30号) 広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和48年 広島県教育委員会規則第14号)補助 職員の職及び職務 | 平成2年 3月 | 「広島県立美術館所蔵作品図録」発刊 |
| 10月 | 広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和48年 広島県教育委員会規則第19号)職員 の職等 | 4月 | 広島県立美術館美術品など取得基金、5億 円を増額(基金額7億円) |
| 昭和49年 3月 | 広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭 和49年 広島県教育委員会規則第4号)その 他の職員の職 | | |
| 昭和50年 4月 | 広島県立美術館条例一部改正(昭和50年 広 島県条例第25号)施設使用料 | | |
| 昭和51年 4月 | 広島県立美術館条例一部改正(昭和51年 広 島県条例第9号)入館料 | | |

| | | | |
|-------------|---|-------------|--|
| 12月 | 知事、県議会本会議において「新美術館は隣接する縮景園の景観を損なうことなく、両施設の一体化を図った文化ゾーンの一環として一体的に整備する必要がある」と答弁 | 平成12年 2月 1日 | 広島県立美術館美術品等収集評価委員会設置要領一部改正 |
| 平成3年 2月 | 知事、県議会本会議において「基金設計に着手する」ことを提案 | 平成13年 3月26日 | 広島県博物館協議会条例施行(平成13年 広島県条例第3号)広島県美術館協議会条例廃止 |
| 3月 | 県議会、平成3年度予算案(基本設計予算)を可決 | 29日 | 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成12年 広島県教育委員会規則第5号)入館料等の減免 |
| 4月 | 広島県立美術館整備基本計画をまとめる 美術品等特別収集に着手 広島県立美術館美術品等取得基金、3億円を増額(基金額10億円) | 7月10日 | 常盤豊館長(兼務)就任 |
| 平成4年 7月 | 施設利用業務休止。館蔵品常設展示室休室 | 10月22日 | 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成13年 広島県教育委員会規則第7号)入館料の減免 |
| 9月 | 閉館記念式典挙行 | 12月20日 | 平山郁夫名誉館長辞任 |
| 10月 | 事務所を広島市西区観音新町四丁目9-43に移転、仮事務所とする 旧県立図書館及び旧県立美術館の解体工事に着手 広島県立美術館美術品等取得基金、10億円を増額(基金額20億円) | 平成14年 3月25日 | 広島県立美術館条例一部改正(平成14年 広島県条例第18号)小・中・高校生の無料化 |
| 平成5年 3月 | 解体工事、整地完了 新館建設工事安全祈願祭が挙行され、工事に着手 | 4月 1日 | 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成14年 広島県教育委員会規則第10号)開館時間の変更 |
| 4月 | 久保信保館長(兼務)任命 | 平成16年 7月 1日 | 関靖直館長(兼務)就任 |
| 12月 | 寺脇研館長(兼務)任命 広島県立美術館美術品等取得基金、10億円を増額(基金額30億円) | 平成17年12月20日 | 広島県立美術館条例一部改正(平成17年 広島県条例第57号)展示施設等の利用許可の条件、取消し等及び制限 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成17年 広島県教育委員会規則第16号)開館時間表記の改正及び条例改正に伴う改正 |
| 平成6年 5月 | 事務所を西区観音新町から広島市中区八丁堀3-2職会館(2階)に移転 広島県立美術館美術品等取得基金、10億円を増額(基金額40億円) | 平成19年 4月 1日 | 榎田好一館長(兼務)就任 |
| 平成7年 4月 | 常廣泰登館長(専任)任命 広島県立美術館美術品等取得基金、5億円を増額(基金額45億円) | 6月18日 | 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成19年 広島県教育委員会規則第9号)休館日の変更及び条例改正に伴う改正 |
| 12月 | 新館竣工 新館鍵引渡し式を挙行 | 12月25日 | 広島県立美術館条例一部改正(平成19年 広島県条例第56号)学校教育法等の一部改正に伴う改正 |
| 平成8年 1月 | 事務所を新館に移転 | 平成20年 4月 1日 | 指定管理者制度導入 |
| 4月 1日 | 木曾功館長(兼務)就任 | 平成21年 4月 1日 | 所管先が広島県教育委員会生涯学習部文化課から広島県環境県民局総務管理部文化芸術課へ移行 広島県立美術館の入館料に関する規則施行(平成21年 広島県規則第33号) 広島県美術展開催運営規則(平成21年 広島県規則第34号) |
| 7月 1日 | 平山郁夫名誉館長就任 | 平成21年12月 1日 | 藤田雄山館長(兼務)就任 |
| 5日 | 広島県立美術館条例施行(平成8年 広島県条例第16号)入館料・施設使用料 | 平成22年 4月 1日 | 平田光章館長(兼務)就任 |
| 22日 | 広島県立美術館管理運営規則一部改定(平成8年 広島県教育委員会規則第9号)施設使用料 | 平成22年 6月 1日 | 抹香尊文館長(兼務)就任 |
| 10月 1日 | 『広島県立美術館コレクション選』発刊 | 平成22年 6月28日 | 広島県美術品等取得基金条例を廃止する条例の施行(平成22年 広島県条例第22号) 広島県立美術館条例一部改正(平成22年 広島県条例第31号)施設使用料額の下限撤廃に伴う改正 |
| 5日 | 新館開館記念式挙行 | 平成23年 4月 1日 | 越智裕二郎館長就任 |
| 6日 | 新館開館 広島県立美術館美術品等取得基金、5億円を増額(基金額50億円) | 6月29日 | 広島県立美術館評価委員会設置 |
| 平成9年 3月26日 | 広島県立美術館条例施行(平成9年 広島県条例第3号)入館料・施設使用料 | 平成23年 7月11日 | 広島県立美術館条例一部改正(平成23年 広島県条例第31号)指定管理者による管理、入館料の納付等および減免、利用料金の納付等・減免及び収入 |
| 4月 1日 | 広島県立美術館管理運営規則(平成9年 広島県教育委員会規則第6号)全面改定 | 平成24年 4月 1日 | 広島県立美術館の入特別展の観覧に係る入館料に関する規則一部改正(平成24年 広島県規則第38号) |
| 平成10年 3月24日 | 広島県立美術館条例施行(平成10年 広島県条例第5号)入館料等の納付 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成10年 広島県教育委員会規則第4号) | | |
| 7月 1日 | 辰野裕一館長(兼務)就任 | | |

| | | | |
|-------------|---|-------------|--|
| 平成25年 2月18日 | 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成25年 教育委員会規則第1号)講堂の利用申込期間の変更 | 3月31日 | 広島県立美術館の入館料に関する規則一部改正(平成29年 広島県規則第16号)入館料の免除 |
| 3月14日 | 広島県立美術館の特別展の観覧に係る入館料に関する規則一部改正(平成25年 広島県規則第13号)広島県立美術館条例一部改正に伴う改正 | 平成31年 3月 8日 | 広島県立美術館条例一部改正(平成31年 広島県条例第5号)利用料金の範囲 |
| 平成26年 3月26日 | 広島県立美術館条例施行(平成26年 広島県条例第17号、第23号)入館料・施設使用料及び開館時間 | 令和2年 3月 7日 | 新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休館(同日午後から令和2年5月11日まで) |
| 平成27年 3月16日 | 広島県立美術館条例一部改正(平成27年 広島県条例第3号)展示施設等の利用料金の減免 | 令和3年 3月22日 | 広島県立美術館条例一部追加(令和3年 広島県条例第3号)指定管理者の指定を取り消した場合等の特例、一部改正(令和3年 広島県条例第3号)委任規定 |
| 4月 1日 | 千足伸行館長就任 | 5月10日 | 新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休館(令和3年6月20日まで) |
| 平成28年 3月22日 | 広島県立美術館条例一部改正(平成28年 広島県条例第7号)入館料・利用料金の減免、所蔵作品展の利用料金の範囲 | 8月 7日 | 新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休館(令和3年9月30日まで) |
| 10月12日 | 広島県立美術館条例一部改正(平成28年 広島県条例第47号)指定管理による管理、入館料の納付等、利用料金の納付等、入館料の減免、利用料金の減免、利用料金の収入 | 令和4年 1月11日 | 新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休館(令和4年3月6日まで) |
| 平成29年 3月23日 | 広島県立美術館管理運営規則一部改正(平成29年 教育委員会規則第1号)利用料金の減免、利用料金の減免の申請 | 令和5年 3月13日 | 博物館法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例(令和5年 広島県条例第4号)第1条による広島県美術館条例の一部改正(設置目的の改正) |
| | | 8月 | LED工事着手 |
| | | 令和7年 3月 | LED工事完了 |

Ⅱ 展覧会

展覧会一覧

令和6年4月1日～令和7年3月31日までに開会した展覧会は、次のとおり。なお、2階展示室は1月～3月にかけてLED工事を実施したため休室した。

特別展

| | 展 覧 会 名 | 会 期 |
|---|--------------------------------|----------------------|
| 1 | ブルターニュの光と風 | 4月13日(土)～6月2日(日) |
| 2 | 金曜ロードショーとジブリ展 | 7月13日(土)～9月23日(月・振休) |
| 3 | 近代日本画の真髄 児玉希望 ― 千変万化、驚異の筆力展 | 10月4日(金)～12月1日(日) |
| 4 | もしも猫展 | 12月19日(木)～2月9日(日) |
| 5 | 第71回日本伝統工芸展 | 2月19日(水)～3月9日(日) |

所蔵作品展

| | 展 覧 会 名 | 会 期 |
|---|---|---------------------|
| 1 | 第1期 光と風の世界 | 4月26日(金)～7月15日(月・祝) |
| 2 | 第2期 サマーミュージアム 美術の教科書! 「あの作品、あの作家」と出会う、学ぶ | 7月19日(金)～10月6日(日) |
| 3 | 第3期 コレクション・フォーカス: 山路商一戦前期広島の前衛精神 伝統と革新 ― 児玉希望展にちなんで | 10月11日(金)～12月24日(火) |

特別展

1 ブルターニュの光と風

会 期／令和6(2024)年4月13日(土)～6月2日(日)
主 催／広島県立美術館、広島ホームテレビ、イズミテクノ、中国新聞社
後 援／在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ、
中国放送、広島テレビ、テレビ新広島、エフエムふくやま、
尾道エフエム放送
企画協力／ホワイトインターナショナル
協 賛／広島県信用組合、一般財団法人ケンシン地域振興財団
入 館 料／一 般 1,500円
高・大学生 1,000円
小・中学生 700円
※前売・20人以上の団体は200円引き
入館者数／13,842人(51日間)



フランス北西部に位置し、深緑色の海と断崖が織りなす海岸線、深い森など豊かな自然をもつブルターニュ半島。ケルト系言語のブルトン語をはじめとする独自の文化を持ち、中世の香りを色濃く残すこの地は、伝統的、神秘的なイメージによって人々の関心をかき立ててきた。特に19世紀以降、交通網の発達とともに多くの画家がブルターニュを訪れるようになると、近代化の波を逃れて手付かずのまま残された自然や、現地に暮らす人々の信心深く慎ましい生活を題材に、数々の優れた絵画が生み出された。本展では、フランス・カンパール美術館のコレクションを中心とする、44作家による65点の多彩な絵画作品を通じて、フランス内部の“異郷”ともいわれるブルターニュの豊かな魅力を紹介した。また、専門家による講演会や、ブルターニュの食文化や音楽に触れられるイベントを多数開催し、来場者の様々な興味・関心に応える機会を創出した。

(本展担当者：森 万由子)

関連事業

- (1) 記念講演会「ブルターニュの光と風」
日 時：4月13日(土) 13:30～15:00
講 師：千足 伸行(当館館長、本展監修者)
会 場：地階講堂
参加者：69人
- (2) 講演会「ブルターニュの言葉と文化」
(広島県立美術館友の会共催)
日 時：5月11日(土) 13:30～15:00
講 師：大場 静枝(広島市立大学教授)
会 場：地階講堂
参加者：81人
- (3) 美術講座「画家と旅するブルターニュ」
日 時：5月26日(日) 13:30～15:00



講師：森 万由子(当館学芸員)

会場：地階講堂

参加者：89人

(4) 学芸員によるギャラリートーク

日時：4月19日(金)、5月3日(金)、17日(金)
各日11:00～、18:00～

講師：森 万由子(当館学芸員)

会場：3階企画展示室

参加者：のべ96人

(5) 学芸員によるインスタライブ

日時：4月23日(火)、30日(火)、5月28日(火)
各日17:00～

講師：森 万由子(当館学芸員)

会場：3階企画展示室

参加者：のべ232人

(6) ロビーコンサート「ブルターニュの調べ～“シャリヴァリ”と呼ばれて」

日時：4月27日(土) 15:00～

演奏：Toa(歌、フィドル)、Machiko(ハープ、コンサーティーナ)、MASA(パーカッション)、
渡辺 祐平(ベース)、AZ(フルート、アコーディオン、シンセ)、藤岡 竜輔(歌、ギター、
ブズーキ、その他伝統楽器)

会場：1階ロビー

参加者：200人

(7) 「ル・トリスケル」勇崎シェフおすすめシードルの提供

会期中、1階ミュージアムカフェにて、広島市中区のフランス料理店「ル・トリスケル」のオーナーシェフ、勇崎元浩氏おすすめのシードル(りんご酒)をグラスで販売

(8) ブルターニュの食・風土を味わう

① 展覧会グッズ売り場

カンパール焼やガレット、シードル(ノンアルコール)、缶入りビスケットなどを販売

② キッチンカー出店

ガレット専門店「LA ROULOTTE」当館エントランスに出店

4月14、15、16、19、20、24、26、27、28、30日、
5月1、2、8、10、15、17、18、22、24、29、31日、
6月1、2日

(9) 映画「燃ゆる女の肖像」特別上映

日時：4月19日(金)～25日(木)

※4月20日(土)森学芸員による上映前トーク

会場：サロンシネマ

(広島市中区八丁堀16-10 広島東映プラザビル8F)

(10) ワークシートの配布

(11) ARフォトフレーム設置



(12) 観光事業者・観光ガイド向け特別鑑賞会

日時：4月19日(金) 17:00～

講師：森 万由子(当館学芸員)

参加者：39人



主要関連番組

(1) テレビ

2/13～ 広島ホームテレビ スポット

2/16～ 広島ホームテレビ スポット(『ぼるぼるエンタ』金:23:10～、土:23:06～)

広島ホームテレビ スポット(『情報LAND』月～金:9:55～10:00)

4/13 広島ホームテレビ 夕方ニュース 開幕(担当者出演:森)

4/26 広島ホームテレビ 『ピタニュー』推しピタ特集(担当者出演:森)

5/23 NHK広島放送局 朝のニュース(担当者出演:森)

5/24 広島ホームテレビ 1万人セレモニー(担当者出演:森)

(2) ラジオ

4/17 FMふくやま『みどりのオアシス』(担当者出演:森)

4/23 FMおのみち『You Gotta Radio』(担当者出演:森)

主要関連記事

(1) 新聞

・中国新聞

2/12 前売り販売開始

3/29 事業ガイド

4/4 特集「中世薫る辺境 心引かれて」

4/14 特別展開幕「旅情いざなう 自然の輝き」

4/24 寄稿「自然や風習 画家らを魅了」(森)

5/22 千足館長インタビュー

5/25 1万人セレモニー

(新聞広告)

(モノクロ全3段:2/19、3/1、4/6、5/23)、(モノクロ半3段:3/15、24、4/11、25、5/30)

(モノクロ半5段:2/16、25、3/5、4/3、18、5/2、15、28)、(ミュージアムで会いましょう4/13)

・毎日新聞

5/3 「神秘の地描いた65点」

・朝日新聞

5/14 「パリを魅了した「辺境」の風」

(2) 雑誌等

『生協チラシ』2月13日～、『Wendy』3月号、4月号、5月号、6月号、『to you』3月号、4月号、
『ワーキン』3月11日号、『リビングひろしま』4月12日号、『リビングふくやま』5月17日号、『広
島交響楽団第440回定期演奏会プログラム』4月13日号、『プレスネット』4月18日号、『縮景園か
わら版』4月号、5・6月号、『TJ Hiroshima』4月号、『Wink広島版』4月号、『くれえばん』5
月号、『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第105号、『せとうちアート通信』春号vol.7、『パンプ
キン』5月号、『ふれあい』5月10日発行、『経済春秋』5月号



(3) WEB

『アートアジェンダ』 2月下旬～、『Dive! Hiroshima』 2月下旬～、『JAFナビ』 2月下旬～、『西広島タイムズ』 3月～、『美術手帖』 3月～、『ひろしまリビング新聞』 3月～、『ファッションプレス』 3月～、『Walker Plus』 3月上旬～、『ひろしまロード』 4月～、『Hiroshima Person』 4月～、『Wink web』 4月～

(4) その他

2/13～ 広島ホームテレビHP
2/13～ NEWSCAST
3/1～3/31 セブンイレブンマルチコピー機POP
3/1～6/2 NAVIA(街頭ビジョン)
3/8、4/13、5/12 広島交響楽団折り込みチラシ
4/2、3、4 マツダスタジアム大型ビジョン
4/8～4/12 広島ホームテレビ アナウンサーによるカウントダウンSNS配信
5/28～6/2 オリジナル缶バッジ先着10名様
5月 サイネージ(広島銀行、広島産業会館、ふくやま産業会館)
8月下旬 フレンチ料理店 チラシ送付 55店舗
8月下旬 フランス語教室 チラシ送付 4教室

カタログ内容

ごあいさつ

はじめに

ギヨーム・アンブローズ(カンパール美術館館長)

画家たちのブルターニュ

千足伸行(広島県立美術館館長)

フランス・ブルターニュ地方の地図

カタログ

第1章 ブルターニュの風景 豊饒な海と大地

第2章 ブルターニュに集う画家たち 印象派からナビ派へ

第3章 新たな眼差し 多様な表現の探求

コラム

19世紀のサロンにおけるブルターニュ主題の流行

岡坂桜子(SOMPO美術館学芸員)

総合主義の動き

橋本恵里(福島県立美術館学芸員)

色彩の時代に現れた「黒い一団」—バンド・ノワールの画家たち—

深尾茅奈美(静岡市美術館学芸員)

別荘地としてのブルターニュ—モーリス・ドニの私的な楽園—

森万由子

作品リスト



展覧会巡回先

SOMPO美術館 令和5(2023)年3月25日(土)～6月11日(日)
福島県立美術館 令和5(2023)年7月1日(土)～8月27日(日)
静岡市美術館 令和5(2023)年9月5日(火)～10月22日(日)
豊橋市美術博物館 令和6(2024)年3月1日(金)～4月7日(日)

2 金曜ロードショーとジブリ展

会 期／令和6(2024)年7月13日(土)～9月23日(月・休)

※台風の影響により8月30日(金)は臨時休館

主 催／広島県立美術館、広島テレビ、イズミテクノ

共 催／日本テレビ

特別協賛／au(KDDI株式会社)

協 賛／図書印刷

広島展協賛／広島県信用組合、一般財団法人ケンシン地域振興財団

展示協力／ア・ファクトリー

特別協力／スタジオジブリ

入 館 料／一 般 1,800円

高・大学生 1,500円

小・中学生 1,100円

入館者数／215,266人(73日間)



『風の谷のナウシカ』に始まり、数々のスタジオジブリ作品を放映してきた「金曜ロードショー」。本展では、その歩みを辿りながら、スタジオジブリ作品の魅力を紹介。映画の世界に飛び込めるような展示空間や、圧巻のクオリティで“腐海”を表現した「風の谷のナウシカ 王蟲の世界」などにより、幅広い世代から好評を得た。混雑緩和や鑑賞環境の維持等を目的として、当館で初めて日時指定の完全予約制を導入した事例となった。

(本展担当者：藤崎 綾)

関連事業

タペストリー特別展示

フランス・オービュッソン国際タピスリーセンターで製作された「ハウルの動く城(夕暮れの動く城)」大型タペストリーを特別展示。本展にあわせた特別展示で、スタジオジブリ作品タペストリーシリーズの日本初上陸となった。

展示期間：7月2日(火)～9月25日(水)

主要関連番組

(1) テレビ

5/13～ 広島テレビ CM

6/21 広島テレビ 『テレビ派』 特集

7/1 広島テレビ 『テレビ派』 ニュース

7/12 広島テレビ 『テレビ派』 中継

7/25 広島テレビ 昼・夕方ニュース 3万人セレモニー

9/3 広島テレビ 昼・夕方ニュース 15万人セレモニー

8/19 NHK広島放送局 昼ニュース(担当者出演：藤崎)

(2) ラジオ

8/6 FMおのみち『よっちゃんのちょっといい話』(担当者出演：藤崎)



主要関連記事

(1) 新聞

・読売新聞

- 5/15 7月から展覧会
- 7/2 ハウルの大迫力タペストリー
- 7/26 3万人
- 9/4 15万人

・朝日新聞

- 8/13 迫力・繊細「ハウルの動く城」

(2) 雑誌等

『TJ Hiroshima』6月号、『経済レポート』7月号、『くれえばん』7月号、『Wendy』7月号、『Wink』7月号、『ママンベール』7月5日号、『リビングひろしま』7月12日号、『愛媛こまち』8月号、『色絵馬』（広島県立美術館友の会会報）第106号、『せとうちアート通信』vol.9、『日刊広島』8月1日号

(3) WEB

『アートアジェンダ』5月下旬～、『旅やか』5月下旬～、『ひろしまリード』5月下旬～、『Dive Hiroshima』5月下旬～、『Wink web』7月上旬～、『ママンベールWeb』7月下旬～、『リビングひろしま web トップトピックス』7月下旬～、『リビングひろしま web』7月下旬～、『PR TIMS』7月1日～

(4) その他

- 5/10～ 広島テレビHP
- 5/13～ NAVIA(街頭ビジョン)
- 7月～ 広島銀行、広島産業会館、ふくやま産業会館(以上、サイネージ)
- 7/12、13、14、8/3、4、23、24、9/1、7、10、15、16 マツダスタジアム大型ビジョン



カタログ内容

はじめに

スタジオジブリは金曜ロードショーで育った 歴代プロデューサーの証言でたどる、ジブリと「金曜日」が築いた伝統

年表：金曜ロードショーとジブリと日テレ

座談会：奥田誠治×土屋敏男×吉川圭三×岩間玄×高橋望×中村知純×深井英里子×依田謙一×鈴木敏夫 「『日本テレビの社員を超えて』という考え方は、ずっとあります」

インタビュー：造形家・竹谷隆之 朽ちていくものの美～なぜ腐海を創造するのか～
スタジオジブリ全作品 作品解説／スタジオジブリ作品の監督たち／監督たちの言葉

展覧会巡回先(～令和6年度)

| | |
|-----------|--|
| 寺田倉庫 | 令和5(2023)年6月29日(木)～9月24日(日) |
| 富山県美術館 | 令和5(2023)年10月7日(土)～令和6(2024)1月28日(日) |
| 京都市京セラ美術館 | 令和6(2024)年4月12日(金)～6月29日(土) |
| 秋田県立近代美術館 | 令和6(2024)年10月12日(土)～令和7(2025)年1月13日(月・祝) |
| 三重県総合博物館 | 令和7(2025)年1月31日(金)～4月11日(金) |

3 近代日本画の真髄 児玉希望 一千変万化、驚異の筆力展

会 期／令和6(2024)年10月4日(金)～12月1日(日)
※10月28日(月)は休館

主 催／広島県立美術館、中国放送、イズミテクノ、中国新聞社

後 援／広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、
エフエムふくやま、尾道エフエム放送

協 賛／広島県信用組合、一般財団法人ケンシン地域振興財団

助 成／令和6年度地域ゆかりの文化資産を活用した
展覧会支援事業

入 館 料／一 般 1,500円
高・大学生 1,000円
中学生以下無料
※前売・20人以上の団体は200円引き

入館者数／16,201人(58日間)



広島県安芸高田市出身で、昭和の日本画壇を牽引した児玉希望(1898-1971)の回顧展。当館では四半世紀ぶりの開催にあたる。希望は、師の川合玉堂から学んだ狩野派・四条派の技法をもとに、仏画、北宋画、大和絵、花鳥画、浮世絵、歴史画、油彩画、西洋近代絵画風、水墨画、抽象絵画と、画派や画風・画題を横断したことから、「一人の画家のものとは思えない」と評される。希望は、古典への探求や自由な発想、それを表現するための圧倒的な筆力で多彩な画業を展開した。本展では、約120点の希望作品に加え、師の川合玉堂や重鎮・横山大観、盟友・伊東深-waterら関係の深い作家の作品もあわせ、希望の画業を多角的に紹介した。

図録では、画家の生涯や変遷をたどりながら各年代を特徴づける作品を鑑賞できる、読み物的な構成とした。また、希望の幅広い画業についてより深く掘り下げるため、当館の日本画担当学芸員2名に加え、西洋絵画、日本洋画、工芸を専門とする当館の全学芸員が原稿を寄せ、作家研究に深みをもたらすことが出来た。その効果もあり、図録は好評を得て会期途中で完売した。

イベントでは希望の弟子の講演会や水墨画ワークショップの他に、希望の出身地である安芸高田市の協力を得て、当館での神楽の公演や特産品販売、安芸高田市歴史民俗博物館との連携事業として「児玉希望ゆかりの地ツアー」や同市内での講演会等を実施した。また、美術館に隣接する縮景園との連携事業「お庭で鑑賞、児玉希望 ARで繋がる美術館と縮景園」を行った。

事前学習のための資料として、子供向けの広報では前年度に『児玉希望ジュニアガイド』を作成、安芸高田市内の小中学校への配布し、同市での校長会でもPRした結果、安芸高田市内からは全小学校(8校)からの見学があった。また、縮景園を訪れた外国人旅行者向けに英語版のチラシの作成や展覧会の全章解説、作品解説の英訳をした結果、予想をはるかに上回る来館へとつながった。

さまざまな事業を通じて、広島出身画家の自主企画展として、地域文化の振興に寄与する成果を得ることが出来たといえるだろう。

(本展担当者：神内 有理)

関連事業

- (1) 講演会「鬼になれ — 内弟子から見た児玉希望」(広島県立美術館友の会共催)

日 時：11月23日(土・祝) 13:30~15:00

講 師：石原 進(日本画家・日展会員)

会 場：地階講堂

参加者：98人



- (2) 講演会「児玉希望の画業と近代日本画のあゆみ」

日 時：11月2日(土) 13:30~15:00

講 師：神内 有理(当館主任学芸員)

会 場：地階講堂

参加者：65人

- (3) 水墨画ワークショップ「希望に挑戦！絹に描く抽象」

日 時：11月9日(土) 13:30~15:30

講 師：今村 雅弘(広島市立大学芸術学部美術学科日本画専攻教授)、
前田 由芽(同校非常勤助教) 杉浦 沙恵子(同校実習補助員)

会 場：地階講堂

参加者：20人



- (4) 神楽公演 児玉希望の出身地から神楽団がやってくる！

日 時：10月20日(日)①12:30~ ②14:30~

演 目：土蜘蛛

出 演：原田神楽団

会 場：地階講堂

参加者：のべ244人

※同時開催 安芸高田市の特産品販売(当館エントランス/11:00~15:00)

- (5) 学芸員によるギャラリートーク

日 時：10月18日(金)、11月1日(金)、15日(金)各日11:00~、18:00~

(追加実施) 11月22日(金)、29日(金)各日11:00~

会 場：3階企画展示室

参加者：のべ197人

- (6) 児玉希望ゆかりの地ツアー(安芸高田市歴史民俗博物館共催)

日 時：10月27日(日) 13:00~16:30

講 師：秋本 哲治(安芸高田市歴史民俗博物館副館長)、神内 有理(当館主任学芸員)

会 場：安芸高田市内(安芸高田市歴史民俗博物館集合)

参加者：13人

- (7) 展示室からインスタライブ

日 時：10月8日(火)、15日(火)、11月5日(火)、26日(火)各日17:00~

講 師：神内 有理(当館主任学芸員)

会 場：3階企画展示室

参加者：約258人

- (8) 公開講座(安芸高田市歴史民俗博物館)「児玉希望の画業と故郷への想い」

日 時：10月13日(日) 13:30~15:30

講 師：神内 有理(当館主任学芸員)

会 場：安芸高田市民文化センター(クリスタルアージュ) 4階小ホール

参加者：56人

(9) 観光事業者・観光ガイド向け特別鑑賞会

日 時：10月11日(金) 17：00～担当学芸員によるレクチャー 17：10～展示室で鑑賞

講 師：神内 有理(当館主任学芸員)

参加者：37人

(10) 児玉希望ジュニアガイド作成

ガイドブック：A5判24ページ、5,000部

(11) ARフォトフレーム設置

(12) その他関連イベント

ア 縮景園連携企画「お庭で鑑賞、児玉希望 ARで繋がる美術館と縮景園」

美術館と縮景園とをAR(拡張現実)を介して繋げる試みとして、スマートフォン越しに、希望作品の一部を縮景園の景色と重ね合わせることで、新たな鑑賞体験を提供した。

日 時：10月4日(金)～11月17日(日) ※12月1日(日)まで延長 9：00～18：00

場 所：縮景園

利用者：4,635人

イ 縮景園連携企画「美術館から庭へー児玉希望展の担当学芸員によるギャラリートークー」

日 時：10月11日(金) 15：00～16：00

講 師：神内 有理(当館主任学芸員)

会 場：3階企画展示室、縮景園

参加者：15人

ウ 学芸員によるポッドキャスト配信(全2回)

話 者：隅川 明宏(当館主任学芸員)、神内 有理(当館主任学芸員)

エ セとうちアートセミナー(せとうち美術館ネットワーク事務局主催)「日本画家・児玉希望の戦略」

日 時：11月30日(土) 10：30～11：30

講 師：神内 有理(当館主任学芸員)

会 場：地階講堂

主要関連番組

(1) テレビ

8/16 RCC 『ランキンLand!』(担当者出演：神内)

10/4 RCC 開幕ニュース

10/25 RCC 『ランキンLand!』(担当者出演：神内)

11/14 RCC 『イマナマ!』中継(担当者出演：神内)

11/10 NHKアートシーン

11/17 NHKアートシーン(再)

11/21 NHK広島放送局 ニュース(担当者出演：神内)

(2) ラジオ

9/3 RCCラジオ『田口麻衣noみみコミ』(担当者出演：神内)

10/1 RCCラジオ『田口麻衣noみみコミ』

10/4 RCCラジオ ラジオカー 中継(担当者出演：神内)

10/8 RCCラジオ『えんまん。』(担当者出演：神内)



- 10/17 FMはつかいち(担当者出演：神内、山下)
- 10/23 FMおのみち(担当者出演：隅川)
- 10/26 RCCラジオ『週末ナチュラルリスト』(担当者出演：神内)
- 10/27 RCCラジオ『田口麻衣noみみコミ』(担当者出演：神内)
- 10/30 FMふくやま(担当者出演：神内)
- 11/8 RCCラジオ『本名正憲のおはようラジオ』(担当者出演：神内)

主要関連記事

(1) 新聞

・中国新聞

- 8/8 前売り販売開始
- 10/1 特集「風景画や美人画 多彩な創作」
- 10/5 開幕「児玉希望 変幼自在の画風」
- 10/7 安芸高田支局発、講演会や通学路ツアー
- 10/11 (情報交差点)神楽告知
- 10/11 (県北版)高宮中生が挑戦 郷土の画家学ぶ
- 11/1 事業ガイド「千変万化 技光る絵筆」
- 11/7 寄稿「児玉希望 千変万化の画業」(神内)
- 11/9 1万人セレモニー
- 11/13 上「近代にふさわしい山水画」(隅川)
- 11/14 中「突然の美人画 画壇に衝撃」(神内)
- 11/15 下「欧州滞在 水墨画を再発見」(神内)



(新聞広告)

(全3段：8/11、23、26、30、9/12、20、30、10/5、10、14、18、21、25、30、11/7、15)、
 (半3段：9/3、14、18、29、10/23、11/24) (半5段：8/9、9/27、11/29)、
 (ミュージアムで会いましょう9/26)

(2) 雑誌等

『美術の窓』5月20日、『生協チラシ』8月～、『月刊美術』9月号、『Wendy』9月号、『縮景園かわら版』9・10月号、『広島交響楽団第444回定期演奏会プログラム』9月4日号、『CHIC』9月13日発行、『地域創造レター』9月25日号、『くれえばん』10月号、『芸術新潮』10月号、『美術の窓』10月号、『TJ Hiroshima』10月号、『to-you』10月号、『経済春秋』9、10、11月号、『リビングひろしま』11月15日号、『リビングふくやま』11月15日号、『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第107号、『トライアングル』11月号、『安芸高田市広報誌』11月号、『せとうちアート通信』10号、『ふれあい』168号

(3) WEB

『ひろしまDive』8月～、『アートアジェンダ』8月～、『インターネットミュージアム』8月～、『Walker Plus』8月～、『美術手帖』8月～、『ファッションプレス』8月～、『IRAW (RCC)』8月～、『楽天チケット』8月～、『JAFナビ』9月～、『美術展ナビ』9月～、『ひろしま文化大百科』9月～、『ひろしまリビング新聞』10月～

(4) その他

- 5/3～5 フラワーフェスティバル RCCブース掲示
- 8月～ セブンイレブンマルチコピー機POP RCC手配

8/4～ RCC IRAW(RCC運営サイト)
 8/4～12/1 NAVIA(街頭ビジョン)
 9月 小中学生チラシ 安芸高田市小中へ全児童生徒数分発送
 9月 外国人向けチラシ ホテルや交流センター等郵送
 9月～ せとうちアートセミナーチラシ(講演会にあわせて本展概要も掲載)
 9月～ せとうち美術館ネットワーク関連施設でのチラシ配布
 9～11月 サイネージ(広島産業会館・ふくやま産業会館)
 9/6、8、12、20、25 マツダスタジアム大型ビジョン
 9/4、27、10/11、11/3、22 広島交響楽団 折り込みチラシ
 11月 サイネージ(広島銀行)
 会期中 オリジナル缶バッジ中学生以下プレゼント

カタログ内容

ごあいさつ

第1章 誕生！日本画家・児玉希望―玉堂に学ぶ、古典に学ぶ

児玉希望の生い立ち／いざ、東京へ／尾竹竹坡の書生として／川合玉堂に入門／長流画塾での指導内容／希望、玉堂を語る／帝展、初入選／古典との対峙―広島藩浅野家旧蔵の中国絵画との関連性／新興大和絵への関心／戊辰会結成／初の帝展特選作《盛秋》／初の海外展出品／花鳥画の時代／児玉画塾について／漢詩・南画への傾倒／故郷への思い

[コラム1]児玉希望《浅春》にみる中国絵画理解(隅川明宏)

第2章 波瀾！戦時下を生きる―人物画と日本美術及工芸統制協会

人物画への転向／《荊軻》のイメージソース／浮世絵風美人画／鷲・富士・歴史人物／吉川観方の協力／希望と戦争

[コラム2]児玉希望《荊軻》と楽浪文物(岡地智子)

[コラム3]児玉希望《雨晴》と紐育万博の時代(山下寿水)

[コラム4]児玉希望の画室(神内有理)

第3章 対決！日本画滅亡論／「学校派」に抗して

戦後の出発／日本画滅亡論との対峙／日月社の結成／アジア染織の視点から／西洋近代絵画との関連から

第4章 検証！西洋美術との対峙

希望の滞欧戦略／《山の巻》《海の巻》《河の巻》になったスケッチ旅行／ある見方／尋常ならざる向学心／素描の技法から

[コラム5]児玉希望と油絵具(藤崎綾)

[コラム6]児玉希望の渡欧体験(森万由子)

第5章 跳躍！日本画の抽象、その先へ

水墨画宣言／水墨画による抽象／日本画の抽象／抽象化の過程／仏を描く

[コラム7]不忍池弁天堂の天井画《龍》(神内有理)

終幕／故郷へ／絶筆、花鳥画オールスターの饗宴

児玉希望年譜(神内有理編)

主要参考文献(神内有理・三谷幸)

出品目録



4 もしも猫展

会 期／令和6(2024)年12月19日(木)～令和7(2025)年2月9日(日)
※年末年始休館(12月25日～1月1日)
主 催／広島県立美術館、広島テレビ、イズミテクノ、中国新聞社
後 援／中国放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、
エフエムふくやま、尾道エフエム放送
協 賛／広島県信用組合、一般財団法人ケンシン地域振興財団
協 力／名古屋市博物館
入 館 料／一 般 1,500円
高・大学生 1,000円
小・中学生 700円
※前売・20人以上の団体は200円引き
入館者数／17,502人(45日間)



現代のサブカルチャーでは、動物や刀剣を人の姿で表現する擬人化表現が定番となっているが、とりわけ猫のキャラクターは突出している。絵画表現における擬人化自体はすでに平安時代に見られ、室町時代から江戸時代にかけて頻出するようになるが、そのなかで猫が主役となる作例は多くない。ところが明治時代のおもちゃ絵では、猫たちが当たり前のように擬人化の主役となって登場する。明治にいたるまでに、擬人化表現の世界に何が起こったのだろうか？その要因の一つは浮世絵師の歌川国芳(うたがわくによし)にある。江戸時代後期、猫を擬人化した国芳の浮世絵が大ヒット。猫を人間のように描くだけでなく、反対に有名人を猫や亀に変身させた作例さえ少なくない。国芳が斬新だったのはこの点にあり、彼こそが擬人化表現の世界を拓いた存在だといえる。本展では江戸時代の擬人化表現、なかでも猫の表現と歌川国芳がそこに与えた影響を131点の作品を通して紹介した。

(本展担当者：角田 新)

関連事業

- (1) 記念講演会「国芳、猫を描く」
(広島県立美術館友の会共催)
日 時：1月11日(土) 13:30～15:00
講 師：津田 卓子(名古屋市博物館学芸員)
会 場：地階講堂
参加者：101人
- (2) ワークショップ
「江戸のペーパークラフトを作ってみよう」
日 時：1月18日(土) 13:30～15:00
講 師：角田 新(当館主任学芸員)
会 場：地階講堂
参加者：17人



- (3) 学芸員によるギャラリートーク
 日時：12月20日(金)、1月17日(金)、31日(金)
 各日11:00～、18:00～
 講師：角田 新(当館主任学芸員)
 会場：3階企画展示室
 参加者：のべ125人



- (4) 展示室からインスタライブ
 日時：1月7日(火)、14日(火)、28日(火)各日17:00～
 講師：角田 新(当館主任学芸員)
 会場：3階企画展示室
 参加者：のべ201人
- (5) ワークシート配布
 (6) ARフォトフレーム設置



主要関連番組

- (1) テレビ
 10/19～ 広島テレビ CM
 12/18 広島テレビ 前日中継(担当者出演：角田)
 12/19 広島テレビ 開幕ニュース
 1/22 NHK広島放送局 ニュース(担当者出演：角田)
 1/29 広島テレビ 一万人セレモニー
 1/31 広島テレビ『知つとる!』(出演：山下)
- (2) ラジオ
 12/11 FMふくやま(担当者出演：角田)
 1/7 FMおのみち(担当者出演：角田)
 1/13～16 広島FM



主要関連記事

- (1) 新聞
 ・中国新聞
 10/19 前売り販売開始
 12/15 特集「ニャンと奥深い人間の世界」
 12/20 開幕
 1/10 事業ガイド「猫を擬人化 ユーモラス」
 1/23 寄稿「擬人化 歌川国芳の心意気」(角田)
 1/28 講演会 国芳の魅力「発想の豊かさ」
 1/30 1万人セレモニー
 (新聞広告)
 (全3段：11/12、21、25、12/5、13、1/20、2/3)、
 (半3段：11/18、30、12/11、1/4、13)、(半5段：11/26、1/29、2/7)
- ・読売新聞
 12/20 ギャラリー

- 1 / 1 国芳 猫愛の絵
- 1 / 11 緒方かな子コラム 猫の擬人化魅せられて
- 1 / 30 1万人セレモニー

・山口新聞

12 / 12

(2) 雑誌等

『縮景園かわら版』9・10月号、『生協チラシ』11月～、『リビングふくやま』11月15日号、『to you』12月号、『TJ Hiroshima』12月号、『Wendy』12月号、『Wink』12月号、『経済春秋』1・2月号、『CHIC』12月15日発行、『リビングひろしま』12月20日号、『アートコレクターズ』1月号、『くれえばん』1月号、『美術の窓』1月号、『Grande』冬号、『色絵馬』（広島県立美術館友の会会報）第107号

(3) WEB

『楽天チケット』10月19日～、『アートアジェンダ』11月～、『Walker Plus』11月～、『JAFナビ』11月～、『美術手帖』11月～、『ファッションプレス』11月～、『美術展ナビ』11月～、『インターネットミュージアム』11月～、『ひろしまリビング新聞』12月～、『Dive! Hiroshima』12月～

(4) その他

12 / 19～ JR芸備線志和口駅チラシ配架 ※猫駅長とコラボ

10 / 19～ 2 / 9 NAVIA(街頭ビジョン)

12月 サイネージ(広島産業会館、ふくやま産業会館、広島銀行)

9 / 4、27、10 / 11、11 / 3、22 広島交響楽団折り込みチラシ

カタログ内容

ごあいさつ

国芳、人になった猫を描く 津田卓子

序章 猫を描く人

第1章 くらべてみる

第2章 擬人化の効能

第3章 おこまものがたり

第4章 人、猫になる

特集 おしゃべりな顔、百面相

第5章 国芳のまなざし

終章 もしも…。

コラム 01擬人化を描くには、02擬人化なのか、03おこまでくらべてみる、04生まれ変わる「おこまものがたり」、05女性と猫、06江戸の犬から猫を見る、07記号になった役者、08顔をくらべてみる、09もしも雀だったら

主要参考文献

関連年表

作品リスト



展覧会巡回先

名古屋市博物館 令和4(2022)年7月2日(土)～8月21日(日)

京都府立京都文化博物館 令和5(2023)年9月23日(土)～11月12日(日)

新潟市美術館 令和6(2024)年4月13日(土)～6月2日(日)

5 第71回日本伝統工芸展

会 期／令和7(2025)年2月19日(水)～3月9日(日)
主 催／広島県、広島県教育委員会、広島県立美術館、
NHK広島放送局、朝日新聞社、公益社団法人日本工芸会
後 援／文化庁
協 賛／マツダ株式会社、株式会社ヒロタニ、株式会社ヒロテック
入 館 料／一 般 700円
高・大学生 400円
中学生以下無料
※前売・20人以上の団体は200円引き
入館者数／9,101人(19日間)



日本伝統工芸展は、日本の風土の中から生まれた世界に誇る工芸技術を発展継承させることを目的に、昭和29年に創設された。伝統的な「わざ」をベースとしながら、今日の生活に合った新たな技術、新たな表現を築き上げることを目標としている。広島展では、陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、諸工芸の各部門から、広島在住作家の入選作7点を含む278点を展示し、広く県民に鑑賞の機会を提供することにより、伝統工芸に対する理解を深め、地域文化の向上に資することに努めた。

(本展担当者：岡地 智子)

広島県在住入選者

陶 芸 木村 芳郎《碧釉漣文器「ハテナキ」》
染 織 山城 直子《型絵染着物「クレーンのある風景」》
漆 芸 金城一国斎《切金螺鈿箱「萩小径」》、高山 尚也《乾漆鉢「とわ」》
木竹工 小林 松斎《枳拭漆盛器》
金 工 河田 歩里《切嵌象嵌接合せ箱「春終雨」》
諸工芸 粟根 仁志《七宝箱「聖風」》

関連事業

- (1) 記念講演会「日本伝統工芸展と私の仕事」
(広島県立美術館友の会共催)
日 時：2月24日(月・振休) 13:30～15:00
講 師：須田 賢司
(重要無形文化財「木工芸」保持者)
会 場：地階講堂
参加者：61人



- (2) 実は先輩×後輩！対談「広島市立大学出身の金工作家が語る、学生時代の思い出と創作の裏側」

日 時：2月22日(土) 13:30~14:30

講 師：佐故 龍平(2002年博士前期課程修了、金工作家)、
河田 歩里(博士前期課程2年、金工作家)

会 場：地階講堂

参加者：40人



- (3) 出品作家と学芸員によるギャラリートーク

| | | |
|---------------|---------|-----|
| 日 時(各日11:00~) | 講 師(内容) | 参加者 |
|---------------|---------|-----|

| | | |
|----------|-------------------|-----|
| 2月21日(金) | 岡地 智子(全般・当館主任学芸員) | 59人 |
|----------|-------------------|-----|

| | | |
|----------|-------------|-----|
| 2月22日(土) | 栗根 仁志(七宝作家) | 32人 |
|----------|-------------|-----|

| | | |
|------------|------------|-----|
| 2月23日(日・祝) | 金城一国斎(漆芸家) | 95人 |
|------------|------------|-----|

| | | |
|----------|------------------|-----|
| 2月28日(金) | 福田 浩子(染織・当館学芸課長) | 35人 |
|----------|------------------|-----|

| | | |
|---------|------------|-----|
| 3月1日(土) | 井戸川 豊(陶芸家) | 52人 |
|---------|------------|-----|

| | | |
|---------|------------|------|
| 3月2日(日) | 木村 芳郎(陶芸家) | 112人 |
|---------|------------|------|

| | | |
|---------|-------------|-----|
| 3月8日(土) | 小林 松斎(木工作家) | 40人 |
|---------|-------------|-----|

会 場：3階企画展示室

- (4) 学芸員によるインスタライブ

日 時：2月19日(水) 17:00~

講 師：岡地 智子(当館主任学芸員)

会 場：3階企画展示室

参加者：66人

- (5) 子ども鑑賞コース 出張授業

| | | |
|-----|-------------|-----|
| 日 付 | 学校・学年(参加人数) | 講 師 |
|-----|-------------|-----|

| | | |
|-----------|---------------------|-----------|
| 10月18日(金) | 三原市立沼田小学校5・6年生(15人) | 金城一国斎(漆芸) |
|-----------|---------------------|-----------|

| | | |
|----------|--------------------|-----------|
| 1月21日(火) | 広島市立中筋小学校4年生(106人) | 小林 松斎(木工) |
|----------|--------------------|-----------|



- (6) 子ども鑑賞コース ワークショップ「ギャラリートークに挑戦しよう！」

日 時：2月23日(日・祝) 13:00~16:00

講 師：福田 浩子(当館学芸課長)、岡地 智子(当館主任学芸員)

会 場：3階大会議室、3階企画展示室

参加者：4人(小学2年生~中学1年生) ※ギャラリートーク聴講15人

- (7) 中学生による職場体験学習「展示プランの立案」

日 付：1月23日(木)

講 師：岡地 智子(当館主任学芸員)

参加者：6人(広島市立中広中学校2年生)

- (8) こども鑑賞ガイドブック作成
ガイドブック：A5判16ページ、3,000部



- (9) ARフォトフレーム設置
(10) その他関連イベント

ア 広島会場限定展覧会オリジナルスイーツの制作・販売

地元のチョコレート専門店(六感chocolate/広島市中区)の協力を得て、日本工芸会保持者賞受賞作品をイメージしたケーキを制作・販売した。

期 間：2月19日(水)～28日(金) ※ 1日10食限定

価 格：1,300円(ケーキセット)

イ 学芸員によるポッドキャスト配信

話 者：福田 浩子(当館学芸課長)、岡地 智子(当館主任学芸員)



主要関連番組

- (1) テレビ
- 2/19 NHK広島放送局 開幕ニュース(担当者出演：岡地)
 - 2/19 NHK広島放送局 『お好みワイドひろしま』
 - 2/22 NHK広島放送局 『日曜美術館』再放送(広島県内向け)

主要関連記事

- (1) 新聞
- ・朝日新聞
 - 10/19 「形のないもの表現 すごい」漆芸の伝統技法 三原で出張授業
 - 1/22 ろくろ細工 手触り体感 伝統工芸展 入選作家が出張授業
 - 1/28 社告
 - 2/4 受賞作、ケーキで表現 県立美術館で販売
 - 2/16 技の結晶 磨き上げた美(作家インタビュー：佐故龍平、河田歩里)
 - 2/18 作品解説1 井戸川豊《銀泥彩磁鬼灯文鉢》(岡地)
 - 2/19 作品解説2 木村芳郎《碧釉漣文器「ハテナキ」》(福田)
 - 2/20 開幕記事「美意識の結晶 広島にずらり」

- 2/21 作品解説3 山城直子《型絵染着物「クレーンのある風景」》(岡地)
- 2/22 作品解説4 金城 一国齋《萩小径》(福田)
- 2/23 作品解説5 高山尚也《乾漆鉢「とわ」》(福田)
- 2/23 伝統工芸展入選 先輩と後輩対談 広島市立大出身の2人
- 2/24 学芸員なりきり作品解説に挑戦 小中学生 県立美術館で
- 2/24 作品解説6 河田歩里《切嵌象嵌接合せ箱「春終雨」》(岡地)
- 2/26 作品解説7 小林松齋《枳拭漆盛器》(岡地)
- 2/28 作品解説8 栗根 仁志《七宝箱「聖風」》(角田)

(新聞広告)

広島県版：全7段2/13、全5段2/9、半5段2/11、18、22、24、3/5

(折込チラシ)2/15

・中国新聞

3/1 匠の洗練された技集結 広島で日本伝統工芸展

(2) 雑誌等

『to-you』2月号、『Wendy』2月号、『Wink』2月号、『くれえばん』2月号、『サンデー周南』2月号、『広島交響楽団第448回定期演奏会プログラム』2月15日号、『TJ Hiroshima』3月号、『月刊経済春秋』3月号、『せとうちアート通信』vol.11、『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第108号

(3) WEB

『NHK広島ホームページ』、『じゃらんnet』、『JR西日本』、『Dive! Hiroshima』、『美術手帖』、『アートアジェンダ・インターネットミュージアム』

カタログ内容

趣旨

出品目録

出品作品図版

特別展示「わざを伝える」文化財保存事業報告 「友禅」伝承者養成研修会
第71日本伝統工芸展入選作品及び受賞作品の決定について

展覧会巡回先

| | | |
|-----|---------------------------------|------------|
| 東京 | 令和6(2024)年9月11日(水)～9月23日(月・振休) | 日本橋三越本店 |
| 京都 | 令和6(2024)年10月9日(水)～10月14日(月・祝) | 京都高島屋 |
| 大阪 | 令和6(2024)年10月16日(水)～10月21日(月) | 大阪高島屋 |
| 金沢 | 令和6(2024)年10月25日(金)～11月4日(月・振休) | 石川県立美術館 |
| 岡山 | 令和6(2024)年11月21日(木)～12月8日(日) | 岡山県立美術館 |
| 松江 | 令和6(2024)年12月11日(水)～12月25日(水) | 島根県立美術館 |
| 高松 | 令和7(2025)年1月2日(木)～1月19日(日) | 香川県立ミュージアム |
| 仙台 | 令和7(2025)年1月23日(木)～1月27日(月) | 仙台三越 |
| 福岡 | 令和7(2025)年2月5日(水)～2月10日(月) | 福岡三越 |
| 名古屋 | 令和7(2025)年2月13日(木)～2月16日(日) | 古川美術館 |

所蔵作品展

当館では、5,000点を超える所蔵作品の中から、当館の所蔵作品や研究成果を生かした所蔵作品展を年に4回開催している。ただし、令和6年度においては、展示室内のLED工事実施のため1月～3月を休室とし、4月～12月の期間を第1期～第3期に分けて実施した。

所蔵作品展第1期では、特別展「ブルターニュの光と風」にちなみ、「光と風の世界」というテーマによって展示を構成。印象派のように「光」を表現した油彩画、「光」を受けて輝くガラスや螺鈿、吹きすさむ「風」を表現した日本画などを出品した。

第2期では、「サマーミュージアム 美術の教科書! 「あの作品、あの作家」と出会う、学ぶ」と題して、「教科書」という切り口のもと、実際の教科書に掲載された当館の作品などを交えながら、美術の面白さを分かりやすく紹介しようと試みた。会期中にはワークシートを配布し、展示室内にはスケッチコーナーや(次回特別展である)児玉希望展予習テストなども設け、子どもたちが親しみながら楽しめる展示を目指した。

第3期では、昨年に引き続き、所蔵作品を深掘りして紹介する「コレクション・フォーカス」を実施し、魅力発信に努めた。このたびの第2回目では、「山路商-戦前期広島の前衛精神」を開催。山路商の作品については、借用作品も含め、42点出品し、関連資料も交えながら山路商の画業を可能な限り紹介した。また、同時期に開催中の特別展と連動して、「伝統と革新-児玉希望展にちなんで」も実施。この時期には、縮景園連携企画「お庭で鑑賞、児玉希望 ARで繋がる美術館と縮景園」を児玉希望展(10月4日～12月1日)の開催に合わせて実施し、縮景園との相互連携にも努めた。

また、令和3年度の秋期に開設したウェルカムギャラリー(彫刻展示スペース)では、「これが、県美の広島愛。」というテーマを継続して実施。引き続き音声ガイドシステム(CO3Audio Tour)によって英語でのガイドも可能とした。

こうした取組と併せて、リレートークやインスタライブ、対話によるギャラリートークやワークショップなどのイベントも各期で実施し、所蔵作品の魅力発信に努めた。また、LED工事による閉室期間中には、オンラインイベントとしてインスタライブ「美術館のひみつ」を7回連続で実施。各学芸員が普段は見られない美術館の裏側を紹介した。

特別展と連動したテーマを各期で設けつつ、「コレクション・フォーカス」のみならず、所蔵作品・作家の情報発信に繋がるような活動に幅広く取り組んだ一年であった。

(総括担当者：山下 寿水)

第1期

光と風の世界

令和6年4月26日(金)～7月15日(月・祝)

前期：4月26日(金)～6月9日(日)

後期：6月11日(火)～7月15日(月・祝)

ウェルカムギャラリー

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 員数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|-------|-----------|--------------|----------------------------|------------------|---------|-----|---------|------|
| 1 | 平橋 田中 | 1872-1979 | 西山逍遥 | 1964(昭和39) | 高62.5 | 木・彩色 | 1 軀 | | |
| 2 | 小林 千古 | 1870-1911 | 自画像 | 1903-1905 (明治36-38)頃 | 67.5×58.0 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 3 | 南 薫造 | 1883-1950 | 小童 | 1909(明治42) | 60.5×49.8 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 4 | 麩 光 | 1907-1946 | コミサ(洋傘による少女) | 1929(昭和4) | 80.0×65.0 | 油彩・画布 | 1 面 | 第7回槐樹社展 | |
| 5 | 児玉 希望 | 1898-1971 | 室内 | 1952(昭和27) | 171.0×131.0 | 絹本彩色 | 1 面 | 第8回日展 | |
| 6 | 奥田 元宋 | 1912-2003 | 泉響 | 1963(昭和38) | 259.1×193.9 | 紙本彩色 | 1 面 | 第6回新日展 | |
| 7 | 平山 郁夫 | 1930-2009 | 家路 | 1953(昭和28) | 146.0×206.0 | 紙本彩色 | 1 面 | 第38回院展 | |
| 8 | 圓鏝 勝三 | 1905-2003 | 途上 | 1941(昭和16)、 鑄造1994(平成6) | 高169.0×82.0×51.5 | ブロンズ | 1 軀 | | |
| 9 | 六角 紫水 | 1867-1950 | 線のすさび 鳥と波文香盆 | | 高1.9 径25.5 | 漆・漆絵・彫刻 | 1 枚 | | |
| 10 | 清水 南山 | 1875-1948 | 花卉文壺 | 1926(大正15) | 高16.0 径12.2 | 銅・彫金 | 1 口 | | |
| 11 | 今井 政之 | 1930-2023 | 象嵌彩窯変 海老 花瓶 | 2023(令和5) | 高23.5 径14.0 | 陶器 | 1 口 | | |

第1室 西洋美術にみる光と風

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 員数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|----------------|-----------|-------------------------------|----------------------|-------------|-------------------------------|-----------------|-------------|----------|
| 12 | レンブラント・ファン・レイン | 1606-1669 | 羊飼いたちへの告知 | 1820頃 (オリジナル1634) | 26.2×21.8 | エッチング・エンクレーヴィング・ ドライポイント・紙 | 1 面 | | |
| 13 | アリストイード・マイヨール | 1861-1944 | ウェルギリウスの農耕歌 | 1937-1944(1950出版) | 33.7×25.3 | 木版・紙 | 144面のうち 各期5面 | | 前期 後期 |
| 14 | ジョルジュ・ルオー | 1871-1958 | 受難(パッション) | 1935-1936(1939出版) | 45.5×35.0 | 木口木版・紙・挿画本 | 1 冊 | | |
| 15 | ジョルジュ・ルオー | | 受難(パッション) | 1935-1936(1940出版) | 45.5×34.5 | 多色刷り銅版・紙 | 17面のうち 各期3面 | | 前期 後期 |
| 16 | ライオネル・フィンガー | 1871-1956 | バウハウス宣言書表紙 | 1919 | 30.5×18.5 | 木版・紙 | 1 面 | | 前期 |
| 17 | ライオネル・フィンガー | | バウハウス版 新ヨーロッパ版画集 第1集 海辺の別荘 | 1921 | 32.7×38.2 | 木版・紙 | 1 面 | | 後期 |
| 18 | ライオネル・フィンガー | | 海辺の夕暮 | 1927 | 45.0×77.0 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 19 | マン・レイ | 1890-1976 | カサッティ侯爵夫人/わが魂の肖像 | 1922 | 29.2×21.2 | ゼラチン・シルバー・プリント | 1 面 | | 前期 |
| 20 | マン・レイ | | スード/ソラリゼーション | 1930 | 29.0×21.3 | ゼラチン・シルバー・プリント | 1 面 | | 前期 |
| 21 | マン・レイ | | 写真機のあるセルフポートレイト | 1932 | 29.7×20.3 | ゼラチン・シルバー・プリント | 1 面 | | 前期 |
| 22 | マン・レイ | | 理性への回帰 | 1923 | 28.4×22.6 | ゼラチン・シルバー・プリント | 1 面 | | 後期 |
| 23 | マン・レイ | | ランプのあるセルフポートレイト/ ソラリゼーション | 1934 | 28.5×20.9 | ゼラチン・シルバー・プリント | 1 面 | | 後期 |
| 24 | マン・レイ | | 「マン・レイ写真 1920～1934」 の中の写真 | | 35.2×24.8 | ゼラチン・シルバー・プリント | 1 面 | | 後期 |
| 25 | アレクサンダー・コルダー | 1898-1976 | ヴァーティカル・ホワイト・フレーム | 1936 | 高265.4 | 金属・ワイヤー・パネ・木 | 1 点 | | |
| 26 | サルバドール・ダリ | 1904-1989 | ヴィーナスの夢 | 1939 | 243.8×487.6 | 油彩・画布・パネル | 1 面 | ニューヨーク万国博覧会 | |
| 27 | サルバドール・ダリ | | マルドロールの歌 | 1934 | 32.5×25.0 | エッチング・紙・挿画本 | 30面のうち 各期2面 | | 前期 後期 |

第2室 日本洋画と彫刻に見る光と風

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 員数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|--------|-----------|-----------|--------------------------|------------------|-------|-----|----------|------|
| 28 | 小林 千古 | 1870-1911 | やし(静物) | 1893(明治26) | 34.0×44.0 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 29 | 井上 完 | 1882-1928 | 母と娘 | 1920(大正9) | 130.0×97.0 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 30 | 南 薫造 | 1883-1950 | 白壁の農家 | 1908(明治41) | 75.5×101.0 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 31 | 南 薫造 | | ハンモック2 | | 24.2×32.6 | 水彩・紙 | 1 面 | | 前期 |
| 32 | 南 薫造 | | 風景(新橋) | 1930(昭和5) | 31.0×41.0 | 油彩・板 | 1 面 | | |
| 33 | 南 薫造 | | 水辺彩屋 | 1939(昭和14) | 24.2×32.6 | 水彩・紙 | 1 面 | | 後期 |
| 34 | 南 薫造 | | 曝書 | 1946(昭和21) | 65.1×80.3 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 35 | 和田 三造 | 1883-1967 | 風景(パリ) | 1909-1915 (明治42-大正4)頃 | 62.5×37.5 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 36 | 小林徳三郎 | 1884-1949 | 港のみえる風景 | | 29.8×23.1 | 木版・紙 | 1 面 | | 前期 |
| 37 | 小林徳三郎 | | 港 | | 23.1×33.0 | 木版・紙 | 1 面 | | 後期 |
| 38 | 小早川篤四郎 | 1893-1959 | 中国連山(那岐山) | 1951(昭和26) | 72.7×90.9 | 油彩・画布 | 1 面 | 第17回東光会展 | |
| 39 | 緒方 亮平 | 1901-1979 | 鞆の港 | | 85.5×99.0 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 40 | 名柄 正之 | 1903-1997 | 風景(宇品線風景) | 1939(昭和14) | 49.0×64.0 | 水彩・紙 | 1 面 | | 前期 |
| 41 | 名柄 正之 | | 風景(鉄道駅) | 1940(昭和15)頃 | 52.0×65.0 | 水彩・紙 | 1 面 | | 後期 |
| 42 | 森野 圓象 | 1903-1989 | 静かな海 | 1975(昭和50) | 高200.0×53.0×42.0 | 木・彩色 | 1 点 | 第7回改組日展 | |

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 員数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|-------|-----------|-------------------------|------------|------------------|---------|----|-----------------|------|
| 43 | 村井 正誠 | 1905-1999 | スエズの朝 | 1932(昭和7) | 46.0×55.0 | 油彩・画布 | 1面 | 個展(34紀伊国屋ギャラリー) | |
| 44 | 圓鏝 勝三 | 1905-2003 | こかげ | 1974(昭和49) | 高123.5×77.0×48.0 | ブロンズ | 1点 | 第6回改組日展 | |
| 45 | 檜山 武夫 | 1906-1932 | 風景(煙突の見える) | | 24.3×32.9 | 油彩・ボード | 1面 | | |
| 46 | 松井 正 | 1906-1993 | 瓦焼風景 | 1933(昭和8) | 130.3×162.2 | 油彩・画布 | 1面 | 第20回二科展 | |
| 47 | 舘 光 | 1907-1946 | 窓辺の花(百合) | 1944(昭和19) | 71.0×59.0 | 油彩・画布 | 1面 | | |
| 48 | 舘 光 | | 風景 | 1944(昭和19) | 41.0×52.5 | 油彩・画布 | 1面 | | |
| 49 | 大野 五郎 | 1910-2006 | あかさびた風景 | 1953(昭和28) | 61.5×116.5 | 油彩・画布 | 1面 | 第2回日本国際美術展 | |
| 50 | 寺田 政明 | 1912-1989 | 月光によりて | 1943(昭和18) | 31.8×40.9 | 油彩・板 | 1面 | 新人画会展 | |
| 51 | 菅井 汲 | 1919-1996 | SOLEIL ET SOLEIL(太陽と太陽) | 1968(昭和43) | 114.2×192.6 | アクリル・画布 | 1面 | | |
| 52 | 菅井 汲 | | SOLEIL BLEU(青い太陽) | 1969(昭和44) | 235.5×236.0 | アクリル・画布 | 1面 | | |
| 53 | 菅井 汲 | | SOLEIL NO BLANC(太陽 白) | 1969(昭和44) | 150.0×150.0 | アクリル・画布 | 1面 | | |
| 54 | 峯田 敏郎 | 1939- | 記念撮影-終わらないアンコール・09のエリア | 2009(平成21) | 100.0×130.0×80.0 | 木・彩色 | 1点 | | |
| 55 | 入野 忠芳 | 1939-2013 | 風成 94- 5 | 1994(平成6) | 162.1×162.1 | 油彩・画布 | 1面 | アジアひろしま美術大賞展 大賞 | |

第3室 日本画に見る光と風

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 員数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|-------|-----------|------------|------------|--------------|--------|------|-------------|------|
| 56 | 橋本 雅邦 | 1835-1908 | 風神雷神 | 1895(明治28) | 各138.0×52.0 | 絹本彩色 | 2幅 | | 前期 |
| 57 | 橋本 雅邦 | | 竜虎争気 | | 各126.0×50.0 | 絹本墨画淡彩 | 2幅 | | 後期 |
| 58 | 里見 雲嶺 | 1849-1928 | 三保松原図 | | 122.7×252.6 | 紙本彩色 | 6曲1隻 | | |
| 59 | 竹内 栖鳳 | 1864-1942 | 城址 | 1924(大正13) | 80.6×94.2 | 紙本墨画淡彩 | 1幅 | 第1回淡交会展 | |
| 60 | 川合 玉堂 | 1873-1957 | 浦の春 | 1934(昭和9) | 41.9×56.5 | 絹本彩色 | 1幅 | 東西大家密画小品展覧会 | |
| 61 | 北野 恒富 | 1880-1947 | 風 | 1917(大正6) | 155.0×172.0 | 絹本彩色 | 2曲1隻 | 第3回大阪美術展 | |
| 62 | 土田 麦僊 | 1887-1936 | 早春図 | 1913(大正2)頃 | 114.5×36.5 | 絹本彩色 | 1幅 | | 後期 |
| 63 | 金島 桂華 | 1892-1974 | 水の月 | 1950(昭和25) | 88.0×124.0 | 紙本彩色 | 1面 | 第6回日展 | |
| 64 | 金島 桂華 | | 牡丹 | 1948(昭和23) | 各163.0×171.0 | 紙本彩色 | 2曲1双 | 第4回日展 | |
| 65 | 速水 御舟 | 1894-1935 | 隠岐の海 | 1914(大正3) | 113.0×42.2 | 絹本彩色 | 1幅 | 第1回赤曜会展 | 前期 |
| 66 | 猪原 大華 | 1897-1980 | 月 | 1956(昭和31) | 180.0×140.7 | 紙本彩色 | 1面 | 第12回日展 | |
| 67 | 片田 天玲 | 1897-1985 | 彼岸まえ | 1967(昭和42) | 169.0×180.0 | 紙本彩色 | 1面 | 第8回日本南画院展 | |
| 68 | 児玉 希望 | 1898-1971 | 山下橋付近 | 1956(昭和31) | 60.0×72.5 | 紙本金泥墨画 | 1面 | 第7回日月社展 | |
| 69 | 片山 牧羊 | 1900-1937 | おぼろ | 1927(昭和2) | 244.8×173.0 | 絹本彩色 | 1面 | 第8回帝展(特選) | |
| 70 | 佐々木邦彦 | 1909-1972 | 峙峰 | 1970(昭和45) | 80.5×116.8 | 紙本彩色 | 1面 | | |
| 71 | 船田 玉樹 | 1912-1991 | 残照 | 1956(昭和31) | 236.0×206.0 | 紙本彩色 | 1面 | 第41回院展 | |
| 72 | 塩出 英雄 | 1912-2001 | 春山 | 1969(昭和44) | 176.0×242.0 | 紙本彩色 | 1幅 | 第54回院展 | |
| 73 | 佐藤 太清 | 1913-2004 | 東大寺暮雪 | 1975(昭和50) | 223.0×168.0 | 紙本彩色 | 1面 | 第7回改組日展 | |
| 74 | 山中 雪人 | 1920-2003 | 定光仏(シヨトラク) | 1979(昭和54) | 211.8×166.2 | 紙本彩色 | 1面 | 第64回院展 | |
| 75 | 桑原 清明 | 1923-2007 | 巴峽の朝 | 1968(昭和43) | 165.0×225.0 | 紙本彩色 | 1面 | 第11回新日展 | |
| 76 | 其阿弥赫土 | 1925- | 晩秋の記録 | 1974(昭和49) | 154.0×123.7 | 紙本彩色 | 1面 | | |
| 77 | 平山 郁夫 | 1930-2009 | みのり | 1961(昭和36) | 152.0×60.0 | 紙本彩色 | 1面 | 第16回春の院展 | |

第4室 工芸に見る光と風

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 員数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|-------|-----------|---------------------------|-------------|------------------|---------|------|-------------|------|
| 78 | | | 重要文化財 伊万里色絵花卉文輪花鉢(柿右衛門様式) | 江戸時代 17世紀後半 | 高11.5 口径24.4 | 磁器・色絵 | 1口 | | |
| 79 | | | 伊万里柿右衛門様式色絵馬 | 江戸時代 17世紀後半 | 高44.3 | 磁器・色絵 | 1軀 | | |
| 80 | | | 伊万里柿右衛門様式色絵馬 | 江戸時代 17世紀後半 | 高45.0 | 磁器・色絵 | 1軀 | | |
| 81 | 高中 惣六 | 1899-1974 | 乾漆菓子器 | 1971(昭和46) | 高8.0 径26.0 | 漆・乾漆・螺鈿 | 1口 | 第18回日本伝統工芸展 | |
| 82 | 高中 惣六 | | 乾漆青貝平鉢 | | 高3.8 径40.5 | 漆・乾漆・螺鈿 | 1口 | | |
| 83 | 黒田 辰秋 | 1904-1982 | 耀貝螺鈿飾筐 | 1981(昭和56) | 高19.0 15.5×30.5 | 木・漆・螺鈿 | 1合 | | |
| 84 | 黒田 辰秋 | | 朱沃地大名蒔飾筐 | 1982(昭和57) | 高22.5 17.0×33.5 | 木・漆・螺鈿 | 1合 | | |
| 85 | 藤田 喬平 | 1921-2004 | 飾宮「湖上の花」 | 1989(平成元) | 高26.5 23.2×23.2 | ガラス | 1合 | | |
| 86 | 藤田 喬平 | | 飾宮「夢殿」 | 1990(平成2) | 高16.2 24.0×30.0 | ガラス | 1合 | | |
| 87 | 杉谷 富代 | 1924-2012 | 風の記憶 | 1980(昭和55)頃 | 165.3×165.0 | 染 | 3曲1隻 | | |
| 88 | 益田 芳徳 | 1934-2010 | 風発A | 1989(平成元) | 高43.5 幅65.0 | ガラス | 1点 | | |
| 89 | 益田 芳徳 | | 記憶I | 1990(平成2) | 高24.0 65.0×43.5 | ガラス | 1点 | | |
| 90 | 益田 芳徳 | | 孤 | 1978(昭和53) | 高36.0 径(長さ) 20.0 | ガラス | 1点 | | |
| 91 | 船木 倭帆 | 1935-2013 | 垂描文鉢 | | 高19.4 径25.3 | 吹きガラス | 1口 | | |
| 92 | 船木 倭帆 | | 花文鉢 | | 高8.9 径26.5 | 吹きガラス | 1口 | | |

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 員数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|-------|-------|---------------|------------|-----------------|---------|----|----------------------|------|
| 93 | 船木 倭帆 | | 翼文鉢 | | 高8.0 径23.3 | 吹きガラス | 1口 | | |
| 94 | 船木 倭帆 | | 巴皿 | | 高1.4 径20.5 | 吹きガラス | 1口 | | |
| 95 | 船木 倭帆 | | 巴皿 | | 高2.2 径20.0 | 吹きガラス | 1口 | | |
| 96 | 船木 倭帆 | | 巴皿 | | 高2.0 径20.7 | 吹きガラス | 1口 | | |
| 97 | 船木 倭帆 | | リーフ文花瓶 | | 高27.8 径15.5 | 吹きガラス | 1口 | | |
| 98 | 船木 倭帆 | | 渦巻プラント花瓶 | | 高23.7 径15.0 | 吹きガラス | 1口 | | |
| 99 | 船木 倭帆 | | 線巻プラント花瓶 | | 高26.3 径10.2 | 吹きガラス | 1口 | | |
| 100 | 船木 倭帆 | | モール花瓶 | | 高25.4 径13.5 | 吹きガラス | 1口 | | |
| 101 | 船木 倭帆 | | 飾双耳一輪挿し | | 高18.0 幅9.8 | 吹きガラス | 1口 | | |
| 102 | 船木 倭帆 | | 線巻蓋物 | | 高13.6 径11.0 | 吹きガラス | 1合 | | |
| 103 | 船木 倭帆 | | 線巻蓋物 | | 高15.4 径12.8 | 吹きガラス | 1合 | | |
| 104 | 船木 倭帆 | | カラーモール筆立 | | 高11.9 径7.5 | 吹きガラス | 1口 | | |
| 105 | 船木 倭帆 | | インク壺 | | 高9.8 径6.0 | 吹きガラス | 1合 | | |
| 106 | 船木 倭帆 | | 栓付角瓶 | | 高25.7 幅7.5 | 吹きガラス | 1合 | | |
| 107 | 船木 倭帆 | | 線巻レーマー杯 | | 高11.8 径7.5 | 吹きガラス | 1口 | | |
| 108 | 船木 倭帆 | | イチゴプラントレーマー杯 | | 高16.8 径8.3 | 吹きガラス | 1口 | | |
| 109 | 船木 倭帆 | | イチゴプラントレーマー杯 | | 高14.7 径7.5 | 吹きガラス | 1口 | | |
| 110 | 船木 倭帆 | | アラレモール脚ワイングラス | | 高15.0 径7.0 | 吹きガラス | 1口 | | |
| 111 | 船木 倭帆 | | モール脚ワイングラス | | 高13.6 径6.7 | 吹きガラス | 1口 | | |
| 112 | 船木 倭帆 | | カラーツイストワイングラス | | 高20.0 径7.5 | 吹きガラス | 1口 | | |
| 113 | 船木 倭帆 | | ツイスト脚ワイングラス | | 高16.8 径6.6 | 吹きガラス | 1口 | | |
| 114 | 宮永 理吉 | 1935- | 風の眼差し | 2004(平成16) | 高45.0 20.0×21.0 | 青磁 | 1点 | 個展(ギャラリー なかむら、京都) | |
| 115 | 奥田小由女 | 1936- | 孤愁 | 1975(昭和50) | 33.5×82.0×44.5 | 木・桐粉・胡粉 | 1体 | 第7回改組日展 | |
| 116 | 渡辺 溥子 | 1938- | 紬織着物「薫風」 | 1974(昭和49) | 桁63.0 丈167.0 | 絹・紬・緯緋 | 1領 | 第11回日本伝統工芸展 | |
| 117 | 渡辺 溥子 | | 紬織着物「光彩」 | 2002(平成14) | 桁67.0 丈172.5 | 絹・紬・経緯緋 | 1領 | 第49回日本伝統工芸展 | |
| 118 | 笹山 忠保 | 1939- | 風の標識 | 1979(昭和54) | 高70.0 67.0×31.0 | 陶器 | 1点 | | |
| 119 | 森口 邦彦 | 1941- | 友禅訪問着「光波」 | 1989(平成元) | 桁64.2 丈173.0 | 絹・友禅染 | 1領 | 第36回日本伝統工芸展 | |

関連事業

(1) リレートーク

日 時：5月10日(金) 15:00～

講 師：藤崎 綾(当館主任学芸員)、
神内 有理(当館主任学芸員)、
岡地 智子(当館主任学芸員)、
森 万由子(当館学芸員)

会 場：2階展示室

参加者：11人



(2) 対話によるギャラリートーク

日 時：6月15日(土) 15:00～

ナビゲーター：岡地 智子(当館主任学芸員)、森 万由子(当館学芸員)

会 場：2階展示室

参加者：7人

(3) インスタライブ配信

①日本洋画 ②日本画 ③西洋美術 ④工芸

日 時：①5月21日(火) ②6月4日(火) ③6月11日(火) ④6月18日(火)

各日17:00～

講 師：①角田 新(当館主任学芸員)、藤崎 綾(当館主任学芸員)

②神内 有理(当館主任学芸員) ③森 万由子(当館学芸員) ④岡地 智子(当館主任学芸員)

参加者：①56人 ②48人 ③68人 ④56人

(4) フリートークデー

日 時：6月8日(土) 9:00~17:00

会 場：2階展示室

子供も大人も自由に普通に会話する声の大きさと感想を話しながら所蔵作品展を楽しんでいただけるよう実施。
併せて次のイベントも実施した。

①ベビーカートツアー(授乳室など館内案内の後、展示室を案内)

時 間：10:30~11:00

講 師：山下 寿水(当館主任学芸員)

参加者：6人

②対話によるギャラリートーク

時 間：ア) 13:00~14:00 イ) 15:00~16:00

ナビゲーター：ア) 福田 浩子(当館学芸課長)、岡地 智子(当館主任学芸員)

イ) 山下 寿水(当館主任学芸員)、森 万由子(当館学芸員)

参加者：ア) 3人 イ) 2人

③作品の缶バッジをもって、作品を探しに行こう！(缶バッジ配布、先着100名)

(5) ARフォトフレーム設置



第2期 サマーミュージアム

美術の教科書！ 「あの作品、あの作家」と出会う、学ぶ

令和6年7月19日(金)～10月6日(日)

前期：7月19日(金)～8月25日(日)

後期：8月27日(火)～10月6日(日)

ウェルカムギャラリー

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 員数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|-------|-----------|-------------|----------------------------|------------------|-------------|-----|----------|------|
| 1 | 平櫛 田中 | 1872-1979 | 五柳先生 | 1960(昭和35) | 高51.8 | 木・彩色 | 1 軀 | | |
| 2 | 小林 千古 | 1870-1911 | 自画像 | 1903-1905 (明治36-38)頃 | 67.5×58.0 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 3 | 南 薫造 | 1883-1950 | 小童 | 1909(明治42) | 60.5×49.8 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 4 | 巖 光 | 1907-1946 | 窓辺の花(百合) | 1944(昭和19) | 71.0×59.0 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 5 | 児玉 希望 | 1898-1971 | 飛泉涼々 | 1931(昭和6) | 260.0×145.0 | 絹本彩色 | 1 面 | 第12回帝展 | |
| 6 | 奥田 元宋 | 1912-2003 | 秋巒真如 | 1977(昭和52) | 156.5×197.5 | 紙本彩色 | 1 面 | 第9回改組日展 | |
| 7 | 平山 郁夫 | 1930-2009 | 天山南路(昼) | 1960(昭和35) | 164.2×218.8 | 紙本彩色 | 1 面 | | |
| 8 | 圓鏝 勝三 | 1905-2003 | 途上 | 1941(昭和16)、 鑄造1994(平成6) | 高169.0×82.0×51.5 | ブロンズ | 1 軀 | | |
| 9 | 六角 紫水 | 1867-1950 | 蒔絵草花図菓子銘々盆 | 1911(明治44) | 高1.0 縦13.5 横14.6 | 木・漆・貝・蒔絵・螺鈿 | 5 枚 | 10枚1組のうち | |
| 10 | 清水 南山 | 1875-1948 | 花卉文壺 | 1926(大正15) | 高16.0 径12.2 | 銅・彫金 | 1 口 | | |
| 11 | 今井 政之 | 1930-2023 | 象嵌彩窯変 海老 花瓶 | 2023(令和5) | 高23.5 径14.0 | 陶器 | 1 口 | | |

第1室 美術の教科書！ 「西洋近代美術」と出会う、学ぶ

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 員数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|--------------|-----------|-------------------|--------------|-----------------|-------------------------------|-----|-------------|----------|
| 12 | サルバドール・ダリ | 1904-1989 | ヴィーナスの夢 | 1939 | 243.8×487.6 | 油彩・画布・パネル | 1 面 | ニューヨーク万国博覧会 | |
| 13 | サルバドール・ダリ | | マルドロールの歌 | 1934 | 32.5×25.0 | エッチング・紙・挿画本 | 3 面 | 30面のうち | 前期 後期 |
| 14 | クルト・シュヴィッターズ | 1887-1948 | メルツ 394、ピナコテーク | 1922 | 17.9×14.3 | コラージュ・紙 | 1 面 | | |
| 15 | マックス・エルンスト | 1891-1976 | 博物誌 | 1926 | 43.0×26.0 | コロタイプ・紙 | 1 面 | 34面のうち | 前期 後期 |
| 16 | マックス・エルンスト | | オイディプス I | 1934(1992鑄造) | 高62.0 | ブロンズ | 1 点 | | |
| 17 | マックス・エルンスト | | オイディプス II | 1934(1992鑄造) | 高66.0 | ブロンズ | 1 点 | | |
| 18 | アレクサンダー・コルダ | 1898-1976 | ヴァーティカル・ホワイト・フレーム | 1936 | 高265.4 | 金属・ワイヤー・パネ・木 | 1 点 | | |
| 19 | ジュリオ・ゴンザレス | 1876-1942 | 人物(鏡の前の女) | 1934 | 高51.5×12.3×14.0 | ブロンズ | 1 点 | | |
| 20 | アンリ・ローランス | 1885-1954 | イヤリングをつけた女の顔 | 1921 | 高36.9×12.8×11.6 | テラコッタ | 1 点 | | |
| 21 | マリノ・マリーニ | 1901-1980 | 二人の軽業師と馬 | 1951 | 64.0×47.0 | リトグラフ・紙 | 1 面 | | |
| 22 | マリノ・マリーニ | | 黄色の縁取りのある3頭の馬 | 1954 | 64.0×44.0 | リトグラフ・紙 | 1 面 | | |
| 23 | マリノ・マリーニ | | 小さな踊りI | 1973 | 67.5×52.5 | エッチング・ドライポイント・ カラーアクアチント・紙 | 1 面 | | |

第2室 美術の教科書！ 「日本の洋画」と出会う、学ぶ

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 員数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|-------|-----------|---------------------------|---------------------|-------------------|-------------|-----|-----------|------|
| 24 | 小林 千古 | 1870-1911 | ミルク・メイド | 1897(明治30) | 67.5×58.0 | 油彩・画布 | 1 面 | 第10回白馬会展 | |
| 25 | 小林 千古 | | 静物 | 1900-1901(明治33-34)頃 | 23.3×32.5 | 油彩・板 | 1 面 | | |
| 26 | 吉田 博 | 1876-1950 | 瀬戸内海集「帆船 朝」 | 1926(大正15) | 50.0×35.9 | 木版・紙 | 1 面 | | 前期 |
| 27 | 吉田 博 | | 瀬戸内海集「帆船 朝」 | 1926(大正15) | 50.8×35.9 | 木版・紙 | 1 面 | | 後期 |
| 28 | 南 薫造 | 1883-1950 | 坐せる女 | 1908(明治41) | 112.1×83.3 | 油彩・画布 | 1 面 | 第4回文展 | |
| 29 | 南 薫造 | | 石割り | 1911(明治44) | 60.5×45.5 | 油彩・画布 | 1 面 | 第6回文展 | |
| 30 | 小林 和作 | 1888-1974 | 伯耆大山の秋 | | 52.0×100.0 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 31 | 小林 和作 | | 伯耆大山 | | 14.0×31.1 | 淡彩・紙 | 1 面 | | 前期 |
| 32 | 小林 和作 | | 大山2 | | 28.9×38.1 | 淡彩・紙 | 1 面 | | 後期 |
| 33 | 長谷川利行 | 1891-1940 | 田端変電所 | 1923(大正12) | 23.8×32.6 | 油彩・キャンバスボード | 1 面 | 第4回新光洋画会展 | |
| 34 | 圓鏝 勝三 | 1905-2003 | 星羅 | 1960(昭和35) | 高223.0×140.0×78.0 | 木・彩色 | 1 軀 | 第3回新日展 | |
| 35 | 巖 光 | 1907-1946 | 静物 | 1942(昭和17) | 45.1×37.6 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 36 | 巖 光 | | 帽子をかむる自画像 | 1943(昭和18) | 60.0×50.0 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 37 | 松本 竣介 | 1912-1948 | 車庫近く | 1942(昭和17) | 33.4×45.5 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 38 | 水船 六洲 | 1912-1980 | 燭明り | 1967(昭和42) | 高202.0×54.0×40.0 | 木・彩色 | 1 面 | | |
| 39 | 芥川 永 | 1915-1998 | 教師と子どもの碑(石膏原型) | 1970(昭和45) | 高240.0 | 石膏 | 1 面 | | |
| 40 | 菅井 汲 | 1919-1996 | NATIONAL ROUTE(ナショナル・ルート) | 1964(昭和39) | 195.0×130.0 | アクリル・油彩・画布 | 1 面 | | |
| 41 | 菅井 汲 | | PARKING(パーキング) | 1970(昭和45) | 246.0×200.0 | アクリル・画布 | 1 面 | | |
| 42 | 金光 松美 | 1922-1992 | Mt. WHITNEY | 1976(昭和51) | 112.0×243.9 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 43 | 高橋 秀 | 1930- | 路 | 1992(平成4) | 220.0×386.0 | エナメル・画布 | 1 面 | | |

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 員数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|-------|-----------|--------------|------------|-----------------|------------|----|---------------|------|
| 44 | 空 充秋 | 1933- | 音 | 1970(昭和45) | 高52.0×36.0×36.0 | 石 | 1面 | | |
| 45 | 空 充秋 | | 城 | 1976(昭和51) | 76.0×54.0 | シルクスクリーン・紙 | 1面 | | 後期 |
| 46 | 空 充秋 | | WORK | 1978(昭和53) | 77.0×54.0 | シルクスクリーン・紙 | 1面 | | 前期 |
| 47 | 入野 忠芳 | 1939-2013 | 裂鱗(れっか) 75—6 | 1975(昭和50) | 130.3×162.1 | 油彩・画布 | 1面 | 第11回現代日本美術展大賞 | |

第3室 美術の教科書！ 建築をキーワードに「日本画」と出会う、学ぶ

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 員数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|-------|-----------|-------|--------------------|----------------|------|----|--------------------|------|
| 48 | 狩野派 | | 西湖図 | 16世紀 | 137.5×353.6(各) | 紙本墨画 | 1双 | | 前期 |
| 49 | 塩出 英雄 | 1912-2001 | 層嶺 | 1978(昭和53) | 182.0×243.0 | 紙本彩色 | 1隻 | 第63回院展 | 後期 |
| 50 | 山中 雪人 | 1920-2003 | 雲岡仏 | 1986(昭和61) | 170.0×214.5 | 紙本彩色 | 1面 | 第71回院展(日本美術院賞・大観賞) | 後期 |
| 51 | 神田三千枝 | 1924-1992 | タリンの丘 | 1972(昭和47) | 223.0×171.0 | 画布彩色 | 1面 | 第57回院展 | |
| 52 | 綿谷行四郎 | 1900-1977 | 宮島廻廊 | 1973(昭和48) | 176.0×207.0 | 紙本彩色 | 1面 | 第58回院展 | |
| 53 | 船田 玉樹 | 1912-1991 | 宇治の春 | 1954(昭和29) | 180.0×242.0 | 紙本彩色 | 1面 | 第39回院展 | |
| 54 | 三上 巴峽 | 1913-1985 | 鳳凰堂 | 1965(昭和40) | 179.0×240.7 | 紙本彩色 | 1面 | 第8回新日展(特選・白寿賞) | |
| 55 | 三上 巴峽 | | 城 | 1966(昭和41) | 227.0×179.7 | 紙本彩色 | 1面 | 第9回新日展 | |
| 56 | 佐藤 太清 | 1913-2004 | 東大寺暮雪 | 1975(昭和50) | 223.0×168.0 | 紙本彩色 | 1面 | 第7回改組日展 | |
| 57 | 浜崎左髪子 | 1912-1989 | スラム街 | 1974(昭和49) | 164.0×129.0 | 紙本彩色 | 1面 | 第16回日本表現派展 | |
| 58 | 浜崎左髪子 | | 広島夕景 | | 65.3×91.0 | 紙本彩色 | 1面 | | |
| 59 | 宮川 啓五 | 1927- | 残照 | 1963(昭和38) | 135.0×182.0 | 紙本彩色 | 1面 | 第48回院展 | |
| 60 | 宮川 啓五 | | 太田川 | 1999-2000(平成11-12) | 92.4×733.4 | 紙本彩色 | 1面 | | |
| 61 | 平山 郁夫 | 1930-2009 | 広島生変図 | 1979(昭和54) | 171.0×364.0 | 紙本彩色 | 1面 | 第64回院展 | |

第4室 美術の教科書！ 「工芸」と出会う、学ぶ

| No. | 作者・民族名・地域 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 員数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|-----------|-----------|---------------------------|-------------|-----------------|-------------------|-----|----------------------|------|
| 62 | | | 重要文化財 伊万里色絵花卉文輪花鉢(柿右衛門様式) | 江戸時代 17世紀後半 | 高11.5 口径24.4 | 磁器・色絵 | 1口 | | |
| 63 | | | 伊万里柿右衛門様式色絵馬 | 江戸時代 17世紀後半 | 高44.3 | 磁器・色絵 | 1軀 | | |
| 64 | | | 伊万里柿右衛門様式色絵馬 | 江戸時代 17世紀後半 | 高45.0 | 磁器・色絵 | 1軀 | | |
| 65 | 三代金城一國齋 | 1829-1915 | 菊雲鶴文食籠 | 1902(明治35) | 高13.7 径22.3 | 木・漆・高盛絵 | 1合 | | |
| 66 | 六角 紫水 | 1867-1950 | 刀筆天部奏楽方盆 | 1927(昭和2) | 高2.2 19.6×19.6 | 木・漆・漆絵・彫刻 | 1枚 | 第8回帝展 | |
| 67 | 清水 南山 | 1875-1948 | 波に龍文水瓶 | 1937(昭和12) | 高33.0 径13.0 | 銀・鍍金・彫金 | 1点 | 第1回新文展 | |
| 68 | 富本 憲吉 | 1886-1963 | 白磁壺 | 1928(昭和3) | 高23.3 径29.0 | 磁器 | 1口 | | |
| 69 | 浜田 庄司 | 1894-1978 | 黒釉鎗流描大鉢 | 昭和30年代後半 | 高13.8 径47.0 | 陶器 | 1口 | | |
| 70 | 林 万寿人 | 1896-1985 | 銅結び紐文花器 | 1956(昭和31) | 31.0×29.0 | 青銅・鍍金 | 1口 | 第12回日展 | |
| 71 | 塚本 快示 | 1912-1990 | 白瓷輪花五稜皿 | 1980(昭和55) | 高4.5 径38.5 | 磁器 | 1口 | | |
| 72 | 蓮田修吾郎 | 1915-2010 | シテ島の夜 | 1979(昭和54) | 80.0×152.0×11.0 | 白銅・アクリル | 1面 | | |
| 73 | 門田 篁玉 | 1916-2021 | 連作「蓄」 | 1975(昭和50) | 高28.4 径57.5 | 竹 | 1口 | 第7回日展入選作 | |
| 74 | 八木 一夫 | 1918-1979 | 翔鳥花壺 | 1959(昭和34) | 高19.0 径19.0 | 陶器 | 1口 | | |
| 75 | 荒木 高子 | 1921-2004 | 砂の聖書 | 1983(昭和58) | 高13.5 47.3×38.0 | 陶・シャモット・砂 | 1点 | | |
| 76 | 小林健一郎 | 1924-2013 | 櫻丸盆 | 1987(昭和62) | 高4.2 径40.0 | 櫻・挽物 | 1枚 | 第34回日本伝統工芸展 | |
| 77 | 栗根昭二郎 | 1927-2022 | 銀箔地七宝蓋物「安芸」 | 2000(平成12) | 高8.5 径23.5 | 七宝 | 1合 | | |
| 78 | 山根 寛齋 | 1933-2010 | 玉椿李彩箱 | 1990(平成2) | 高18.6 31.0×15.2 | 玉椿・神代櫻・朴・黄楊木・栗・木画 | 1合 | 第37回日本伝統工芸展・日本工芸会奨励賞 | |
| 79 | 佐藤 敏 | 1936- | レッドマスク | 1983(昭和58) | 53.0×8.5×50.0 | 陶器・金属 | 1点 | | |
| 80 | 高橋 通子 | 1936- | 紫陽花文花瓶 | 1984(昭和59) | 15.7×15.5 | 七宝 | 1口 | 第31回日本伝統工芸展 | |
| 81 | 渡辺 溥子 | 1938- | 紬織着物「蛭影」 | 2000(平成12) | 桁66.0 丈174.5 | 絹・紬・経緯緋 | 1領 | 第47回日本伝統工芸展 | |
| 82 | 森口 邦彦 | 1941- | 友禅着物「蓄園」 | 1981(昭和56) | 桁61.8 丈170.5 | 絹・友禅染 | 1領 | | |
| 83 | 山本 晃 | 1944-2024 | 切嵌象嵌接合せ鉢「青凜」 | 2005(平成17) | 高14.3 径19.5 | 銀・彫金 | 1口 | 第52回日本伝統工芸展 | |
| 84 | 伝 河面冬山 | | 扇面散し蒔絵料紙箱 | | 40.0×32.0×35.0 | 木・漆・蒔絵 | 1合 | | |
| 85 | インドネシア | | カイン・バンジャン | 19-20世紀 | 212.0×89.0 | 木綿・パティック | 1枚 | | |
| 86 | インドネシア | | カイン・バンジャン | 19-20世紀 | 195.0×90.0 | 木綿・パティック | 1枚 | | |
| 87 | | | さまざまな木の種類 | | | | 27点 | | |
| 88 | | | 挽物の工程(一部) | | | | 3点 | | |
| 89 | | | 真竹の竹ひご | | | | 5本 | | |
| 90 | | | 螺鈿の材料 | | | | 5点 | | |
| 91 | | | 陶石 | | | | 1点 | | |
| 92 | | | 絹と天然染色 | | | | 35点 | | |

関連事業

(1) インスタライブ配信

①西洋美術 ②日本洋画 ③日本画 ④工芸

日 時：①7月23日(火) ②8月20日(火) ③9月3日(火) ④9月24日(火)

各日17:00～

講 師：①山下 寿水(当館主任学芸員) ②角田 新(当館主任学芸員) ③隅川 明宏(当館主任学芸員)

④岡地 智子(当館主任学芸員)

参加者：①71人 ②57人 ③52人 ④64人

(2) フリートークデー

日 時：9月28日(土)9:00～17:00

会 場：2階展示室

①対話によるギャラリートーク

時 間：13:00～14:00

ナビゲーター：福田 浩子(当館学芸課長)、山下 寿水(当館主任学芸員)、岡地 智子(当館主任学芸員)

参加者：5人

②作品の缶バッジをもって、作品を探しに行こう！(缶バッジ配布、先着100名)

(3) 子ども向けワークシートの配布

(4) ARフォトフレーム設置

関連報道・記事

(1) 雑誌

『地域創造』7月号、『くれえばん』8月号、『経済春秋』7月号



第3期

コレクション・フォーカス：山路商一戦前期広島の前衛精神 伝統と革新—児玉希望展にちなんで

令和6年10月11日(金)～12月24日(火)

前期：10月11日(金)～11月17日(日)

後期：11月19日(火)～12月24日(火)

ウェルカムギャラリー

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 員数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|-------|-----------|-------------|---------------------------|------------------|-------------|-----|----------|------|
| 1 | 平櫛 田中 | 1872-1979 | 五柳先生 | 1960(昭和35) | 高51.8 | 木・彩色 | 1 軀 | | |
| 2 | 小林 千古 | 1870-1911 | 自画像 | 1903-1905(明治36-38)頃 | 67.5×58.0 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 3 | 南 薫造 | 1883-1950 | 小童 | 1909(明治42) | 60.5×49.8 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 4 | 鬨 光 | 1907-1946 | 窓辺の花(百合) | 1944(昭和19) | 71.0×59.0 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 5 | 児玉 希望 | 1898-1971 | 山とよむ | 1932(昭和7) | 257.0×175.0 | 絹本彩色 | 1 面 | 第13回帝展 | |
| 6 | 奥田 元宋 | 1912-2003 | 嶽 | 1959(昭和34) | 110.0×210.0 | 紙本彩色 | 1 面 | 第2回新日展 | |
| 7 | 平山 郁夫 | 1930-2009 | 波斯黄堂旧址 | 1974(昭和49) | 166.7×367.4 | 紙本彩色 | 1 面 | 第59回院展 | |
| 8 | 圓鏝 勝三 | 1905-2003 | 途上 | 1941(昭和16) 鑄造1994(平成6) | 高169.0×82.0×51.5 | ブロンズ | 1 軀 | | |
| 9 | 六角 紫水 | 1867-1950 | 蒔絵草花図菓子銘々盆 | 1911(明治44) | 高1.0 縦13.5 横14.6 | 木・漆・貝・蒔絵・螺鈿 | 5 枚 | 10枚1組のうち | |
| 10 | 清水 南山 | 1875-1948 | 花卉文壺 | 1926(大正15) | 高16.0 径12.2 | 銅・彫金 | 1 口 | | |
| 11 | 今井 政之 | 1930-2023 | 象嵌彩窯変 海老 花瓶 | 2023(令和5) | 高23.5 径14.0 | 陶器 | 1 口 | | |

第1室 コレクション・フォーカス「山路商一戦前期広島の前衛精神」I 山路商と同時代の作家たち

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 員数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|--------------|----------------------------|--------------|--------------------------|-----------------|-------------|-----|-------------|------|
| 12 | サルバドール・ダリ | 1904-1989 | ヴィーナスの夢 | 1939 | 243.8×487.6 | 油彩・画布・パネル | 1 面 | ニューヨーク万国博覧会 | |
| 13 | ジャン(ハンス)・アルプ | 1886-1966 | 目覚め | 1938/1983鑄造 | 高47.5×24.0×23.0 | ブロンズ | 1 点 | | |
| 14 | 田中 万吉 | 1895-1945 | 曇り日 | 1924-1927 (大正13-昭和2)頃 | 37.0×45.5 | 油彩・厚紙 | 1 面 | | |
| 15 | 吉岡 一 | 1898-1954 | 風景 | 1928(昭和3) | 23.5×33.0 | 油彩・キャンバスボード | 1 面 | 個人蔵 | |
| 16 | 吉岡 一 | | 静物 | 1934(昭和9) | 46.0×53.5 | 油彩・画布 | 1 面 | 個人蔵 | |
| 17 | 灰谷 正夫 山路 | 灰谷1907-1985 山路1903-1944 | バラ | | 24.2×33.2 | 油彩・板 | 1 面 | | |
| 18 | 檜山 美雄 | 1905-1978 | 黒帽の商二氏像 | 1926(大正15) | 28.2×22.1 | インク・コンテ・紙 | 1 面 | | |
| 19 | 檜山 美雄 | | 綱島氏の像 | 1928(昭和3) | 57.4×46.7 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 20 | 檜山 武夫 | 1906-1932 | 陸橋 | 1931(昭和6) | 91.0×91.0 | 油彩・画布 | 1 面 | 第18回二科展 | |
| 21 | 檜山 武夫 | | 風景 | 1932(昭和7) | 72.1×75.0 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 22 | 松井 正 | 1906-1993 | 瓦焼風景 | 1933(昭和8) | 130.3×162.2 | 油彩・画布 | 1 面 | 第20回二科展 | |
| 23 | 鬨 光 | 1907-1946 | コミサ(洋傘による少女) | 1929(昭和4) | 80.0×65.0 | 油彩・画布 | 1 面 | 第7回槐樹社展 | |
| 24 | 鬨 光 | | 静物(魚の頭) | 1941(昭和16) | 88.6×144.7 | 油彩・画布 | 1 面 | 広島市現代美術館蔵 | |
| 25 | 鬨 光 | | 蝶 | 1941(昭和16) | 41.1×31.9 | 油彩・画布 | 1 面 | 広島市現代美術館蔵 | |
| 26 | 鬨 光 | | 静物(柿のある) | 1942(昭和17) | 45.2×41.1 | 油彩・画布 | 1 面 | 広島市現代美術館蔵 | |
| 27 | 鬨 光 | | 帽子をかむる自画像 | 1943(昭和18) | 60.0×50.0 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 28 | 木村 武男 | 1910-1985 | 山路商の像 | 1962(昭和37) | 35.3×27.2 | 鉛筆・紙 | 1 面 | | |
| 29 | 福井 芳郎 | 1912-1974 | 蓮 | 1928(昭和3) | 115.0×89.0 | 油彩・画布 | 1 面 | 第9回帝展 | |
| 30 | 福井 芳郎 | | 山路商の像 | | 44.5×33.0 | 墨・紙 | 1 面 | 個人蔵 | |
| 31 | 辻 潔 | 1912-1943 | 風景 | 1935(昭和10) | 97.5×145.5 | 油彩・画布 | 1 面 | 第5回独立展 | |
| 32 | 岩岡 貞美 | 1913-1945 | 耕丘 | 1944(昭和19) | 119.5×71.0 | 油彩・画布 | 1 面 | 第14回独立展 | |
| 33 | 菅井 汲 | 1919-1996 | 黒 | 1964(昭和39) | 17.0×17.8×高34.0 | ブロンズ | 1 点 | | |
| 34 | 菅井 汲 | | オブジェ(絵の具の塔) | | 89.0×23.0 | 木・絵の具のチューブ | 1 点 | | |

第2室 コレクション・フォーカス「山路商一戦前期広島の前衛精神」II 山路商の創作活動

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 員数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|------|-----------|--------|------------|-----------|-------|-----|----------------------|------|
| 35 | 山路 商 | 1903-1944 | 母の像 | 1927(昭和2)頃 | 22.5×31.4 | 鉛筆・紙 | 1 面 | | |
| 36 | 山路 商 | | 花 | 1928(昭和3) | 23.7×32.4 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 37 | 山路 商 | | 楽器店 | 1928(昭和3) | 49.7×60.9 | 油彩・画布 | 1 面 | 第16回二科展 三良坂平和美術館蔵 | |
| 38 | 山路 商 | | ピエロ | | 23.5×30.0 | 油彩・紙 | 1 面 | 個人蔵 | |
| 39 | 山路 商 | | たまねぎ | | 21.3×27.2 | 油彩・板 | 1 面 | 個人蔵 | |
| 40 | 山路 商 | | 男(眠れる) | | 72.5×61.0 | 油彩・画布 | 1 面 | | |
| 41 | 山路 商 | | 大連風景 | 1931(昭和6) | 24.5×32.9 | 油彩・画布 | 1 面 | | |

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 頁数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|-------|-----------|--------------|-------------|------------|--------------|----|-------------------------------|------|
| 42 | 山路 商 | | ソビエツト領事館の裏 | 1931(昭和6)頃 | 61.5×73.0 | 油彩・画布 | 1面 | 第2回郷土物故作家展 (広島県立美術館 1972年) | |
| 43 | 山路 商 | | 春 | 1931(昭和6)頃 | 33.0×23.6 | 油彩・板 | 1面 | 第2回郷土物故作家展 (広島県立美術館 1972年) | |
| 44 | 山路 商 | | 大連風景 | 1931(昭和6)頃 | 60.5×72.7 | 油彩・画布 | 1面 | 個人蔵 | |
| 45 | 山路 商 | | 緑色の家 大連西通りにて | 1931(昭和6)頃 | 23.6×32.7 | 油彩・板 | 1面 | 個人蔵 | |
| 46 | 山路 商 | | T型定規のある静物 | 1932(昭和7) | 87.0×69.0 | 油彩・画布 | 1面 | 第6回全関西展 | |
| 47 | 山路 商 | | マドモアゼルY | 1932(昭和7) | 73.0×52.0 | 油彩・画布 | 1面 | | |
| 48 | 山路 商 | | 人物素描 | 1933(昭和8) | 32.2×25.8 | 鉛筆・紙 | 1面 | | |
| 49 | 山路 商 | | たまねぎ | 1933(昭和8)頃 | 23.8×33.0 | 油彩・板 | 1面 | | |
| 50 | 山路 商 | | 自画像 | 1933(昭和8) | 33.0×23.8 | 油彩・キャンバスボード | 1面 | 個人蔵 | |
| 51 | 山路 商 | | 静物 | 1933(昭和8) | 32.0×41.0 | 油彩・画布 | 1面 | 個人蔵 | |
| 52 | 山路 商 | | 友の像 | | 23.8×33.0 | 油彩・板 | 1面 | 個人蔵 | |
| 53 | 山路 商 | | 道化人形 | 1934(昭和9) | 33.0×23.8 | 油彩・板 | 1面 | 個人蔵 | |
| 54 | 山路 商 | | 干魚とレモン | 1935(昭和10) | 24.6×33.6 | 油彩・板 | 1面 | | |
| 55 | 山路 商 | | 唱う人々 | | 37.9×48.2 | 油彩・紙 | 1面 | 個人蔵 | |
| 56 | 山路 商 | | 人体 | 1936(昭和11) | 62.0×31.0 | インク・紙 | 1面 | | |
| 57 | 山路 商 | | デッサン | 1937(昭和12) | 30.0×22.0 | インク・紙 | 1面 | 広島市現代美術館蔵 | |
| 58 | 山路 商 | | 犬とかたつむり | 1937(昭和12) | 80.1×116.4 | 油彩・画布 | 1面 | | |
| 59 | 山路 商 | | 柴野利秋氏の像 | 1937(昭和12)頃 | 40.7×31.7 | 油彩・画布 | 1面 | 第2回郷土物故作家展 (広島県立美術館 1972年) | |
| 60 | 山路 商 | | 窓と顔 | 1938(昭和13) | 15.7×22.5 | 油彩・画布 | 1面 | | |
| 61 | 山路 商 | | 花 | 1938(昭和13) | 15.6×22.5 | 油彩・板 | 1面 | 個人蔵 | |
| 62 | 山路 商 | | 広島風景 | 1938(昭和13) | 71.0×88.0 | 油彩・画布 | 1面 | 広島市現代美術館蔵 | |
| 63 | 山路 商 | | 自画像 | | 38.6×27.2 | 鉛筆・紙 | 1面 | | |
| 64 | 山路 商 | | ピエロ | | 33.8×24.6 | 油彩・紙 | 1面 | | |
| 65 | 山路 商 | | ひまわり | 1930年代末以降 | 23.4×33.0 | インク・鉛筆・色鉛筆・紙 | 1面 | 郷土物故作家展 | |
| 66 | 山路 商 | | 自画像 | 1939(昭和14) | 19.8×13.7 | 油彩・画布 | 1面 | 広島市現代美術館蔵 | |
| 67 | 山路 商 | | 冬 | 1940(昭和15) | 37.0×45.5 | 油彩・画布 | 1面 | 広島市現代美術館蔵 | |
| 68 | 山路 商 | | 静物(魚とコップ) | | 15.8×22.8 | 油彩・画布 | 1面 | 個人蔵 | |
| 69 | 山路 商 | | 自画像 | 1942(昭和17) | 26.0×19.2 | 油彩・板 | 1面 | | |
| 70 | 山路 商 | | れもん | 1943(昭和18) | 15.5×21.9 | 油彩・板 | 1面 | | |
| 71 | 山路 商 | | 柿 | 1943(昭和18) | 22.0×31.0 | 油彩・画布 | 1面 | | |
| 72 | 山路 商 | | 自画像 | 1943(昭和18)頃 | 31.7×22.8 | 油彩・紙 | 1面 | | |
| 73 | 山路 商 | | アネモネ | | 20.6×27.0 | 油彩・板 | 1面 | | |
| 74 | 山路 商 | | 少女の像 | | 22.6×15.8 | 油彩・画布 | 1面 | | |
| 75 | 山路 商 | | 家と人 | | 31.5×40.4 | 油彩・画布 | 1面 | 個人蔵 | |
| 76 | 山路 商 | | 花 | 1943(昭和18) | 33.3×23.5 | 油彩・板 | 1面 | 個人蔵 | |
| 77 | | | 『東洋鬼』第1号 | 1926(大正15) | 23.1×15.9 | | 1冊 | 個人蔵 | |
| 78 | | | 『萬国旗』第1号 | 1929(昭和4) | 22.8×15.2 | | 1冊 | 個人蔵 | |
| 79 | 檜山 美雄 | 1905-1978 | 岸辺の風景 | | 24.2×38.1 | コンテ・紙 | 1面 | | |
| 80 | 鬮 光 | 1907-1946 | 柴野利秋宛書簡1 | 1938(昭和13) | 13.9×9.0 | 官製葉書 | 1通 | | |
| 81 | 米田 栄作 | 1908-2002 | 『鳩の夜』 | 1937(昭和12) | 19.2×13.0 | | 1冊 | 個人蔵 | |

第3室 伝統と革新—児玉希望展にちなんで「江戸時代からつながる日本画の系譜、そして革新」

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 頁数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|-------|-----------|----------------|------------|----------------|--------|----|----------|------|
| 82 | 望月 玉蟾 | 1692-1755 | 九老図(堀南湖賛) | 寛延2年賛 | 116.2×43.4 | 絹本彩色 | 1幅 | | |
| 83 | 望月 玉蟾 | | 維摩居士図 | | 106.0×44.0 | 紙本墨画 | 1幅 | | |
| 84 | 望月 玉蟾 | | 松下猛虎図 | | 117.0×55.2 | 絹本墨画 | 1幅 | | |
| 85 | 望月 玉川 | 1794-1852 | 芦雁図 | | 140.8×73.7 | 紙本墨画淡彩 | 1幅 | | |
| 86 | 望月 玉泉 | 1834-1913 | 山水図 | | 50.0×69.1(各) | 絹本墨画 | 2幅 | | |
| 87 | 望月 玉泉 | | 嵐山図 | 1906(明治39) | 127.2×55.2 | 絹本彩色 | 1幅 | | |
| 88 | 川合 玉堂 | 1873-1957 | 浜村春麓図 | 1907(明治40) | 150.5×85.0 | 絹本彩色 | 1面 | | |
| 89 | 児玉 希望 | 1898-1971 | 浜谷の秋 | 1943(昭和18) | 153.5×69.0 | 絹本彩色 | 1面 | 第7回児玉画藝展 | |
| 90 | 児玉 希望 | | 群棲 | 1958(昭和33) | 68.0×72.5 | 絹本墨画 | 1面 | | |
| 91 | 児玉 希望 | | ひざかり | 1960(昭和35) | 51.0×58.5 | 絹本彩色 | 1面 | 皁月会展 | |
| 92 | 児玉 希望 | | ファッジェート | 1957(昭和32) | 17.5×25.5 | 彩色・紙 | 1枚 | | |
| 93 | 児玉 希望 | | セーヌ河岸、ノートルダム寺院 | 1957(昭和32) | 21.0×27.5、27.5 | 墨・紙 | 2枚 | | |
| 94 | 児玉 希望 | | モレ風景 | 1957(昭和32) | 21.0×27.5 | 彩色・紙 | 1枚 | | |
| 95 | 児玉 希望 | | バルニ | 1957(昭和32) | 23.2×31.7 | 彩色・紙 | 1枚 | | |

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 員数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|-------|-----------|-----------------|------------|----------------|------|----|---------------|------|
| 96 | 児玉 希望 | | ティヴォリ | 1957(昭和32) | 25.2×17.5 | 彩色・紙 | 1枚 | | |
| 97 | 児玉 希望 | | ル・ファイエ | 1957(昭和32) | 23.0×31.5 | 彩色・紙 | 1枚 | | |
| 98 | 児玉 希望 | | シャトウ・ドウ・モントロティエ | 1957(昭和32) | 23.0×31.5 | 彩色・紙 | 1枚 | | |
| 99 | 児玉 希望 | | バンドールにて | 1957(昭和32) | 23.4×32.5 | 彩色・紙 | 1枚 | | |
| 100 | 児玉 希望 | | 信貴山にて | 1958(昭和33) | 21.2×27.3 | 彩色・紙 | 1枚 | | |
| 101 | 児玉 希望 | | 太海にて | 1959(昭和34) | 21.2×27.3 | 彩色・紙 | 1枚 | | |
| 102 | 児玉 希望 | | 松島にて | 1960(昭和35) | 21.2×27.3 | 彩色・紙 | 1枚 | | |
| 103 | 児玉 希望 | | 猿沢池 | 1961(昭和36) | 21.2×27.3 | 彩色・紙 | 1枚 | | |
| 104 | 丸木 位里 | 1901-1995 | 牛 | 1942(昭和17) | 93.0×124.0 | 紙本墨画 | 1面 | 第3回美術文化協会展 | |
| 105 | 丸木 位里 | | 竹林 | 1964(昭和39) | 210.0×270.0(各) | 紙本墨画 | 1双 | 第6回現代日本美術展 | |
| 106 | 船田 玉樹 | 1912-1991 | 春の鐘 | 1950(昭和25) | 180.0×68.0 | 絹本彩色 | 1面 | 第35回院展 | |
| 107 | 船田 玉樹 | | すすきの原の秋 | 1950(昭和25) | 180.0×68.0 | 絹本彩色 | 1面 | ソ連における現代日本美術展 | |
| 108 | 船田 玉樹 | | 雪の灯ともし頃 | 1950(昭和25) | 180.0×68.0 | 絹本彩色 | 1面 | ソ連における現代日本美術展 | |

第4室 伝統と革新—児玉希望展にちなんで 近現代の漆芸にみる伝統と革新

| No. | 作者 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 法量(cm) | 材質等 | 員数 | 出品歴・備考 | 展示期間 |
|-----|---------|-----------|---------------------------|-------------|---------------------|------------------|------|-------------------------|------|
| 109 | | | 重要文化財 伊万里色絵花卉文輪花鉢(柿右衛門様式) | 江戸時代 17世紀後半 | 高11.5 口径24.4 | 磁器・色絵 | 1口 | | |
| 110 | | | 伊万里柿右衛門様式色絵馬 | 江戸時代 17世紀後半 | 高44.3 | 磁器・色絵 | 1軀 | | |
| 111 | | | 伊万里柿右衛門様式色絵馬 | 江戸時代 17世紀後半 | 高45.0 | 磁器・色絵 | 1軀 | | |
| 112 | 梶山 明細 | | 蒔絵やつて香筥 | 江戸時代末期-明治時代 | 高11.1 12.2×15.9 | 漆・蒔絵 | 1合 | | |
| 113 | 川之辺一朝 | 1830-1910 | 金梨地瀧山水蒔絵料紙文庫 | 1902(明治35) | 高15.4 44.9×33.1 | 木・漆・蒔絵 | 1合 | | |
| 114 | 植松 抱民 | 1845-1899 | 萩に雁研出蒔絵 文台 | | 高12.5 35.6×61.2 | 木・漆・銀・蒔絵 | 1具 | | |
| 115 | 植松 抱民 | | 桜に燕研出蒔絵 硯箱 | | 高4.3 4.0×21.0 | 木・漆・銀・蒔絵 | 1合 | | |
| 116 | 白山 松哉 | 1853-1923 | 金地菊蒔絵香合 | | 高1.0 径10.2 | 木・漆・蒔絵 | 1合 | | |
| 117 | 船橋 舟珉 | 1859- ? | 金地山水蒔絵手箱 | 1908(明治41) | 高14.8 25.8×22.9 | 木・漆・蒔絵 | 1合 | 第八次漆工競技会 | |
| 118 | 辻村 松華 | 1867-1929 | 金地獅子蒔絵香合 | | 高3.0 径8.1 | 木・漆・蒔絵 | 1合 | | |
| 119 | 六角 紫水 | 1867-1950 | 理想界の図蒔絵手箱 | 1929(昭和4) | 高9.5 35.1×26.0 | 漆・金・銀・蒔絵・平文・螺鈿 | 1合 | 第10回帝展 | |
| 120 | 六角 紫水 | | 花を弄ぶ人 婦人用二重文具箱 | 1932(昭和7) | 高8.1 22.2×14.5 | 漆・金・銀・平文・彫刻蒔絵・螺鈿 | 1合 | 第13回帝展 | |
| 121 | 六角 紫水 | | 国宝當麻寺藏 俱利伽羅龍蒔絵経箱(模写) | 1922(大正11) | 高17.0 31.0×18.7 | 木・漆・蒔絵 | 1合 | | |
| 122 | 六角 紫水 | | 梅蒔絵手箱付属小箱 | 1924(大正13) | 高2.7 7.9×6.1 | 漆・蒔絵・平文 | 1件 | | |
| 123 | 六角 紫水 | | 螺鈿宝石小箱 | 1925(大正14) | 高4.0 10.5×8.7 | 木・漆・螺鈿・彫刻 | 1合 | | |
| 124 | 赤塚 自得 | 1871-1936 | 青貝象嵌鳳凰蒔絵香合 | | 高2.5 径9.5 | 木・漆・蒔絵・螺鈿 | 1合 | | |
| 125 | 植松 包美 | 1872-1933 | 卯の花研出蒔絵文庫 | | 高14.0 39.5×31.0 | 木・漆・蒔絵 | 1合 | | |
| 126 | 二十代堆朱楊成 | 1880-1952 | 唐華紋彫漆砵筥 | | 高12.3 胴径15.4 口径12.8 | 漆・堆漆・彫漆 | 1対 | | |
| 127 | 迎田 秋悦 | 1881-1933 | 平野の松歌蒔絵料紙文庫 | 1921(大正10) | 高14.3 41.2×34.5 | 木・漆・蒔絵・平文 | 1合 | | |
| 128 | 吉田源十郎 | 1896-1958 | 阿ざみ紋彫漆皮果物鉢 | | 高9.1 長径38.5 | 革・漆 | 1口 | | |
| 129 | 松田 権六 | 1896-1986 | 鷺蒔絵棚 | 1938(昭和13) | 高69.5 39.3×90.5 | 木・漆・蒔絵・螺鈿・平文・鎌倉彫 | 1基 | 第2回新文展 | |
| 130 | 音丸 耕堂 | 1898-1997 | 堆黒玉簪香盆 | 1930(昭和5) | 径37.2 | 漆・堆漆・彫漆 | 1枚 | | |
| 131 | 山崎覚太郎 | 1899-1984 | 奔瑞小屏風 | | 61.0×188.2 | 木・竹・漆・漆絵 | 2曲1隻 | | |
| 132 | 黒田 辰秋 | 1904-1982 | 朱塗円座卓 | | 高30.0 径84.0 | 木・漆 | 1基 | | |
| 133 | 増村 益城 | 1910-1996 | 髹飾盛器 | 1960(昭和35) | 高9.6 径44.3 | 漆・髹漆 | 1点 | 第七回日本伝統工芸展・文化財保護委員会委員長賞 | |

関連事業

(1) 美術講座「山路商一時代と作品」

日時：11月24日(日) 13:30~14:30

講師：藤崎 綾(当館主任学芸員)

会場：地階講堂

参加者：33人

(2) リレートーク

日時：10月25日(金) 15:00~

講師：角田 新(当館主任学芸員)、藤崎 綾(当館主任学芸員)、
隅川 明宏(当館主任学芸員)、岡地 智子(当館主任学芸員)

会場：2階展示室

参加者：19人



- (3) インスタライブ配信
 ①②日本洋画 ③日本画 ④工芸
 日 時：①10月29日(火)②11月12日(火)③11月19日(火)④12月10日(火)
 各日17：00～
 講 師：①②角田 新(当館主任学芸員)、藤崎 綾(当館主任学芸員)
 ③隅川 明宏(当館主任学芸員) ④岡地 智子(当館主任学芸員)
 参加者：①24人 ②26人 ③46人 ④65人
- (4) フリートークデー
 日 時：12月7日(土)9：00～17：00
 会 場：2階展示室
 ①対話によるギャラリートーク
 時 間：13：00～14：00
 ナビゲーター：山下 寿水(当館主任学芸員)
 参加者：5人
 ②作品の缶バッジをもって、作品を探しに行こう！(缶バッジ配布、先着100名)
- (5) ARフォトフレーム設置

関連報道・記事

- (1) 新聞
 12/3 中国新聞「戦前期広島 前衛の息吹 広島県立美術館で「山路商」展」
- (2) 雑誌
 『リビングひろしま』11月22日号、『広島交響楽団第446回定期演奏会プログラム』11月27日号、
 『くれえばん』12月号



照明工事により所蔵作品展閉室中に実施した事業

- (1) ワークショップ「スズニ刺繍のフレームを作ろう」(3回コース)
 日 時：①2月15日(土) ②3月1日(土) ③3月29日(土)
 各日13：15～16:00
 会 場：①②オンライン(zoom) ③3階大会議室とオンライン(zoom)
 講 師：福田 浩子(当館学芸課長)、岡地 智子(当館主任学芸員)
 参加者：①14人 ②13人 ③14人
- (2) インスタライブ「美術館のひみつ」配信



| 日 時 各日16：00～ | 講 師 | 内 容 | 参加者 (人) |
|-----------------|---------------------------------|----------------|------------|
| 1月21日(火) | 山下 寿水(当館主任学芸員) | 美術館の裏側、作品の裏側 | 53 |
| 2月4日(火) | 神内 有理(当館主任学芸員) | 自主企画展の裏側 | 67 |
| 2月18日(火) | 角田 新(当館主任学芸員) | スポットライト | 105 |
| 3月4日(火) | 岡地 智子(当館主任学芸員) | 作品と箱 | 56 |
| 3月18日(火) | 藤崎 綾(当館主任学芸員)、 角田 新(当館主任学芸員) | 写真撮影(日本洋画編) | 50 |
| 4月1日(火) | 隅川 明宏(当館主任学芸員) | 掛ける、巻く、めくる、立てる | 54 |
| 4月8日(火) | 福田 浩子(当館学芸課長) | 展示の工夫、地震対策 | 60 |

縮景園連携企画

お庭で鑑賞、児玉希望 ARで繋がる美術館と縮景園

令和5年度に続き、美術館との連携企画を縮景園において開催した。広島県立美術館と大名庭園・縮景園は、隣接する県有施設であるが、必ずしもその両方を訪れる人ばかりではないため、広島県立美術館での特別展「近代日本画の真髄 児玉希望 一千変万化、驚異の筆力展」開催にちなんで、美術館と縮景園とをAR(拡張現実)を介して繋げようと試みた。

日本画の可能性を追求した児玉希望(1898(明治31) - 1971(昭和46))は、花鳥画から抽象絵画まで多彩な画業を展開した画家である。本企画では、縮景園内の「超然居」「悠々亭」「駐杖榻」「芝生広場」の4か所にQRコード付きのパネルを設置。スマートフォンでそれらを読み取ることによって、10点超の児玉希望作品(トリミング済)を縮景園の景色と重ね合わせて撮影ができるという、新たな鑑賞体験を提供した。

両施設をAR(拡張現実)で接続する初めての取組であり、広報手段に難しさも見られたが、美術館・縮景園の回遊の強化へと繋げることができた。

(総括担当者：山下 寿水)

日時：10月4日(金)～11月17日(日) ※12月1日(日)まで延長 9：00～18：00

利用者：4,635人



関連事業

- (1) 美術館から庭へー児玉希望展の担当学芸員によるギャラリートーク

日時：10月11日(金) 15:00～16：00

講師：神内 有理(当館主任学芸員)

会場：3階企画展示室、縮景園

参加者：15人

関連報道・記事

- (1) 雑誌等

『Wendy』8月号

その他

- ・リーフレット製作(10,000部)



Ⅲ 普及活動

1 第12回新県美展(第76回広島県美術展)

本展は「広く県民から美術作品を公募し、優れた作品を展示することにより、創作活動の振興を図るとともに、鑑賞の機会を提供し、もって芸術文化の向上に資すること」を目的に、昭和24年以来開催している。平成25年度には、より広く県民が参加できる美術展をめざして、新たに映像系部門を加え、また、入館者人気大賞を実施するなどの見直しを行い、「新県美展」としてリニューアルした。

本年度は、一般部門では応募点数580点のうち276点が入選。うち、受賞作品55点(大賞5点、優秀賞13点、奨励賞37点)。ジュニア部門では応募点数580点のうち301点が入選。うち、受賞作品45点(大賞5点、優秀賞9点、奨励賞31点)。これら入選作品に加え、県内における制作指導や美術文化の発展に貢献した招待作家4名の作品を展示。また、期間中の入館者人気投票により入館者人気大賞7点が選定された。

主 催／広島県

共 催／三原市教育委員会、福山市、府中市、三次市教育委員会、庄原市教育委員会、
世羅町教育委員会、広島県教育委員会、中国新聞社

後 援／NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、
広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、
FMはつかいち76.1MHz、リビングひろしま

協 力／広島市信用組合、やまだ屋

開催会場、期間および観覧者数

| | 会 場 | 会 期 | 観覧者数 |
|-------|-------------|-------------------|--------|
| 広 島 県 | 広島県立美術館 | 6月15日(土)～6月30日(日) | 4,260人 |
| 世 羅 町 | 世羅町せら文化センター | 7月10日(水)～7月14日(日) | 200人 |
| 福 山 市 | ふくやま美術館 | 7月17日(水)～7月21日(日) | 1,311人 |
| 府 中 市 | 府中市生涯学習センター | 7月31日(水)～8月4日(日) | 279人 |
| 庄 原 市 | 庄原自治振興センター | 8月7日(水)～8月11日(日) | 122人 |
| 三 次 市 | 三良坂平和美術館 | 8月14日(水)～8月18日(日) | 154人 |
| 三 原 市 | 三原リージョンプラザ | 8月21日(水)～8月25日(日) | 404人 |

合計 6,730人

関連記事

5/17 中国新聞「第12回新県美展の応募作品搬入始まる 広島県立美術館」

5/24 中国新聞「第12回新県美展 応募総数は580点 広島」

6/1 中国新聞「広島の新県美展、7部門で276点入選 大賞は絵画・藤永さん、写真・河野さんら」

6/13 中国新聞「第12回広島新県美展 絵画部門で大賞の光成智恵さん(58) = 福山市」

6/14 中国新聞「第12回広島新県美展 映像部門で大賞の河野淳さん(61) = 広島市東区」

6/16 中国新聞「新県美展中央展が開幕 広島県立美術館」

入賞者名簿(※◎は大賞、○は優秀賞、無印は奨励賞)

【一般部門】

| | | | | | |
|-------|------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 絵画系 | ◎藤永ツタ子 ○朝平 恭敬 金子 照子 蔵田 直子 | ◎光成 智恵 瀬尾 玲子 坪島 輝明 稲井 康之 | ○石出喜実子 伊藤 勇人 加藤 宣也 山下 和彦 | ○熊谷 美雄 澤田 礼子 頼 和明 | ○倉田喜久栄 若山 恵子 三浦 満 |
| 彫塑系 | ◎池田 安雅 | ○木須美和子 | 福宮 李陸 | | |
| 工芸系 | ◎和泉 春信 唐川 昌己 | ○毛利 明子 筒井紀久子 | ○水都結絆音 | 畑 里美 | 徳永恵美子 |
| 書系 | ◎鷺見 葦月 中野 光葉 | ○藤本 青楓 佐藤 智子 | ○比原 昭子 森 啓子 | 岡田 静香 鶴川 稲山 | 上向井蓬舟 今田 誠 |
| 写真系 | ◎河野 英孝 山根 明代 後藤 雅哉 | ○岡田 英治 中本 満康 | ○柳 謙二 長谷山勝英 | 津島 裕子 白石 淑子 | 田端 富男 渥美 和行 |
| デザイン系 | ◎中島 靖雄 | ○杉原 秀樹 | 小島 信行 | | |
| 映像系 | ◎河野 淳 | ○篠原 祐木 | 河井 那月 | | |

【ジュニア部門】

| | | | | | |
|---------|-----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|---|-------|
| 絵画系 | ◎三宅 正悟 盆子原うた 上田 大翔 三浦 和奏 | ○濱田命一輝 世良 樹 加藤 未悠 渡邊 恋音 | ○沖田 篤志 沖本 晴道 岡本 実玲 梶谷 菜子 | ○康 馨藝 ARADANAS NIIYUKI NISHI 石原 可菜 高原 玲那 | |
| 工作(工芸)系 | ◎城山あいな 築山優里音 桂 一賀 | ○馬場 理人 住吉 昭飛 浅野 心絆 | ○中田 楓 長見 佑莉 福重千乃栄 | ○榑崎 桜 | 齋藤 里緒 |
| 彫刻系 | ◎谷迫 拓弥 大吉 琉生 | ○榑崎 桜 一関 優衣 | ○堂本 一牙 三宅 椰央 | 矢野 幸恵 | 前田 悠吾 |
| 写真系 | ◎森下 日向 | ○中川 湮 | 岩崎 壮真 | | |
| デザイン系 | ◎楠本有梨亜 杉本 結衣 | ○菅原 悠陽 | 稲田 陽心 | 北川 桃子 | 高廣 綾花 |

2 博物館実習

大学及び短期大学における博物館学講座の単位習得の一環として、博物館学を履修する学生を一時的に受け入れ、博物館現場における知識及び技能を修得させることにより、人材の育成を図ることを目的として実施している。開設日時とカリキュラム、および受入先は次のとおり。

(実習担当者：角田 新)

実施日時と内容

| | | |
|-------------|-------------|---|
| 8月19日(月) | 9:30～10:00 | 開講挨拶・オリエンテーション |
| | 10:00～11:00 | 館長講話 |
| | 11:00～12:00 | 講座①「美術館と学芸活動」 |
| | 13:00～13:30 | 見学① 館内 |
| | 13:30～14:30 | 見学② 所蔵作品展 |
| | 14:30～15:30 | 講座②「総務(全般・予算・広報)・施設管理について」 |
| | 15:30～16:00 | 広報企画実習①(課題説明) |
| 8月20日(火) | 9:30～10:30 | 講座③「対話型鑑賞」(講義と実践) |
| | 10:30～11:30 | 広報企画実習②(発表・ディスカッション) |
| | 11:30～12:00 | ワークショップ実習①(概論) |
| | 13:00～16:00 | ワークショップ実習②(企画立案) |
| 8月21日(水) | 9:30～10:30 | 講座④「美術館の展示環境・展示手法」 |
| | 10:30～12:00 | 講座⑤「金曜ロードショーとジブリ展」の見学に代えて 「企画展の意義と実施の工夫」 |
| | 13:00～14:00 | 作品取扱い実習・調書作成①(日本洋画) |
| | 14:00～15:00 | 作品取扱い実習・調書作成②(日本画) |
| | 15:00～16:00 | ワークショップ実習③(展開) |
| | 8月22日(木) | 9:30～10:30 |
| 10:30～12:00 | | ワークショップ実習④(集約) |
| 13:00～16:00 | | ワークショップ実習⑤(制作) |
| 8月23日(金) | 9:30～12:00 | ワークショップ実習⑥(発表準備) |
| | 13:00～14:30 | ワークショップ実習⑦(発表) |
| | 14:30～15:00 | 受講生ディスカッション |
| | 15:00～16:00 | 振り返り |

受講生所属大学

尾道市立大学、京都芸術大学、県立広島大学、神戸大学、東京工芸大学、比治山大学、広島市立大学、広島大学、広島女学院大学、安田女子大学(10大学、計22名)

広報企画実習

大学生をターゲットとして、当館所蔵作品展の広報企画立案を行った。初日にワークシートを配布し、まずは各自で企画案を考えてくることを課題とした。2日目は5班に分かれディスカッションし、受講者は各々の案を他の班員と共有し、ブラッシュアップしたのち一つの企画とし班ごとに発表を行った。SNSで所蔵品にまつわる連載漫画を活用するアイデア、あるいは交通広告にQRコードを積極的に活用することや、SNSを使った広報では画面上でのクオリティを維持しなければ拡散しない、など企画案もさることながら様々な視点から多彩なアイデアが提示された。

ワークショップ実習

メインカリキュラムでは、「当館で開催するにふさわしいワークショップ」を企画することとし、その際、どのような視点から当該ワークショップを企画するのか、美術館や美術文化、あるいは地域といった枠組みも含め、なぜ、どのような目的で、そのワークショップを開催するのかを明確に意識しながら企画を立案することとし、模擬的なワークショップを設計した。受講生は5班に分かれ、グループワークにより、各班で趣旨・目的、ターゲット、実施意義、等に応じたワークショップ内容、ワークショップ全体のテーマを決定。自身が注目した切り口を出発点としながら、調査や準備を通じてワークショップへの理解を深め、さらに参加者目線に立った実施内容を検討することで、学芸員の仕事を追体験した。各班のテーマ、対象者、内容は次のとおり。

| | |
|---|---|
| ① | 縮景園のもみじで作るリースとランプ(対象：12歳以下の児童と保護者のペア) 参加者が縮景園で集めた落ち葉を使う工作ワークショップ。自然に触れながら歴史や文化を学ぶことで、美術館と地域のつながりを強め、地域の魅力を伝える。縮景園と美術館をつなぐ効果が期待される。 |
| ② | 県美ゆかりの作家を知ろう(対象：小学校1～6年生 保護者同伴) 広島県立美術館所蔵の菅井汲と六角紫水の作品を参考に、菅井作品からはオリジナルのマーク制作を、また、六角紫水作品からは既存の箱への加飾を体験することで、対象となる作品以外の様々な分野の美術に対しても理解を広げ、興味を深めてもらう。 |
| ③ | 作品をコラボメニューで表現してみよう(対象：中高大学生) 美術に興味の薄い参加者にも興味を持ってもらえるよう、所蔵作品について対話型作品鑑賞を行い、その感想をもとに架空のコラボメニューを考え、イラストを描いて視覚化する。一連の作業を通して、参加者に対して美術に対する興味の糸口を提供する。 |
| ④ | ダブルイメージって何？ダリになりきって縮景園をスケッチ(対象：小学校3年生～中学生) 広島県立美術館ならではの特徴として、所蔵品からダリの《ヴィーナスの夢》を、また立地の特徴から隣接する縮景園を抽出し、ダリの多用したダブルイメージの手法を用い、参加者に縮景園のスケッチを行ってもらおうワークショップとした。むつかしいと思われがちな美術のハードルを下げ美術館に親しみを持ってもらおう効果を期待。 |
| ⑤ | 大竹和紙で作るランプシェード(対象：小学生1・2年生は保護者同伴) 地域の文化財に興味を持ってもらうため、地元の特産品に対する理解を深め、本物に触れ、地域との交流の場となる機会を提供する。また、定期的開催することで季節の変化を感じるなど、様々な感性をはぐくみ、参加者の美術作品鑑賞体験を深める機会を提供する。 |

3 学校・地域との連携事業

所蔵作品や鑑賞補助教材を活用した授業や講座を出張して行うことにより、学校や地域における美術鑑賞活動を支援し、美術館と学校や地域との相互交流を促進する。

出張講座

本講座は、県立美術館の学芸職員が公民館や生涯学習センター、学校などに出向き、スライドなど鑑賞補助教材を用いて行うもので次の2つのコースを設定した。

A コレクション・トーク 当館所蔵作品や地域文化などをテーマに行う講座(13講座)

B 特別展のためのとくべつ講座 当該年度に開催する特別展を紹介する講座(2講座)

令和6年度における実施状況は次表のとおりで、地域や学校における美術鑑賞活動を支援するとともに、特別展を普及広報し、美術館への関心や親しみを醸成した。

| No. | 開催日 | | | 会 場 | 講師 | コース | 講座タイトル | 参加 (人) |
|-----|-----|----|---|----------------|----|-----|------------------|-----------|
| | 月 | 日 | 曜 | | | | | |
| 1 | 8 | 24 | 土 | 岩国市市民文化会館 | 隅川 | A | 名勝縮景園の歴史と美意識 | 55 |
| 2 | 9 | 24 | 火 | 串戸市民センター | 山下 | A | 戦争は美術をいかに変えたか | 20 |
| 3 | 11 | 11 | 月 | 五日市すみれこども園 | 藤崎 | A | 絵画の探検 一楽しみ方のヒントー | 24 |
| 4 | 3 | 21 | 金 | 公務員共済組合連合会吉島病院 | 藤崎 | A | 絵画の探検 一楽しみ方のヒントー | 30 |

(全4会場／参加合計129人)

4 鑑賞支援制作物

(1) ワークシート

来館者の鑑賞を支援するため、おおむね小学校高学年以上を対象とした所蔵作品のワークシートを作成している。令和6年度は新たに3種類を作成し、合わせて345種となった。

| No. | 所蔵作品番号 | 作者名 | 作品名 | 制作年 | 材質・技法 |
|-----|--------|-------|------------|--------------|---------|
| 1 | J-373 | 片山 守春 | 富士図 | 1760(宝暦10)以前 | 絹・彩色・掛軸 |
| 2 | J-374 | 太田 午庵 | 嶺松廬図(頼春水賛) | 1804(文化元)頃 | 絹・彩色・掛軸 |
| 3 | E-001 | 丹洞山人 | 浪龍図 | 中国・明時代 | 絹・墨・掛軸 |



(2) ミニガイド

来館者の鑑賞を支援するため、所蔵作品展第3期コレクションフォーカスに合わせて、洋画家・山路商を紹介するミニガイドブック(A5、16頁)を新たに作成した。



5 学校等による利用状況

令和6年4月1日～令和7年3月31日までの利用状況(団体申込による)は、次のとおり。

概要

| 区分(団体・区域) | | 団体数 | 人数 | 引率等 | 総人数 | |
|-----------|-----|-------|------|-----|------|-----|
| 1 | 小学校 | (1)市内 | 4団体 | 161 | 15 | 176 |
| | | (2)県内 | 10団体 | 382 | 42 | 424 |
| | | (3)県外 | 2団体 | 26 | 2 | 28 |
| 2 | 中学校 | (1)市内 | 5団体 | 170 | 21 | 191 |
| | | (2)県内 | 3団体 | 75 | 17 | 92 |
| | | (3)県外 | 17団体 | 404 | 9 | 413 |
| 3 | 高校 | (1)市内 | 2団体 | 54 | 4 | 58 |
| | | (2)県内 | - | - | - | - |
| | | (3)県外 | 1団体 | 29 | 1 | 30 |
| 4 | その他 | (1)市内 | 4団体 | 53 | 10 | 63 |
| | | (2)県内 | 1団体 | 11 | 3 | 14 |
| | | (3)県外 | 1団体 | 20 | 2 | 22 |
| 合計 | | 50団体 | 1385 | 126 | 1511 | |

詳細

| 団体 | 区域 | 利用年月日 | 人数 | 引率等 | 総人数 | 利用目的 | 対応 | |
|----|--------------|-------|--------|-----|-----|------|-------|-------|
| 1 | 長門市立日置小学校 | (3)県外 | 10月10日 | 12 | 2 | 14 | 特・縮 | |
| | 安芸高田市立甲田小学校 | (2)県内 | 10月17日 | 37 | 4 | 41 | 特 | 学芸員解説 |
| | 安芸高田市立美土里小学校 | (2)県内 | 10月18日 | 18 | 2 | 20 | 特・所 | 学芸員解説 |
| | 安芸高田市立八千代小学校 | (2)県内 | 10月23日 | 50 | 5 | 55 | 特 | 学芸員解説 |
| | 安芸高田市立愛郷小学校 | (2)県内 | 10月25日 | 30 | 4 | 34 | 特・所 | 学芸員解説 |
| | 広島市立真亀小学校 | (1)市内 | 11月5日 | 23 | 4 | 27 | 特・所 | 学芸員解説 |
| | 安芸高田市立甲田小学校 | (2)県内 | 11月8日 | 38 | 4 | 42 | 特 | 学芸員解説 |
| | 安芸高田市立愛郷小学校 | (2)県内 | 11月12日 | 29 | 3 | 32 | 特・所 | 学芸員解説 |
| | 広島市立真亀小学校 | (1)市内 | 11月25日 | 22 | 4 | 26 | 所 | |
| | 安芸高田市立高宮小学校 | (2)県内 | 11月26日 | 65 | 10 | 75 | 特・所 | 学芸員解説 |
| | 安芸高田市立吉田小学校 | (2)県内 | 11月28日 | 58 | 4 | 62 | 特 | 学芸員解説 |
| | 安芸高田市立向原小学校 | (2)県内 | 11月29日 | 35 | 4 | 39 | 特・所 | 学芸員解説 |
| | 守山市立物部小学校 | (3)県外 | 12月7日 | 14 | 0 | 14 | 所・縮 | |
| | 広島市立舟入小学校 | (1)市内 | 2月26日 | 106 | 5 | 111 | 特 | 学芸員解説 |
| | 広島市立基町小学校 | (1)市内 | 3月3日 | 10 | 2 | 12 | 特 | 学芸員解説 |
| | 江田島市立中町小学校 | (2)県内 | 3月7日 | 22 | 2 | 24 | 特 | |
| 2 | 岡山市立福田中学校 | (3)県外 | 5月9日 | 5 | 1 | 6 | 所・縮 | |
| | 岩国市立岩国中学校 | (3)県外 | 5月9日 | 38 | 1 | 39 | 所 | |
| | 伊賀市立阿山中学校 | (3)県外 | 5月9日 | 10 | 0 | 10 | 所 | |
| | 岩国市立灘中学校 | (3)県外 | 5月15日 | 5 | 1 | 6 | 特・所・縮 | |
| | 鶴岡市立鶴岡第二中学校 | (3)県外 | 5月16日 | 12 | 0 | 12 | 所 | |
| | 岡山市立京山中学校 | (3)県外 | 5月17日 | 63 | 1 | 64 | 所 | |
| | 大阪市立豊崎中学校 | (3)県外 | 5月17日 | 55 | 0 | 55 | 所 | |
| | 岩国市立周東中学校 | (3)県外 | 5月17日 | 16 | 0 | 16 | 特・所 | |

| | 団体 | 区域 | 利用年月日 | 人数 | 引率等 | 総人数 | 利用目的 | 対応 |
|-----------|------------------|--------|--------|-----|-----|-----|-------|--------------------|
| 2 | 岩国市立美和中学校 | (3)県外 | 5月17日 | 5 | 0 | 5 | 所 | |
| | 岩国市立通津中学校 | (3)県外 | 5月23日 | 12 | 0 | 12 | 特 | |
| | 岩国市立平田中学校 | (3)県外 | 5月23日 | 33 | 0 | 33 | 所 | |
| | 宇治市立榎島中学校 | (3)県外 | 6月6日 | 18 | 0 | 18 | 所 | |
| | 創価中学校 | (3)県外 | 6月8日 | 24 | 2 | 26 | 所 | |
| | 岩国市立玖珂中学校 | (3)県外 | 6月27日 | 5 | 0 | 5 | 所 | |
| | 北広島町立大朝中学校 | (2)県内 | 9月11日 | 16 | 3 | 19 | 所 | |
| | 筑紫野市立筑紫野南中学校 | (3)県外 | 9月13日 | 38 | 3 | 41 | 所・縮 | |
| | 安芸高田市立高宮中学校 | (2)県内 | 10月15日 | 31 | 10 | 41 | 特 | 学芸員解説 |
| | 岡山市立福南中学校 | (3)県外 | 10月17日 | 4 | 0 | 4 | 特・所 | |
| | 安芸高田市立向原中学校 | (2)県内 | 11月25日 | 28 | 4 | 32 | 特・所 | 学芸員解説 |
| | 岡山市立旭東中学校 | (3)県外 | 11月29日 | 61 | 0 | 61 | 所 | |
| | 広島市立江波中学校 | (1)市内 | 12月18日 | 11 | 3 | 14 | 所 | 友の会ボランティア ガイド解説 |
| | 広島市立国泰寺中学校 | (1)市内 | 12月18日 | 5 | 2 | 7 | 所 | 友の会ボランティア ガイド解説 |
| | 広島市立幟町中学校 | (1)市内 | 12月18日 | 2 | 1 | 3 | 所 | 友の会ボランティア ガイド解説 |
| | 広島女学院中学校 | (1)市内 | 1月18日 | 144 | 10 | 154 | 特・縮 | |
| 広島市立吉島中学校 | (1)市内 | 2月26日 | 8 | 5 | 13 | 特 | | |
| 3 | 広島工業大学高等学校 通信制過程 | (1)市内 | 10月9日 | 7 | 3 | 10 | 特・縮 | 学芸員解説 |
| | 浜松学芸高等学校 | (3)県外 | 11月20日 | 29 | 1 | 30 | 特・所 | |
| | 広島大学附属高等学校 | (1)市内 | 2月20日 | 47 | 1 | 48 | 特 | |
| 4 | 比治山大学 | (1)市内 | 5月18日 | 28 | 1 | 29 | 特 | |
| | 穴吹デザイン専門学校 | (1)市内 | 6月27日 | 17 | 3 | 20 | 特 | |
| | 北広島町教育委員会 | (2)県内 | 10月27日 | 11 | 3 | 14 | 所 | 友の会ボランティア ガイド解説 |
| | 法政大学 | (3)県外 | 12月14日 | 20 | 2 | 22 | 所 | |
| | 広島女学院大学 | (1)市内 | 12月21日 | 6 | 1 | 7 | 所 | 学芸員解説 |
| 県立広島大学 | (1)市内 | 12月21日 | 2 | 5 | 7 | 特 | 学芸員解説 | |

※利用目的について、「特」は特別展、「所」は所蔵作品展、「縮」は縮景園の利用を表す。

6 県民ギャラリー利用状況

令和6年4月1日～令和7年3月31日までの利用状況は、次のとおり。

| 利用団体 | 延べ開催日数 | 延べ入場者数 |
|------|--------|--------|
| 入場有料 | 4団体 | 24日 |
| 入場無料 | 76団体 | 456日 |
| 計 | 80団体 | 480日 |

利用団体一覧表

| 展覧会名 | 会期 | 展示室 | 内 容 | 出品点数 | 入場料金 | 入場者数 |
|---------------------------|-----------|-----------|---------------|------|--|--------|
| 第33回 グループ宙遊展 | 4/1～4/8 | 1 | 絵画 | 32点 | 無料 | 476人 |
| 佃 静聞・春秋展 | 4/1～4/8 | 2 | 絵画 | 33点 | 無料 | 461人 |
| “公募2024”第45回 関西綜美会展 | 4/1～4/8 | 3 4 5 | 絵画・彫塑・工芸・書・写真 | 129点 | 無料 | 1,024人 |
| 小宮英夫回顧展－此岸への眼差し－ | 4/8～4/15 | 1 2 3 | 絵画 | 110点 | 無料 | 647人 |
| 第9回広島一水会展・第43回路展 | 4/8～4/15 | 4 5 | 絵画 | 106点 | 無料 | 877人 |
| 第33回 波の会展 | 4/15～4/22 | 1 2 3 4 5 | 絵画 | 180点 | 無料 | 1,485人 |
| 染色展示(空想工房) | 4/22～4/29 | 1 | 工芸 | 12点 | 無料 | 230人 |
| 是永昭宏絵画展 | 4/22～4/29 | 2 | 絵画 | 41点 | 無料 | 740人 |
| 山本満晴+ともだち作品展 | 4/22～4/29 | 3 4 | 絵画・彫塑・写真・その他 | 143点 | 無料 | 600人 |
| 第54回 広島県日本画協会展 | 4/22～4/29 | 5 | 絵画 | 33点 | 無料 | 734人 |
| 第35回 広島日展会 | 4/29～5/6 | 1 2 3 4 5 | 絵画・彫塑・工芸・書 | 121点 | 無料 | 2,705人 |
| 第66回 新協展 | 5/6～5/13 | 1 2 3 4 5 | 絵画・工芸 | 102点 | 無料 | 1,583人 |
| 第72回 光陽展広島準本展 | 5/13～5/20 | 1 2 3 4 5 | 絵画 | 99点 | 無料 | 1,061人 |
| 第62回 大調和会広島巡回展 | 7/8～7/15 | 1 2 | 絵画 | 63点 | 無料 | 780人 |
| 第63回 新制作広島グループ | 7/8～7/15 | 3 4 5 | 絵画・彫塑 | 60点 | 無料 | 912人 |
| 第110回記念 光風会 | 7/15～7/22 | 1 2 3 4 5 | 絵画・工芸 | 145点 | 一般前売 400円 高大生前売 300円 一般当日 600円 高大生当日 500円 | 6,430人 |
| Image photograph art 2024 | 7/22～7/29 | 1 | 書・写真 | 37点 | 無料 | 343人 |
| 第56回 黄人展 | 7/22～7/29 | 2 3 | 絵画・彫塑 | 52点 | 無料 | 769人 |
| 奥田哲章・浩子二人展 | 7/22～7/29 | 4 | 絵画 | 68点 | 無料 | 513人 |
| 第67回 広島県児童画連盟展 | 7/29～8/5 | 1 | 絵画・工芸 | 139点 | 無料 | 378人 |
| 第21回 むいち会 | 7/29～8/5 | 2 | 絵画・書 | 38点 | 無料 | 548人 |
| 第59回 広島形象派展 | 7/29～8/5 | 3 | 絵画 | 44点 | 無料 | 409人 |
| 心書倶楽部展 | 7/29～8/5 | 4 5 | 絵画・書 | 203点 | 無料 | 406人 |
| 茜会会員の日本画作品展示 | 8/5～8/12 | 1 | 絵画 | 32点 | 無料 | 621人 |
| 第111回 日本水彩展 | 8/5～8/12 | 2 3 4 5 | 絵画 | 130点 | 無料 | 2,571人 |
| 第64回 日本版画会展(広島会場) | 8/12～8/19 | 1 2 3 | その他(版画) | 88点 | 無料 | 1,149人 |
| 隠地妙展 | 8/12～8/19 | 4 5 | 絵画 | 31点 | 無料 | 133人 |
| 第75回 毎日書道展中国展 | 8/19～8/26 | 1 2 3 4 5 | 書 | 870点 | 一般 600円 高校生以下 無料 | 4,764人 |
| 第90回記念 東光展 | 8/26～9/2 | 1 2 3 4 5 | 絵画 | 142点 | 一般 600円 高校生以下 無料 | 2,792人 |
| 第38回 日洋展広島会場 | 9/2～9/9 | 1 2 3 4 5 | 絵画 | 85点 | 前売一般 500円 当日一般 600円 大学生以下 無料 | 2,644人 |
| 第8回 麦の会日本画展 | 9/9～9/16 | 1 | 絵画 | 40点 | 無料 | 556人 |

| 展覧会名 | 会期 | 展示室 | 内容 | 出品点数 | 入場料金 | 入場者数 |
|---|-------------|-----------|----------------|--------|------|--------|
| 第47回 グループ「集」展 | 9/9～9/16 | 2 | 絵画 | 31点 | 無料 | 870人 |
| 第36回 クロッキー同好会 人物素描展 | 9/9～9/16 | 3 | 絵画 | 60点 | 無料 | 659人 |
| 第39回 広島市立基町高等学校 美術部・創造表現コース卒業生による 桐美会展 | 9/9～9/16 | 4 | 絵画・彫塑・工芸・書・その他 | 81点 | 無料 | 889人 |
| 第59回 グループいしがき展 | 9/9～9/16 | 5 | 絵画 | 81点 | 無料 | 885人 |
| 広島筆文化研究会主催 第7回 公募展 | 9/16～9/23 | 1 2 | 絵画 | 37点 | 無料 | 611人 |
| 第52回 広島彫刻展 | 9/16～9/23 | 3 | 彫塑 | 19点 | 無料 | 509人 |
| 第38回 一般社団法人新興美術院 広島支部展 | 9/16～9/23 | 4 | 絵画 | 28点 | 無料 | 468人 |
| 藤井節 絵画展・あの時ミンは海を渡った | 9/16～9/23 | 5 | 絵画 | 73点 | 無料 | 619人 |
| 第41回 産経国際書展瀬戸内展 | 9/23～9/30 | 1 2 3 4 5 | 書 | 561点 | 無料 | 890人 |
| 第52回 日本の書展 | 9/30～10/7 | 1 2 3 4 5 | 書 | 553点 | 無料 | 4,070人 |
| 第10回 キヤノンフォトクラブ写真展 | 10/7～10/14 | 1 | 写真 | 36点 | 無料 | 395人 |
| 第45回 広島広告企画制作賞応募作品展 | 10/7～10/14 | 2 3 | その他(平面・立体・映像) | 136点 | 無料 | 637人 |
| 第54回 渦展 | 10/7～10/14 | 4 | 絵画 | 37点 | 無料 | 574人 |
| 第57回 広島県写真連盟展 | 10/7～10/14 | 5 | 写真 | 138点 | 無料 | 627人 |
| 広島YMCA芸大美大受験科 2024年度生徒作品展 | 10/14～10/21 | 1 2 | 絵画・工芸 | 340点 | 無料 | 641人 |
| 第46回 二科会写真部広島支部公募展 | 10/14～10/21 | 3 4 5 | 写真 | 208点 | 無料 | 1,076人 |
| 津島 良伍 写真展 -猫景- | 10/21～10/28 | 1 | 写真 | 25点 | 無料 | 250人 |
| 第7回 彩遊会展(水彩画) | 10/21～10/28 | 2 | 絵画 | 21点 | 無料 | 661人 |
| 下岡 行と仲間の作品展 #以後26・「まだまだ」と声が聴こえる | 10/21～10/28 | 3 | 絵画・彫塑・工芸 | 61点 | 無料 | 425人 |
| 第29回 ROSÉ野ばら展 | 10/21～10/28 | 4 | 絵画 | 63点 | 無料 | 532人 |
| 第22回 津賀水彩画教室作品展 | 10/21～10/28 | 5 | 絵画 | 82点 | 無料 | 559人 |
| あいサポートアート展 | 10/28～11/4 | 1 2 3 4 5 | 絵画・工芸・書・その他 | 396点 | 無料 | 1,541人 |
| 第48回広島県高等学校総合文化祭 第56回広島県高等学校美術・工芸展 (中央展) | 11/4～11/11 | 1 2 3 4 5 | 絵画・彫塑・その他 | 552点 | 無料 | 1,052人 |
| 第48回広島県高等学校総合文化祭 第56回広島県高等学校書道展 | 11/11～11/18 | 1 2 3 4 5 | 書 | 363点 | 無料 | 737人 |
| 第33回 広島県シルバー作品展 | 11/18～11/25 | 1 2 3 4 5 | 絵画・彫塑・工芸・書・写真 | 240点 | 無料 | 1,528人 |
| 2025 二科広島支部合同展 (絵画・彫刻・デザイン) | 1/6～1/13 | 2 3 4 | 絵画・彫塑・その他 | 106点 | 無料 | 1,004人 |
| 第42回 彩友会展 | 1/6～1/13 | 5 | 絵画 | 53点 | 無料 | 394人 |
| 第55回 元陽展広島会場 | 1/13～1/20 | 1 2 3 4 | 絵画 | 79点 | 無料 | 2,369人 |
| ハナサクモリの大冒険 | 1/13～1/20 | 5 | 絵画・彫塑・書・その他 | 64点 | 無料 | 204人 |
| 比治山大学短期大学部美術科 第57回卒業制作展・第23回修了制作展 | 1/20～1/27 | 1 2 3 4 5 | 絵画・工芸・その他 | 119点 | 無料 | 892人 |
| 第77回 広島県児童生徒書道展 | 1/27～2/3 | 1 2 3 4 5 | 書 | 1,930点 | 無料 | 2,777人 |
| 第77回 二紀展 第52回 広島巡回展 | 2/3～2/10 | 1 2 3 4 5 | 絵画・彫塑 | 127点 | 無料 | 3,371人 |
| 第33回(2025年)ぐる～ぶNAN作品展 | 2/10～2/17 | 1 | 絵画 | 48点 | 無料 | 602人 |
| 第24回全日本写真連盟 広島県本部展 第80回朝日写真展 第21回全日本動物写真展 第24回広島県本部展 | 2/10～2/17 | 2 3 | 写真 | 198点 | 無料 | 876人 |
| 第6回 日本風景写真協会 広島第二支部展 | 2/10～2/17 | 4 | 写真 | 40点 | 無料 | 669人 |

| 展 覧 会 名 | 会 期 | 展 示 室 | 内 容 | 出 品 点 数 | 入 場 料 金 | 入 場 者 数 |
|--|-----------|-----------|------------------------|---------|---------|---------|
| 北翔展 | 2/10～2/17 | 5 | 絵画 | 48点 | 無料 | 570人 |
| ニッコールクラブ広島支部 第7回写真展 | 2/17～2/24 | 1 | 写真 | 44点 | 無料 | 343人 |
| 第63回広島大学大学院 人間社会科学部研究科 造形芸術教育学領域 教育学部 造形芸術系 コース 修了・卒業制作展/論文発表会 | 2/17～2/24 | 2 3 | 絵画・彫塑・工芸・ その他(デザイン) | 72点 | 無料 | 650人 |
| 令和6年度 広島県立熊野高等学校 芸術類型 美術コース・書道コース 卒業作品展 | 2/17～2/24 | 4 5 | 絵画・彫塑・書・その他 | 108点 | 無料 | 1,564人 |
| 第56回 安田女子大学書道学科卒業制作展 併催 安田女子大学書道学科展 安田学園小・中・高等学校書道展 | 2/24～3/3 | 1 2 3 4 5 | 書 | 231点 | 無料 | 1,103人 |
| 第73回 書の友全国書道展覧会 | 3/3～3/10 | 1 2 3 4 5 | 書 | 2,085点 | 無料 | 2,188人 |
| 第3回 「版画アート展」 | 3/10～3/17 | 1 | 絵画 | 41点 | 無料 | 683人 |
| 第13回 新構造広島巡回展 | 3/10～3/17 | 2 3 | 絵画・工芸・写真・その他(版画) | 43点 | 無料 | 1,141人 |
| 広島国画グループ展 | 3/10～3/17 | 4 5 | 絵画・工芸・その他(版画・彫刻) | 71点 | 無料 | 1,007人 |
| 第38回 不二現代書展 | 3/17～3/24 | 1 2 3 4 5 | 書 | 377点 | 無料 | 955人 |
| 第47回 広島県工芸美術作家協会展 | 3/24～3/31 | 1 | 工芸 | 21点 | 無料 | 394人 |
| 出本正彦 柿渋染・襦袢・デニム展 | 3/24～3/31 | 2 | 工芸 | 100点 | 無料 | 434人 |
| 広島YMCA アートクラス作品展 こども&おとな(PETALS) | 3/24～3/31 | 3 | 絵画・その他(立体) | 477点 | 無料 | 766人 |
| 第59回 ひろしま美術研究所展 | 3/24～3/31 | 4 5 | 絵画・その他(立体) | 300点 | 無料 | 632人 |

7 友の会事業報告

「すぐれた美術作品に接し、それを鑑賞する楽しさを分かち合いながら、自分自身を高めてゆく」ことを目的に昭和47年1月21日に発足した。平成3年から平成8年までの新館工事中は会自体が休止状態にあったが、リニューアルオープンを機に友の会もボランティアで運営する新しい組織となり、会員相互の親睦と美術館の事業にも協力・支援することを目的として、平成9年4月1日付けで再出発した。

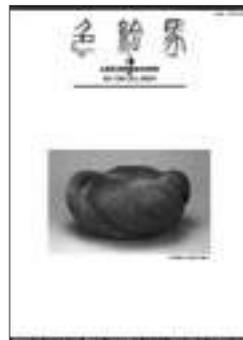
会員数 827人(個人453人 家族304人 学生57人 賛助13人 特別賛助0人)

(1) 会報の発行

- ・発行 105～108号
- ・配布先 会員、美術館関係等



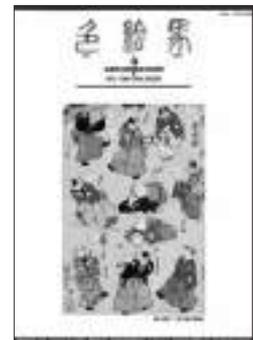
『色絵馬』No.105



『色絵馬』No.106



『色絵馬』No.107



『色絵馬』No.108

(2) 美術情報の発行及び催し物の案内

- ・美術情報 135～138号
- ・友の会ニュース 194～198号

(3) 所蔵作品展のボランティアによるギャラリーガイド

- ・定時：火曜日～日曜日(祝日を含む) 14時から実施
特別展開催中の月曜開館日は、14時から実施
- ・臨時：団体申し込み及び美術館の要請により随時実施
- ・ギャラリーガイド実績(令和6年5月1日～12月24日)
定時：441名(ガイド延べ人員239名)
団体：75名(ガイド延べ人員8名)

(4) ボランティア・ギャラリーガイド研修

◆所蔵作品展研修(美術館共催)

令和6年6月8日(土)、9月7日(土)、令和7年3月22日(土)
年3回 延べ参加人数：35人

◆ギャラリーガイド研修

勉強会・月例会 年3回 延べ参加人数：37人

(5) 第71回日本伝統工芸展出張授業支援

日付：令和7年1月21日(火)

講師：小林 松斎(木工)

場所：広島市立中筋小学校(4年生3クラス106人)

支援者：4名



日本伝統工芸展出張授業支援 2025. 1. 21

(6) 特別展関連講演会等（美術館と共催）

◆令和6年5月11日(土)「ブルターニュの光と風」展関連

演 題：「ブルターニュの言葉と文化」

講 師：大場 静枝(広島市立大学教授)

参加者：81人

◆令和6年11月23日(土・祝)「近代日本画の真髄 児玉希望—千変万化、驚異の筆力展」関連

演 題：「鬼になれ—内弟子からみた児玉希望」

講 師：石原 進(日本画家・日展会員)

参加者：98人

◆令和7年1月11日(土)「もしも猫展」関連

演 題：「国芳 猫を描く」

講 師：津田 卓子(名古屋市博物館学芸員)

参加者：101人

◆令和7年2月24日(月・振休)「第71回日本伝統工芸展」関連

演 題：「日本伝統工芸展と私の仕事」

講 師：須田 賢司(重要無形文化財「木工芸」保持者)

参加者：61人

(7) 「もっと知ろうシリーズ」(美術館と共催)

◆第55回 令和6年5月21日(火)

演 題：「光と風の世界」

講 師：広島県立美術館第1期所蔵作品展 各室担当学芸員

場 所：広島県立美術館 所蔵作品展示室(2階)

参加者：25人

(8) 美術鑑賞の旅

◆お散歩美術鑑賞会

◇第20回 ひろしま美術館「オディロン・ルドン—光の夢、影の輝き」展

日 付：令和7年2月15日(土)

講 師：農澤 美穂子(ひろしま美術館学芸員)

参加者：22人

◆日帰り美術鑑賞旅行

◇東広島市立美術館「ヨハネ・パウロ2世美術館展」

下瀬美術館「加山又造—革新を求めて」展

日 付：令和6年5月29日(水)

参加者：39人

◇ふくやま美術館「神坂雪佳—つながる琳派スピリット」展

井原市立平櫛田中美術館「鏡獅子 20年ぶりの里帰り」

華鶴大塚美術館「コレクション展 春容—はなとりの雛飾りとともに—」

日 付：令和7年3月5日(水)

参加者：38人



日帰り旅行・下瀬美術館 2024.5.29

Ⅳ 事業実施状況

| 事業名 | 事業内容 | 実施期間 |
|------------|--|---|
| 展覧会 | | |
| 333,239名 | | |
| 特別展 | 県民に多様な美術作品の鑑賞機会を提供し本県の芸術文化の向上に資するため、特別展を開催した。 | |
| 276,172名 | | |
| (13,842名) | ブルターニュの光と風 | 4月13日～6月2日 |
| (215,266名) | 金曜ロードショーとジブリ展 | 7月13日～9月23日 |
| (16,201名) | 近代日本画の真髄 児玉希望-千変万化、驚異の筆力展 | 10月4日～12月1日 |
| (17,502名) | もしも猫展 | 12月19日～2月9日 |
| (9,101名) | 第71回日本伝統工芸展 | 2月19日～3月9日 |
| (4,260名) | 【広島県主催事業】第12回新県美展(第76回広島県美術展) | 6月15日～6月30日 |
| 所蔵作品展 | 広島県ゆかりの美術作品、日本とアジアの工芸作品、1920-30年代の美術作品をテーマとする当館の所蔵作品を展示し、県民の鑑賞に供した。 | 4月1日～12月24日 ※12月25日～3月31日は展示室修繕のため閉室 |
| 57,067名 | | |
| 教育普及 | 特別展、所蔵作品展等それぞれの事業に応じた学習の機会を提供することにより、県民の美術作品に対する関心を高め、理解を深めた。インスタライブなどオンラインでも実施した。 | |
| 一般 | | |
| 美術講演会 | | |
| 475名 | | |
| 150名 | ブルターニュの光と風展 | |
| (69名) | 「ブルターニュの光と風」 講師：千足伸行(当館館長、本展監修者) | 4月13日(13:30～) |
| (81名) | 「ブルターニュの言葉と文化」 講師：大場静枝(広島市立大学教授) | 5月11日(13:30～) |
| 163名 | 児玉希望展 | |
| (65名) | 「児玉希望の画業と近代日本画のあゆみ」 講師：神内有理(当館主任学芸員) | 11月2日(13:30～) |
| (98名) | 「鬼になれー内弟子から見た児玉希望」 講師：石原進(日本画家・日展会員) | 11月23日(13:30～) |
| 101名 | もしも猫展 | |
| (101名) | 「国芳、猫を描く」 講師：津田卓子(名古屋博物館学芸員) | 1月11日(13:30～) |
| 61名 | 伝統工芸展 | |
| (61名) | 「日本伝統工芸展と私の仕事」 講師：須田賢司(重要無形文化財「木工芸」保持者) | 2月24日(13:30～) |
| 美術講座 | | |
| 122名 | | |
| 89名 | ブルターニュの光と風展 | |
| (89名) | 「画家と旅するブルターニュ」 講師：森万由子(当館学芸員) | 5月26日(13:30～) |
| 33名 | 所蔵作品展 | |
| (33名) | 「山路商一時代と作品」 講師：藤崎綾(当館主任学芸員) | 11月24日(13:30～) |
| 対談 | | |
| 40名 | 伝統工芸展 | |
| (40名) | 実は先輩×後輩！「広島市立大学出身の金工作家が語る、学生時代の思い出と創作の裏側」 講師：佐故龍平(2002年博士前期課程修了)、河田歩里(博士前期課程2年) | 2月22日(13:30～) |
| リレートーク | | |
| 30名 | 所蔵作品展 | |
| (11名) | 第1期 講師：森万由子(当館学芸員)、藤崎綾(当館主任学芸員)、神内有理(当館主任学芸員)、岡地智子(当館主任学芸員) | 5月10日(15:00～) |

| 事業名 | 事業内容 | 実施期間 |
|----------|---|----------------|
| | (19名) 第3期 講師：角田新(当館主任学芸員)、藤崎綾(当館主任学芸員)、隅川明宏(当館主任学芸員)、岡地智子(当館主任学芸員) | 10月25日(15:00~) |
| ギャラリートーク | 858名 | |
| | 96名 プルターニューの光と風展 | |
| | (30名) 講師：森万由子(当館学芸員) | 4月19日(11:00~) |
| | (6名) 講師：森万由子(当館学芸員) | 4月19日(18:00~) |
| | (23名) 講師：森万由子(当館学芸員) | 5月3日(11:00~) |
| | (7名) 講師：森万由子(当館学芸員) | 5月3日(18:00~) |
| | (16名) 講師：森万由子(当館学芸員) | 5月17日(11:00~) |
| | (14名) 講師：森万由子(当館学芸員) | 5月17日(18:00~) |
| | 212名 児玉希望展 | |
| | (15名) 講師：神内有理(当館主任学芸員) ※縮景園連携企画 | 10月11日(15:00~) |
| | (24名) 講師：神内有理(当館主任学芸員) | 10月18日(11:00~) |
| | (6名) 講師：神内有理(当館主任学芸員) | 10月18日(18:00~) |
| | (9名) 講師：神内有理(当館主任学芸員) | 11月1日(11:00~) |
| | (8名) 講師：神内有理(当館主任学芸員) | 11月1日(18:00~) |
| | (55名) 講師：神内有理(当館主任学芸員) | 11月15日(11:00~) |
| | (12名) 講師：神内有理(当館主任学芸員) | 11月15日(18:00~) |
| | (43名) 講師：神内有理(当館主任学芸員) | 11月22日(11:00~) |
| | (40名) 講師：神内有理(当館主任学芸員) | 11月29日(11:00~) |
| | 125名 もしも猫展 | |
| | (25名) 講師：角田新(当館主任学芸員) | 12月20日(11:00~) |
| | (6名) 講師：角田新(当館主任学芸員) | 12月20日(18:00~) |
| | (27名) 講師：角田新(当館主任学芸員) | 1月17日(11:00~) |
| | (7名) 講師：角田新(当館主任学芸員) | 1月17日(18:00~) |
| | (50名) 講師：角田新(当館主任学芸員) | 1月31日(11:00~) |
| | (10名) 講師：角田新(当館主任学芸員) | 1月31日(18:00~) |
| | 425名 伝統工芸展 | |
| | (59名) 講師：岡地智子(当館主任学芸員) | 2月21日(11:00~) |
| | (32名) 講師：栗根仁志(七宝作家) | 2月22日(11:00~) |
| | (95名) 講師：金城一国齋(漆芸家) | 2月23日(11:00~) |
| | (35名) 講師：福田浩子(当館学芸課長) | 2月28日(11:00~) |
| | (52名) 講師：井戸川豊(陶芸家) | 3月1日(11:00~) |
| | (112名) 講師：木村芳郎(陶芸家) | 3月2日(11:00~) |
| | (40名) 講師：小林松齋(木工作家) | 3月8日(11:00~) |
| インスタライブ | 1,787名 | |
| | 232名 プルターニューの光と風展 | |
| | (103名) 講師：森万由子(当館学芸員) | 4月23日(17:00~) |
| | (66名) 講師：森万由子(当館学芸員) | 4月30日(17:00~) |
| | (63名) 講師：森万由子(当館学芸員) | 5月28日(17:00~) |
| | 約258名 児玉希望展 | |
| | (不明) 講師：神内有理(当館主任学芸員) | 10月8日(17:00~) |
| | (102名) 講師：神内有理(当館主任学芸員) | 10月15日(17:00~) |
| | (93名) 講師：神内有理(当館主任学芸員) | 11月5日(17:00~) |
| | (63名) 講師：神内有理(当館主任学芸員) | 11月26日(17:00~) |
| | 201名 もしも猫展 | |
| | (67名) 講師：角田新(当館主任学芸員) | 1月7日(17:00~) |
| | (64名) 講師：角田新(当館主任学芸員) | 1月14日(17:00~) |
| | (70名) 講師：角田新(当館主任学芸員) | 1月28日(17:00~) |
| | 66名 伝統工芸展 | |
| | (66名) 講師：岡地智子(当館主任学芸員) | 2月19日(17:00~) |

| 事業名 | 事業内容 | 実施期間 |
|--------------------------|--|----------------------|
| 1,030名 | 所蔵作品展 | |
| (56名) | 第1期 日本洋画 講師：角田新(当館主任学芸員)、藤崎綾(当館主任学芸員) | 5月21日(17:00～) |
| (48名) | 第1期 日本画 講師：神内有理(当館主任学芸員) | 6月4日(17:00～) |
| (68名) | 第1期 西洋美術 講師：森万由子(当館学芸員) | 6月11日(17:00～) |
| (56名) | 第1期 工芸 講師：岡地智子(当館主任学芸員) | 6月18日(17:00～) |
| (71名) | 第2期 西洋美術 講師：山下寿水(当館主任学芸員) | 7月23日(17:00～) |
| (57名) | 第2期 日本洋画 講師：角田新(当館主任学芸員) | 8月20日(17:00～) |
| (52名) | 第2期 日本画 講師：隅川明宏(当館主任学芸員) | 9月3日(17:00～) |
| (64名) | 第2期 工芸 講師：岡地智子(当館主任学芸員) | 9月24日(17:00～) |
| (24名) | 第3期 日本洋画 講師：角田新(当館主任学芸員)、藤崎綾(当館主任学芸員) | 10月29日(17:00～) |
| (26名) | 第3期 日本洋画 講師：角田新(当館主任学芸員)、藤崎綾(当館主任学芸員) | 11月12日(17:00～) |
| (46名) | 第3期 日本画 講師：隅川明宏(当館主任学芸員) | 11月19日(17:00～) |
| (65名) | 第3期 工芸 講師：岡地智子(当館主任学芸員) | 12月10日(17:00～) |
| (53名) | 美術館のひみつ 美術館の裏側、作品の裏側 講師：山下寿水(当館主任学芸員) | 1月21日(17:00～) |
| (67名) | 美術館のひみつ 自主企画展の裏側 講師：神内有理(当館主任学芸員) | 2月4日(17:00～) |
| (105名) | 美術館のひみつ スポットライト 講師：角田新(当館主任学芸員) | 2月18日(17:00～) |
| (56名) | 美術館のひみつ 作品と箱 講師：岡地智子(当館主任学芸員) | 3月4日(17:00～) |
| (50名) | 美術館のひみつ 写真撮影(日本洋画編) 講師：角田新(当館主任学芸員)、藤崎綾(当館主任学芸員) | 3月18日(17:00～) |
| (54名) | 美術館のひみつ 掛ける、巻く、めくる、立てる 講師：隅川明宏(当館主任学芸員) | 令和7年 4月1日(17:00～) |
| (60名) | 美術館のひみつ 展示器具 講師：福田浩子(当館学芸課長) | 令和7年 4月8日(17:00～) |
| 対話型鑑賞(対話による ギャラリートーク) | | |
| 22名 | 所蔵作品展 | |
| (3名) | 第1期(対面) ※フリートークデーに合わせて実施。 講師：福田浩子(当館学芸課長)、岡地智子(当館主任学芸員) | 6月8日(13:00～) |
| (2名) | 第1期(対面) ※フリートークデーに合わせて実施。 講師：山下寿水(当館主任学芸員)、森万由子(当館学芸員) | 6月8日(15:00～) |
| (7名) | 第1期(対面) 講師：岡地智子(当館主任学芸員)、森万由子(当館学芸員) | 6月15日(15:00～) |
| (5名) | 第2期(対面) ※フリートークデーに合わせて実施。 講師：福田浩子(当館学芸課長)、山下寿水(当館主任学芸員)、 岡地智子(当館主任学芸員) | 9月28日(13:00～) |
| (5名) | 第3期(対面) ※フリートークデーに合わせて実施。 講師：山下寿水(当館主任学芸員) | 12月7日(13:00～) |
| ワークショップ | | |
| 78名 | | |
| 20名 | 児玉希望展 | |
| (20名) | 水墨画ワークショップ「希望に挑戦! 絹に描く抽象」 講師：今村雅弘(広島市立大学芸術学部美術学科日本画専攻教授)、前田由芽(同 校非常勤助教)、杉浦沙恵子(同校実習補助員) | 11月9日(13:30～) |

| 事業名 | 事業内容 | 実施期間 |
|-------------|---|---------------------------|
| | 17名 (17名) もしも猫展 江戸のペーパークラフトを作って見よう 講師：角田新(当館主任学芸員) | 1月18日(13:30～) |
| | 41名 (14名) 所蔵作品展 「スザニ刺繍のフレームを作ろう」(オンライン) 講師：福田浩子(当館学芸課長)、岡地智子(当館主任学芸員) | 2月15日(13:15～) |
| | (13名) 「スザニ刺繍のフレームを作ろう」(オンライン) 講師：福田浩子(当館学芸課長)、岡地智子(当館主任学芸員) | 3月1日(13:15～) |
| | (14名) 「スザニ刺繍のフレームを作ろう」(対面とオンライン併用) 講師：福田浩子(当館学芸課長)、岡地智子(当館主任学芸員) | 3月29日(13:15～) |
| コンサート | 200名 (200名) ブルターニュの光と風展 「ブルターニュの調べ～“シャリザアリ”と呼ばれて」 演奏：Toa(歌、フィドル)、Machiko(ハープ、コンサーティーナ)、MASA(パーカッション)、渡辺祐平(ベース)、AZ(フルート、アコーディオン、シンセ)、藤岡竜輔(歌、ギター、ブズーキ、その他伝統楽器) | 4月27日(15:00～) |
| 公演 | 244名 (244名) 児玉希望展 神楽公演 児玉希望の出身地から神楽団がやってくる！ 出演：原田神楽団 | 10月20日 (12:30～、14:30～) |
| ツアー | 13名 (13名) 児玉希望展 児玉希望ゆかりの地ツアー(安芸高田市歴史民俗博物館共催) 講師：秋本哲治(安芸高田市歴史民俗博物館副館長)、神内有理(当館主任学芸員) | 10月27日(13:00～) |
| 特別鑑賞会 | 76名 39名 (39名) ブルターニュの光と風展 講師：森万由子(当館学芸員) | 4月19日(17:00～) |
| | 37名 (37名) 児玉希望展 講師：神内有理(当館主任学芸員) | 10月11日(17:00～) |
| ベビーカーツアー | 6名 フリートークデーに合わせて実施。 講師：山下寿水(当館主任学芸員) | 6月8日(10:30～) |
| 児童・生徒 | | |
| ワークショップ | 4名 (4名) 伝統工芸展 「ギャラリートークに挑戦しよう！」 講師：福田浩子(当館学芸課長)、岡地智子(当館主任学芸員) | 2月23日(13:00～) |
| ワークシートの作成 | 所蔵作品を鑑賞する児童・生徒に対し、学習補助教材として主要作品のワークシートを提供した。(現在345種) | |
| 日本伝統工芸展出張授業 | 121名 (15名) 希望校に日本工芸会正会員等が出向いて授業を行うことで、児童の制作の現場に接する機会を提供し、伝統工芸への理解を促進した。 三原市立沼田小学校 講師：金城一國齋(漆芸) | 10月18日 |
| | (106名) 広島市立中筋小学校 講師：小林松斎(木工) | 1月21日 |
| 手で見る展覧会 | 縮景園の「梅実収穫行事」に併せ、特別支援学校(視覚障害)の児童・生徒が作品に直接触れて美術を鑑賞する機会を提供した。 | 6月4日 |
| 各種リーフレット作成 | 施設案内、年間スケジュール等の美術館の活動について、広く県民へ告知した。 | |
| 友の会ギャラリーガイド | 県立美術館友の会のボランティアのギャラリーガイドにより所蔵作品展の解説をした。 | 通年実施 |
| | (一般ガイド) 441名 (団体ガイド) 75名 火～金曜日の14:00から実施(土・日・祝日は11:00からも実施) | |
| 展示施設等貸出 | 展示施設等(県民ギャラリー・講堂)を貸出することにより、生涯学習の発表の場及び機会を提供し、県民の創作活動を支援した。 | |
| 観覧者等 | 86,634名 県民ギャラリー 利用団体数 80団体、利用日数 480延日 講堂(県民ギャラリー全室利用に併せ、展示室として利用) | 令和6年4月1日 ～令和7年3月31日 |
| 利用者 | 5,733名 講堂 利用団体数 73団体、利用日数 83延日 | 令和6年4月1日 ～令和7年3月31日 |

V 業務一覧

広島県立美術館学芸員が令和6年度に行なった業務を報告する。内容は、1 美術館内での業務等(館主体事業)、2 美術館外での業務等(他からの招聘等)、3 調査・研究活動、4 社会貢献活動等・その他、に分類・配列し、記載している。学芸課職員の構成及び担当分野は次のとおり。

| | |
|-------------------|------------------|
| 福田 浩子(学芸課長、工芸) | 角田 新(主任学芸員、日本洋画) |
| 藤崎 綾(主任学芸員、日本洋画) | 神内 有理(主任学芸員、日本画) |
| 山下 寿水(主任学芸員、西洋美術) | 隅川 明宏(主任学芸員、日本画) |
| 岡地 智子(主任学芸員、工芸) | 森 万由子(学芸員、西洋美術) |

■ 福田 浩子

1 美術館内での業務等

【展覧会】

- ・特別展「ブルターニュの光と風」(事務局長)
- ・特別展「金曜ロードショーとジブリ展」(事務局長)
- ・特別展「近代日本画の真髄 児玉希望-千変万化、驚異の筆力展」(事務局長)
- ・特別展「もしも猫展」(事務局長)
- ・特別展「第71回日本伝統工芸展」(副担当)
- ・所蔵作品展 第1～3期(全体チェック、工芸副担当)

【教育支援(教育普及)】

- ・特別展「日本伝統工芸展」ギャラリートーク(2/28)
- ・「こどもワークショップ」(2/23)
- ・所蔵作品展第1期対話によるギャラリートーク(6/8)
- ・所蔵作品展第2期対話によるギャラリートーク(9/28)
- ・ワークショップ「スザニ刺繍のフレームを作ろう」(2/15、3/1、29)
- ・インスタライブ「美術館のひみつ」(令和7年4/8)
- ・手で見ると見る展覧会(6/4)
- ・博物館実習「講座 美術館と学芸活動」(8/19)、「作品取扱実習(工芸)」(8/22)
- ・小学3年生(広島市立幟町小学校)「幟町のみりよく調べ」(11/21)
- ・中学生(広島市立中広中学校)職場体験(1/21-23)
- ・中学生(廿日市市野坂中学校)職場インタビュー(3/11)
- ・国際交流事業協力(広島大学、広島市立真亀小学校、City Beach Primary Schoolオーストラリア パース 11/25)
- ・鳥取県美応援団来館対応(11/9)
- ・看視受付スタッフ研修(所蔵作品展5/1)

【広報活動】

- ・特別展「日本伝統工芸展」新聞・雑誌寄稿(『朝日新聞』2/19、22、23)
- ・ポッドキャスト配信(2/18)

【その他】

- ・アートと共生に関する調査および施策一体型プロジェクト(広島県、広島大学、広島県アートサポートセンター、当館)への協力、聴覚対話型鑑賞会書記(10/5)、アウトリーチ型鑑賞会書記(就労センターあっぷ1/30)
- ・ARフォトフレーム作成(所蔵作品展1期、2期、3期、ブルターニュの光と風展、児玉希望展2種、もしも猫展、第71回日本伝統工芸展)
- ・加守田章二作品撮影協力(三宅デザイン3/28)

2 美術館外での業務等

【講座・講演・シンポジウム等】

- ・「美術館と学校教育との連携を中心に～広島県立美術館のさまざまな活動～」オンライン講義(広島大学大学院教育学専攻2/4)
- ・「事例報告1 広島県立美術館(文化遺産オンライン活用の事例)」およびパネルディスカッションパネリスト、全国美術館会議学芸員研修会「改正博物館法施行2年目の現場から 所蔵作品情報の公開とプラットフォーム活用・連携の可能性」(損保ジャパン本社ビル大会議室3/7)

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・染織作品・作家調査(8/20、21、10/24、25、11/14、15、2/12、25-28、3/13-14、17)
- ・漆工作品・作家調査(1/16、22)
- ・陶磁作品・作家調査(1/8、29)
- ・金工作品・作家調査(2/22)
- ・木工作品・作家調査(2/24)
- ・作品写真撮影立会(4/4、12/11、12、13、17、1/10、15、17、27、3/3)
- ・フランス、イギリス作品等調査(自費11/25-12/7)

【館内出版物への執筆】

- ・「渡辺溥子の染織世界を垣間見る(1)」『広島県立美術館研究紀要』第28号、令和7年3月
- ・(分担執筆)作品解説1点、『近代日本画の真髄 児玉希望-千変万化、驚異の筆力展』展覧会図録、令和6年10月

【館外出版物への執筆】

- ・The World of Suzani Embroidered Cloth from Central Asia, *Textiles Asia Journal*, Vol 16, Issue 2, 2024 September, New York USA.
- ・追悼記事「山本晃さんを悼む」『中国新聞』、令和7年1月17日

4 社会貢献活動等・その他

【審査委員等】

- ・令和6年度環境啓発ポスター・標語コンクール審査委員(広島県環境保健協会)
- ・令和6年度伝統文化ポーラ賞推薦(公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団)
- ・令和6年度姫路市美術展工芸部門審査(姫路市立美術館)
- ・広島県伝統的工芸品認定委員会委員(広島県観光課)

【研修・自己啓発】

- ・広島県美術館ネットワーク令和6年度講演会(広島県立美術館6/4)
- ・管理職員メンタルヘルス研修(6/5)
- ・やさしい日本語研修(6/19)
- ・全国美術館会議情報・資料研究部会オンライン参加(9/3)
- ・ミュージアム・アクセシビリティ講座「ふかふかTV」国立アトリサーチセンター(全7回受講)

【所属学会】

- ・日本中央アジア学会、全国美術館会議情報・資料研究部会、ICOM(国際博物館会議)

■ 角田 新

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・特別展「金曜ロードショーとジブリ展」(副担当)
- ・特別展「もしも猫展」(主担当)
- ・所蔵作品展 第2期(日本洋画担当)

【教育支援(教育普及)】

- ・特別展「もしも猫展」県立広島大学公開講座(11/23)
- ・「もしも猫展」ギャラリートーク(12/20、1/17、31)

- ・ 〃 県立広島大学団体鑑賞レクチャー(12/21)
- ・ 〃 インスタライブ(1/7、14、28)
- ・ 〃 ワークショップ(1/18)
- ・ 〃 全国美術館会議 概要説明(2/7)
- ・ 所蔵作品展第1期インスタライブ(5/21)
- ・ 所蔵作品展第2期友の会ギャラリーガイドレクチャー(6/8)
- ・ 〃 インスタライブ(8/20)
- ・ 所蔵作品展第3期リレートーク(10/25)
- ・ 〃 インスタライブ(10/29、11/12)
- ・ インスタライブ「美術館のひみつ」(2/18、3/18)
- ・ 令和7年度第1期所蔵作品展友の会ギャラリーガイドレクチャー(3/22)
- ・ 手で見る展覧会(6/4)
- ・ 県立広島大学博物館実習見学対応(6/7)
- ・ 博物館実習(主担当8/19-23)、「講座 対話型鑑賞」(8/20)、「講座 美術館の展示環境・展示手法」、「講座 企画展の意義と実施の工夫」、「作品取扱実習(日本洋画)」(8/21)

【広報活動】

- ・ 特別展「もしも猫展」テレビ対応(広島テレビ12/18、NHK 1/22)
- ・ 〃 ラジオ対応(FMふくやま12/11、FMおのみち1/7)
- ・ 〃 新聞・雑誌寄稿(『中国新聞』1/23、『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第107号)
- ・ 特別展「日本伝統工芸展」新聞・雑誌寄稿(『朝日新聞』2/28)

2 美術館外での業務等

- ・ 『美術ひろしま』編集委員

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・ 地域美術研究・作品調査 田谷行平(7/25)山路商(9/2、4、5、10/3)、灰谷正夫(10/2)、小林徳三郎(11/4)、南薫造(11/7、24)、中谷ミユキ(12/4)、矢崎千代二他(1/8)、松尾正己(1/30)、朝井清(3/30)

【館内出版物への執筆】

- ・ (分担執筆)作品解説ほか、『近代日本画の真髄 児玉希望—千変万化、驚異の筆力展』展覧会図録、令和6年10月

【館外出版物への執筆】

- ・ 『美術ひろしま33』令和7年1月

4 社会貢献活動等・その他

【研修・自己啓発】

- ・ 広島県美術館ネットワーク令和6年度講演会(広島県立美術館6/4)
- ・ 広島県美術館ネットワーク令和6年度研修会(尾道市立美術館10/15)

■ 藤崎 綾

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・ 特別展「金曜ロードショーとジブリ展」(主担当)
- ・ 特別展「もしも猫展」(副担当)
- ・ 特別展「ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト」(次年度・主担当2)
- ・ 所蔵作品展 第1期、第3期コレクション・フォーカス(日本洋画担当)

【教育支援(教育普及)】

- ・ 所蔵作品展第1期リレートーク(5/10)
- ・ 〃 インスタライブ(5/21)

- ・所蔵作品展第3期友の会ギャラリーガイドレクチャー(9/7)
- ・ 〃 リレートーク(10/25)
- ・ 〃 インスタライブ(10/29、11/12)
- ・ 〃 美術講座「山路商—時代と作品」(11/24)
- ・インスタライブ「美術館のひみつ」(3/18)
- ・手で見る展覧会(6/4)
- ・博物館実習「作品取扱実習(日本洋画)」(8/21)

【広報活動】

- ・特別展「金曜ロードショーとジブリ」テレビ対応(NHK 8/19)
- ・ 〃 ラジオ対応(FMおのみち8/6)
- ・ 〃 新聞・雑誌寄稿(『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第106号)
- ・「表紙紹介 和田三造」『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第105号(4/10発行)
- ・「作品介绍 山路商〈楽器店〉」『広島交響楽団第446回定期演奏会プログラム』(11/27)

2 美術館外での業務等

【講座・講演・シンポジウム等】

- ・レクチャー「入野忠芳作品の変遷について」(アートギャラリーミヤウチ9/8)『入野忠芳 不確かな行方』展(会期:7/26-9/23)
- ・トーク「小林和作の人と作品」『第4回和作ウィーク 小林和作とは何者か?』(尾道市・小林和作旧居11/3)
- ・出張講座「絵画の探検 一楽しみ方のヒントー」(五日市すみれこども園11/11、公務員共済組合連合会吉島病院3/21)

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・地域美術研究・作品調査 山路商(9/2、4、5)、灰谷正夫(10/2)、小林徳三郎(11/4)、南薫造(11/7、24)、中谷ミユキ(12/4)、松尾正己(1/30)

【館内出版物への執筆】

- ・(分担執筆)コラム「児玉希望の油彩画」、作品解説、『近代日本画の真髄 児玉希望一千変万化、驚異の筆力展』展覧会図録、令和6年10月
- ・『山路商—戦前期広島の前衛精神』(コレクション・フォーカス・ミニガイド)、令和6年10月

【館外出版物への執筆】

- ・「南薫造(1883~1950)—“日本の印象派”」、古田亮編著『列島の日本美術史 知られざる美の交錯』、ミネルヴァ書房、令和7年3月

4 社会貢献活動等・その他

【所属学会・審査員等】

- ・全国美術館会議 地域美術研究部会幹事 第18回地域美術研究部会出席(世田谷美術館1/31)、部会長・幹事ミーティング(オンライン3/11)
- ・公益社団法人青少年育成広島県民会議・図画審査(9/30)

【研修・自己啓発】

- ・全国美術館会議第38回学芸員研修会「利用者を起点に考える美術館の〈展示・学び・アクセシビリティ〉」リレートーク(アーカイブ視聴4/12)
- ・東京文化財研究所「フォーラム ポスト・エキヒュームSの資料保存を考える」(オンライン2/21)

■ 神内 有理

1 美術館内での業務等

【担当展覧会】

- ・特別展「近代日本画の真髄 児玉希望一千変万化、驚異の筆力展」(主担当)
- ・所蔵作品展 第1期(日本画担当)

【教育支援(教育普及)】

- ・特別展「児玉希望展」特別鑑賞会(10/11)
- ・ 〃 ギャラリートーク(10/11、18、11/1、15、22、29)
- ・ 〃 インスタライブ(10/8、15、11/5、26)
- ・ 〃 講演会(11/2)
- ・ 〃 団体解説(10/9、15、17、18、23、25、11/8、12、25、26、28、29)
- ・所蔵作品展第1期リレートーク(5/10)
- ・ 〃 インスタライブ(6/4)
- ・インスタライブ「美術館のみみつ」(2/4)
- ・令和7年度第1期所蔵作品展友の会ギャラリーガイドレクチャー(3/22)
- ・手で見ると展覧会(6/4)
- ・博物館実習「作品取扱実習(日本画)」(8/21)

【広報活動】

- ・特別展「児玉希望展」ポッドキャスト配信(11/22、27)
- ・ 〃 テレビ対応(RCC 8/16、10/25、11/14、NHK11/21)
- ・ 〃 ラジオ対応(RCCラジオ 9/3、10/4、8、26、27、11/8、FMはつかいち10/17、FMふくやま10/30)
- ・特別展「児玉希望展」新聞・雑誌寄稿(『中国新聞』11/7、14、15、『色絵馬』(広島県立美術館友の会会報)第107号)

2 美術館外での業務

【講座・講演・シンポジウム等】

- ・公開講座(安芸高田市歴史民俗博物館)「児玉希望の画業と故郷への想い」(安芸高田市民文化センター10/13)
- ・児玉希望ゆかりの地ツアー(安芸高田市歴史民俗博物館共催)(安芸高田市内10/27)
- ・せとうちアートセミナー(せとうち美術館ネットワーク事務局主催)「日本画家・児玉希望の戦略」(広島県立美術館11/30)

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・所蔵作家調査:児玉希望(複数回)

【館内出版物への執筆】

- ・(分担執筆)『近代日本画の真髄 児玉希望一千変万化、驚異の筆力展』展覧会図録、令和6年10月
- ・「日本画家・児玉希望についての新たな知見」『広島県立美術館研究紀要』第28号、令和7年3月

【館外出版物への執筆】

- ・「話題の展覧会 秋の所蔵作品展+広島県立美術館・広島市現代美術館合同企画 ケンピとゲンピの作品を並べたら、美術についての疑問が解ける(かも)展」『美術ひろしま』第33号、令和7年1月

【その他】

- ・科学研究費助成事業 基盤研究(C)「日本近代美術における浮世絵受容の総合的研究」(研究分担者)

4 社会貢献活動等・その他

【外部委員など】

- ・紺綬褒章価格評価(愛媛県美術館)

【研修・自己啓発】

- ・広島県美術館ネットワーク令和6年度講演会(広島県立美術館6/4)
- ・東京文化財研究所「フォーラム ポスト・エキヒュームSの資料保存を考える」(オンライン2/21)

■ 山下 寿水

1 美術館内での業務

【担当展覧会】

- ・特別展「ブルターニュの光と風」(副担当)
- ・特別展「第12回新県美展(第76回広島県美術展)」(主担当)
- ・特別展「生誕120周年 サルバドール・ダリ ―天才の秘密―」(次年度・主担当)
- ・所蔵作品展(全体総括)、第2期(西洋美術担当)

【教育支援(教育普及)】

- ・所蔵作品展第1期ベビーカーツアー(6/8)
- ・ 〃 対話によるギャラリートーク(6/8)
- ・所蔵作品展第2期友の会ギャラリーガイドレクチャー(6/8)
- ・ 〃 インスタライブ(7/23)
- ・ 〃 対話によるギャラリートーク(9/28)
- ・所蔵作品展第3期対話によるギャラリートーク(12/7)
- ・インスタライブ「美術館のみみつ」(1/21)
- ・サルバドール・ダリに関する団体対応(12/21)
- ・令和7年度第1期所蔵作品展友の会ギャラリーガイドレクチャー(3/22)
- ・手で見える展覧会(6/4)
- ・博物館実習(副担当8/19-23)、「講座 対話型鑑賞」(8/20)、「講座 企画展の意義と実施の工夫」(8/21)

【広報活動】

- ・特別展「児玉希望展」ラジオ対応(10/17)
- ・特別展「もしも猫展」テレビ対応(1/31)

2 美術館外での業務等

【講座・講演・シンポジウム等】

- ・オンライン講演会「描かれた写真—画家ダリの「写真」を辿る—」(公益財団法人諸橋近代美術館「生誕120周年 サルバドール・ダリ ―天才の秘密―」展関連イベント)(7/28)
- ・出張講座「戦争は美術をいかに変えたか」(串戸市民センター9/24)

3 調査研究活動

【館内外での調査・研究】

- ・サルバドール・ダリに係る調査・研究出張(5/30、1/15-16)

【館内出版物への執筆】

- ・(分担執筆)コラム「児玉希望《天晴》と紐育万博の時代」、『近代日本画の真髄 児玉希望—千変万化、驚異の筆力展』展覧会図録、令和6年10月
- ・「ダリとアングル—アングルの「パンセ」を手掛かりとして」、『広島県立美術館研究紀要』第28号、令和7年3月

【館外出版物への執筆】

- ・(分担執筆)エッセイ「描かれた写真—画家ダリと写真を巡る試論」、作品解説6点、作家解説3点、『生誕120周年 サルバドール・ダリ 天才の秘密』展覧会図録、令和6年4月〔公益財団法人諸橋近代美術館、秋田千秋美術館、大分県立美術館、横須賀美術館、広島県立美術館〕
- ・薮野圭一『モシカシテキンギョウタチ ソレトモ バクダン(人間の平和心と戦争心)』解説、広島芸術学会『藝術研究』37号、令和6年7月
- ・「菅亮平『Pine Trees』」、「大庭孝文『正しい風景(犬が雷を怖がっている)』」、『美術ひろしま』2023-4号、令和7年3月

4 社会貢献活動等

【審査委員等】

- ・令和6年度「グリーンリボンデザイン公募プロジェクト」審査(12/10)

【館外出版物への執筆・発表】

- ・「モーリス・ドニの公共建築装飾」第31回「鹿島美術財団 財団賞・優秀賞」授賞式・研究発表(鹿島Kビル5/14)

3 社会貢献活動等・その他

【所属学会】

- ・全国美術館会議教育普及研究部会、日仏美術学会、美学会、早稲田大学美術史学会、ICOM(国際博物館会議)

Ⅵ 入館者数一覧

| 展 覧 会 名 | 所蔵作品展 展示室修繕のため閉室 R5. 12. 25～R6. 3. 31 | 特 別 展 | | | | |
|----------------------|---|----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|----------------------------------|-------|
| | | ブルターニュの 光と風 | 第12回新潟美展 (第76回広島県美術展) | 金曜ロードショー とジブリ展 | 近代日本画の真髄 児玉希望-千変万化、 驚異の筆力展 | |
| 開 催 期 日 | R6. 4. 1 ～ R6. 12. 24 | R6. 4. 13 ～ R6. 6. 2 | R6. 6. 15 ～ R6. 6. 30 | R6. 7. 13 ～ R6. 9. 23 | R6. 10. 4 ～ R6. 12. 1 | |
| 開 催 日 数 | 243 日 | 51 日 | 16 日 | 73 日 | 58 日 | |
| 個 人 | 一 般 | 13,804 | 4,978 | 2,588 | 137,002 | 5,843 |
| | 高・大学生 | 1,510 | 298 | 128 | 19,312 | 210 |
| | 小・中学生 | — | 99 | — | 26,503 | — |
| | 小 計 | 15,314 | 5,375 | 2,716 | 182,817 | 6,053 |
| 団 体 | 一 般 | 45 | 5,382 | 280 | 8,378 | 6,424 |
| | 高・大学生 | 20 | 93 | — | 935 | 89 |
| | 小・中学生 | — | 74 | — | 1,577 | — |
| | 小 計 | 65 | 5,549 | 280 | 10,890 | 6,513 |
| 有 料 入 館 者 数 | 15,379 | 10,924 | 2,996 | 193,707 | 12,566 | |
| 招 待 者 等 | 41,688 | 2,918 | 1,264 | 21,559 | 3,635 | |
| 合 計 (観覧者総数) | 57,067 | 13,842 | 4,260 | 215,266 | 16,201 | |
| 一 日 あ た り 観 覧 者 数 | 235 | 271 | 266 | 2,949 | 279 | |

(注) 「1日あたり観覧者数は、小数点以下第1位を四捨五入。

所蔵作品展の団体人数には、所蔵作品展と縮景園の共通入館者を含む。

所蔵作品展の「高・大学生」欄は、平成14年度の条例改正の無料化により、高校生を含まない。

「近代日本画の真髄 児玉希望-千変万化、驚異の筆力展」、「第71回日本伝統工芸展」は中学生以下を無料とした。

招待者等には、減免及び無料入館者を含む。(平成14年度の条例改正により無料化した小・中・高校生で内数。)

「第12回新潟美展(第76回広島県美術展)」以外は実行委員会主催。

団体人数には、前売り及び割引入館者を含む。

| 展 覧 会 名 | | | | 合 計 | 総 計 |
|------------------|-----------------------------|----------------------------|---------|---------|---------|
| | もしも猫展 | 第71回 日本伝統工芸展 | | | |
| 開 催 期 日 | R6. 12. 19 ～ R7. 2. 9 | R7. 2. 19 ～ R7. 3. 9 | | | |
| 開 催 日 数 | 45 日 | 19 日 | 262 日 | 505 日 | |
| 個 人 | 一 般 | 6,136 | 3,933 | 160,480 | 174,284 |
| | 高・大学生 | 546 | 211 | 20,705 | 22,215 |
| | 小・中学生 | 406 | — | 27,008 | 27,008 |
| | 小 計 | 7,088 | 4,144 | 208,193 | 223,507 |
| 団 体 | 一 般 | 6,507 | 3,184 | 30,155 | 30,200 |
| | 高・大学生 | 242 | 86 | 1,445 | 1,465 |
| | 小・中学生 | 492 | — | 2,143 | 2,143 |
| | 小 計 | 7,241 | 3,270 | 33,743 | 33,808 |
| 有料入館者数 | 14,329 | 7,414 | 241,936 | 257,315 | |
| 招待者等 | 3,173 | 1,687 | 34,236 | 75,924 | |
| 合 計 (観覧者総数) | 17,502 | 9,101 | 276,172 | 333,239 | |
| 一日あたり 観 覧 者 数 | 389 | 479 | 1,054 | 660 | |

Ⅶ 美術品等収集状況

1 分野別収集美術品数一覧

(令和7年3月31日現在)

| 種 目 | | 一般購入 | 基金購入 (H2年度以降) | 購入総数 | 寄 附 | 所 管 換 | 合 計 | 受 託 |
|--------|----------------|------------|------------------|---------------|-------------|---------------|-------------|-----|
| 絵 画 | 日 本 画 | 48 (2) | 60 | 108 (2) | 264 (1) | 3 | 375 (3) | 15 |
| | 油 彩 画 | 231 (1) | 62 | 293 (1) | 566 (11) | 4 | 863 (12) | 205 |
| | 水 彩 画 | 89 | 4 | 93 | 217 | 0 | 310 | 1 |
| | 素 描 | 44 | 20 | 64 | 305 (8) | 0 | 369 (8) | 20 |
| | パステル画 アクリル画 | 1 | 0 | 1 | 6 | 0 | 7 | 0 |
| | 版 画 | 53 | 180 | 233 | 350 (1) | 0 | 583 (1) | 0 |
| | 拓 本 | 26 | 0 | 26 | 51 | 0 | 77 | 0 |
| | 平面造形ほか | 4 (1) | 56 | 60 (1) | 3 | 0 | 63 (1) | 0 |
| 彫 塑 | 8 | 23 | 31 | 72 | 0 | 103 | 6 | |
| 工 芸 | 113 (1) | 1,184 | 1,297 (1) | 400 (46) | 4 | 1,701 (47) | 4 | |
| 書 | 5 | 0 | 5 | 94 | 1 | 100 | 0 | |
| 美術資料 | 2 | 2 | 4 | 740 | 0 | 744 | 3 | |
| 合 計 | 624 | 1,591 | 2,215 (5) | 3,068 (67) | 12 | 5,295 (72) | 254 | |

※()内は6年度の収集点数。

2 収集美術品一覧

| No. | 分類 | 作者名・民族名・地域 | 作品名 | 制作年 | 寸法(cm) | 材質・技法 | 取得区分 |
|-----|-----|------------|----------------|---------------|------------------------------|----------------------------------|------|
| 1 | 東洋画 | 丹洞山人 | 浪龍図 | 15-16世紀(中国・明) | 縦26.2×横75.7 | 絹本墨画 | 購入 |
| 2 | 日本画 | 片山守春 | 富士図 | 1760(宝暦10)以前 | 縦37.7×横58.3 | 絹本彩色 | 購入 |
| 3 | 日本画 | 太田午庵 | 嶺松廬図(頼春水書合装) | 1804(文化元)頃 | 縦52.1(+43.3) ×横82.1 | 絹本彩色(彩箋墨書) | 購入 |
| 4 | 油彩画 | 山路 商 | 窓と顔 | 1938(昭和13) | 15.7×22.5 | 油彩・画布 | 購入 |
| 5 | 金工 | 清水南山 | 執金剛神図飾皿 | 1942(昭和17) | 径45.0 高2.5 | 真鍮・彫金 | 購入 |
| 6 | 日本画 | 田村由清 | 巖島図模写(頼春水賛) | 1803(享和3) | 33.1×115.0 | 絹本彩色 | 寄附 |
| 7 | 油彩画 | 小林千古 | 風景 | 不詳 | 61.1×41.2 | 油彩・画布 | 寄附 |
| 8 | 油彩画 | 南 薫造 | 海岸風景 | 不詳 | 37.9×45.5 | 油彩・画布 | 寄附 |
| 9 | 油彩画 | 山路 商 | 静物 | 1933(昭和8) | 32.0×41.0 | 油彩・画布 | 寄附 |
| 10 | 油彩画 | 山路 商 | 家と人 | 不詳 | 31.5×40.4 | 油彩・画布 | 寄附 |
| 11 | 油彩画 | 高橋 秀 | 予言者 | 1980(昭和55) | 160.0×200.0 | アクリル・画布 | 寄附 |
| 12 | 油彩画 | 高橋 秀 | ブロンド | 1983(昭和58) | 150.0×200.0 | 画布・麻布 | 寄附 |
| 13 | 油彩画 | 高橋 秀 | 遠心 | 1995(平成7) | 270.0×360.0 | アクリル・画布 | 寄附 |
| 14 | 油彩画 | 高橋 秀 | 紅華 | 1995(平成7) | 270.0×360.0 | アクリル・画布 | 寄附 |
| 15 | 油彩画 | 高橋 秀 | 翔んで! | 1995(平成7) | 270.0×360.0 | アクリル・画布 | 寄附 |
| 16 | 油彩画 | 高橋 秀 | 弥生の空 | 2000(平成12) | 75.0×100.0 | アクリル・金箔・銀箔・画布 | 寄附 |
| 17 | 油彩画 | 高橋 秀 | 天啓 | 2003(平成15) | 90.0×125.0 | アクリル・金箔・銀箔・画布 | 寄附 |
| 18 | 素描 | 児玉希望 | オルピエト | 1957(昭和32) | 24.7×32.3 | インク・紙 | 寄附 |
| 19 | 素描 | 野見山暁治 | 作品1 | 不詳 | 27.2×40.2 | インク・水彩・紙 | 寄附 |
| 20 | 素描 | 野見山暁治 | 作品2 | 不詳 | 45.8×62.9 | インク・水彩・紙 | 寄附 |
| 21 | 素描 | 野見山暁治 | 作品3 | 不詳 | 50.0×65.7 | インク・水彩・紙 | 寄附 |
| 22 | 素描 | 野見山暁治 | 作品4 | 不詳 | 50.0×65.8 | インク・水彩・紙 | 寄附 |
| 23 | 素描 | 野見山暁治 | 作品5 | 不詳 | 50.0×65.8 | インク・水彩・紙 | 寄附 |
| 24 | 素描 | 野見山暁治 | 作品6 | 1990(平成2)頃 | 57.0×76.2 | インク・水彩・紙 | 寄附 |
| 25 | 素描 | 野見山暁治 | 作品7 | 不詳 | 49.8×70.5 | インク・鉛筆・紙 | 寄附 |
| 26 | 版画 | 野見山暁治 | 作品 | 不詳 | 63.6×89.3 | リトグラフ・紙 | 寄附 |
| 27 | 漆工 | 四代金城一國齋 | 白蓮花に蜚高盛絵香筒 | 不詳 | 長38.2 径2.6 | 竹・漆・高盛絵(堆彩漆) | 寄附 |
| 28 | 漆工 | 六角紫水 | 刀筆双鳳文方盆 | 不詳 | 高2.5 25.5×25.5 | 漆・漆絵・彫刻 | 寄附 |
| 29 | 漆工 | 六角紫水 | 山水蒔絵器局 | 不詳 | 高42.2 34.0×25.3 | 漆・蒔絵・錆絵 | 寄附 |
| 30 | 染織 | ウズベク人 | 被衣(バランジャ) | 19世紀末-20世紀 | 131.0×95.0 | ベルベット・絹刺繍・裏にプリント更紗・見返し経緋 | 寄附 |
| 31 | 染織 | ウズベク人 | 被衣(バランジャ) | 19世紀末-20世紀初頭 | 136.0×110.0 | 絹木綿交織布・絹刺繍 | 寄附 |
| 32 | 染織 | ウズベク人 | 帽子付きベール(チャチワン) | 19世紀末-20世紀初頭 | (全体) 94.0×50.5 (帽子) 径17.0 | 馬毛・絹刺繍・銀 | 寄附 |
| 33 | 染織 | ウズベク人 | 外衣(チャパン) | 19世紀末-20世紀初頭 | 128.0×171.0 | 絹・経緋・裏にプリント木綿・見返し絹経緋 | 寄附 |
| 34 | 染織 | ウズベク人 | 外衣(チャパン) | 19世紀末-20世紀初頭 | 119.0×155.0 | 絹・経緋・裏にプリント木綿・見返し経緋(経:絹、緯:綿)・綿入り | 寄附 |
| 35 | 染織 | ウズベク人 | 外衣(チャパン) | 1990年代 | 140.0×156.0 | ベルベット・金糸刺繍 | 寄附 |
| 36 | 染織 | ウズベク人 | 外衣(チャパン) | 1990年代 | 132.0×180.0 | 綿入り | 寄附 |
| 37 | 染織 | ウズベク人 | 外衣(チャパン) | 20世紀 | 117.0×148.0 | 銀糸織物・裏にプリント木綿 | 寄附 |
| 38 | 染織 | ウズベク人 | 外衣(チャパン) | 20世紀 | 124.0×142.0 | 経緋・キルティング・裏にプリント木綿・見返しプリント木綿・綿入り | 寄附 |
| 39 | 染織 | ウズベク人 | 外衣(チャパン) | 1990年代 | 138.0×168.0 | ベルベット・金糸刺繍・裏付き | 寄附 |

| No. | 分類 | 作者名・民族名・地域 | 作品名 | 制作年 | 寸法(cm) | 材質・技法 | 取得区分 |
|-----|----|---------------|----------------|--------------|------------------|-------------------|------|
| 40 | 染織 | ウズベク人 | 帯(ベルボク) | 20世紀 | 93.0×95.0 | 経緋・ミシン刺繍 | 寄附 |
| 41 | 染織 | ウズベク人 | 帯(ベルボク) | 20世紀 | 95.0×92.0 | 経：絹・緯：化繊・経緋・ミシン刺繍 | 寄附 |
| 42 | 染織 | ウズベク人 | 帯(ベルボク) | 20世紀 | 81.0×78.0 | 経緋・ミシン刺繍 | 寄附 |
| 43 | 染織 | ウズベク人 | ベスト | 1990年代 | 120.0×65.0 | ベルベット・金糸刺繍・裏付き | 寄附 |
| 44 | 染織 | ウズベク人 | スリッパ | 1990年代 | 25.0×9.0 | ベルベット・金糸刺繍 | 寄附 |
| 45 | 染織 | ウズベク人 | 男性用帽子(ドゥッピ) | 20世紀 | 高10.5 幅16.0 | 紙・布・塗料 | 寄附 |
| 46 | 染織 | ウズベク人 | 男性用帽子(ドゥッピ) | 20世紀 | 高10.5 幅15.0 | 紙・布・塗料 | 寄附 |
| 47 | 染織 | ウズベク人 | 男性用帽子(ドゥッピ) | 20世紀 | 高10.5 幅14.5 | 紙・布・塗料 | 寄附 |
| 48 | 金工 | ウズベク人 | 額飾り(ティラ・バルガック) | 19-20世紀 | 高13.5 長43.0 | 銀・鍍金・トルコ石・サンゴ | 寄附 |
| 49 | 染織 | ウズベク人 | 帽子 | 20世紀 | 高7.5 幅16.0 房43.0 | 金糸刺繍・スパンコール | 寄附 |
| 50 | 染織 | ウズベク人 | 帽子 | 20世紀 | 高11.0 径17.0 | 布・刺繍 | 寄附 |
| 51 | 染織 | ウズベク人 | 帽子 | 20世紀 | 高10.5 径16.5 | 布・ビーズ刺繍・スパンコール | 寄附 |
| 52 | 染織 | ウズベク人 | 帽子 | 20世紀 | 高9.0 径16.5 | ベルベット・金糸刺繍 | 寄附 |
| 53 | 染織 | ウズベク人 | 帽子 | 20世紀 | 高10.0 径16.5 | 布・キルティング・刺繍 | 寄附 |
| 54 | 染織 | ウズベク人 | 帽子 | 20世紀 | 高9.0 径16.0 | 金糸刺繍・ビーズ・スパンコール | 寄附 |
| 55 | 染織 | ウズベク人 | 帽子 | 20世紀 | 高12.0 径15.0 | 布・刺繍 | 寄附 |
| 56 | 染織 | ウズベク人 | 帽子 | 20世紀 | 高12.0 径18.0 | 布・刺繍 | 寄附 |
| 57 | 染織 | ウズベク人 | 帽子 | 20世紀 | 高10.0 径14.0 | 布・刺繍 | 寄附 |
| 58 | 染織 | ウズベク人 | 男性用帽子(ドゥッピ) | 20世紀 | 高10.5 幅14.5 | 布・刺繍 | 寄附 |
| 59 | 染織 | タジク人 | 花嫁用長衣 | 20世紀 | 112.0×174.0 | 絹・刺繍 | 寄附 |
| 60 | 染織 | カラカルパク人 | 被衣 | 19世紀末-20世紀初頭 | 151.0×121.0 | 絹経緋・プリント木綿・絹刺繍 | 寄附 |
| 61 | 染織 | トルクメン人 | 外衣 | 20世紀 | 99.0×141.0 | 布・絹刺繍・裏にプリント木綿 | 寄附 |
| 62 | 染織 | トルクメン人 | 頭布 | 20世紀 | 269.0×130.0 | 絹布・絹刺繍 | 寄附 |
| 63 | 染織 | トルクメン人 | 帽子 | 20世紀 | 高9.0 径15.5 | 刺繍 | 寄附 |
| 64 | 染織 | キルギス人 | 帽子 | 20世紀 | 高17.0 径27.5 | フェルト・刺繍 | 寄附 |
| 65 | 染織 | キルギス人 | 帽子 | 20世紀 | 高23.0 径27.5 | フェルト | 寄附 |
| 66 | 染織 | キルギス人 | 帽子 | 20世紀 | 高22.0 径30.0 | フェルト | 寄附 |
| 67 | 染織 | ウズベキスタン | 刺繍布(スザニ) | 20世紀初頭 | 198.0×123.0 | 布・絹刺繍 | 寄附 |
| 68 | 染織 | ジョージア、ヘフスレティア | 長衣(サディアトソ) | 1930年代 | 139.0×147.0 | 羊毛・絹・刺繍・ビーズ・コイン | 寄附 |
| 69 | 染織 | ジョージア、ヘフスレティア | 額飾り(サタウリ) | 19-20世紀 | 長123.0 | フェルト・ブロード・羊毛 | 寄附 |
| 70 | 染織 | ジョージア、ヘフスレティア | 額飾りスカーフ(マンジリ) | 19-20世紀 | 28.0×8.0 | ブロード・羊毛刺繍 | 寄附 |
| 71 | 染織 | ジョージア、ヘフスレティア | 外衣 | 19-20世紀 | 87.0×121.0 | 羊毛・木綿・刺繍・パッチワーク | 寄附 |
| 72 | 染織 | ジョージア、ヘフスレティア | 上着 | 19-20世紀 | 丈48.0 桁67.0 | 布・刺繍・ビーズ | 寄附 |

3 新規収集美術品より

(1) 丹洞山人《浪龍図》

丹洞山人(たんどうさんじん 生没年不詳)は逸名画家。狩野栄信箱書に基づき作家名としている。この作品の落款に記された「丹洞山人風雲處士」の呼称は中国や日本の画人伝には伝わらないが、「丹洞」は仙境、「山人」は隠者を意味し、また「風雲」は社会変動を連想させ、「處士」は在野の人の意であることから、この人物像を窺い知ることは可能である。

本作は、波間の暗闇から全身を表した龍が、正面を向き視線をわずかに横へ逸らす様子を墨の濃淡で描いた作品。本来は複数の龍を列する画卷の一部であったと考えられ、現状の画面に基づく木挽町狩野家模本(文化十四年(1817)七月十日 徳忠模、東京国立博物館蔵A-5350)によれば、かつて狩野安信(1613-1685)の外題が付き、室町將軍家以来の価値観で江戸時代の大名家でも重視された南宋時代の画龍の名手、陳容(13世紀)の作品と鑑定されていた。おそらく17世紀までの伝来過程で切断、改装され、落款も本来のものか不明であるが、画風そのものは現在では明画とみなされている。広島藩主浅野家の伝来で、狩野栄信(1775-1828)の箱書を伴い、『観古館』『陳列品目録』(1915)に掲載。

[落款]丹洞山人風雲處士翰墨「□」(朱文印)「百雲靈恵カ」(白文方印)

[箱書]『浪龍 丹洞山人筆』『榮信誌「伊川院」(朱文方印)』



No.1 丹洞山人《浪龍図》

(2) 片山 守春《富士図》

片山守春(かたやま もりはる 享保5年-寛政6年 1720-1794)は備後府中の人。画風・系字の観点から、京狩野家の鶴沢探鯨(1687-1769)に入門したと推定され、府中で画塾を開いたとされる。子の守規(1771-1833)も狩野派画家として活動し、備南地方の寺社に襖絵などの作品を遺しているが、守春自身の作品はほとんど知られていない。

本作は、小高い丘に立つ神社と富士山を対角とし、右手前には富士講に赴く旅人、露店をのぞく親子など、神社に参詣する人びとの賑わいが列となって伸び、左奥に余白が広がるなかに背の低い山が連なり、最奥の富士山をはるか遠く、雄大に感じさせる。富士を題材とする狩野派作品は定型化した構図に基づくことも多いが、神社参詣、富士遠望の様子を細やかに描いた風俗画の雰囲気の色濃い類例は少なく、鑑賞性の高い作品である。また、色彩含めた保存状態は良好で、箱書によって制作年代の下限を想定できる点も情報の少ない作家研究において貴重である。



No.2 片山 守春《富士図》

[落款]鯨席齋守春筆「守春」(白文方印)

[箱書]『富士画』『寶曆十庚辰卯月廿八日調 □布路主人』

(3) 太田 午庵《嶺松廬図(頼春水書合装)》

太田午庵(おた ごあん 宝暦3年-文化5年 1753-1808)は広島藩士。藩の物頭を務めるが多病により致仕、その後に俳諧や絵画を専らとした。いま図版で知ることのできる絵画の遺作は2、3点であるが、みずから眼にした風景を描くことを好み、周囲にも求められたとみられる。

本作は、広島藩の儒者、頼春水(1746-1816)が藩から拝領した屋敷に造らせた書斎「嶺松廬」を画題とし、友人の午庵が瑞々しい墨色と筆使い、落ち着いた彩色で描いている。画面に取り合わされた料紙装飾、春水の筆跡も美しく、嶺松廬と名付けた由来について、城下に知られた宗箇松と上田宗箇の事績、藩士の心構えを説きつつ記している。書斎には春水が愛用したとみられる文房具、盆石、右上の遠景に宗箇松が描かれ、軒下に逆三日月を見上げる男性は春水、茶瓶を沸かす女性はその娘三穂(1789-1826)であろう。当時を代表する文人の生活、人柄、思想をも表す「居宅図」として、また視点を変えれば、春水の子山陽(1780-1832)が謹慎中(1801-05)に人知れず『日本外史』を執筆した屋敷の風景としても興味を惹く作品である。



No.3 太田 午庵《嶺松廬図(頼春水書合装)》

(4) 山路 商《窓と顔》《静物》《家と人》

山路商(やまじ しょう 明治36年-昭和19年 1903-1944)は新潟県長岡市出身。中国東北部で少年時代を過ごした後、大正時代半ばに広島に移住、大正末から画壇で作品を発表した。田中万吉、灰谷正夫、福井芳郎ら、昭和期の広島洋画壇を支えた新進作家とともに美術グループを結成したほか、詩や舞台装置など多分野で活動を展開。戦前期の広島における前衛美術運動のリーダーとして活躍した。広島県出身の洋画家・鬘光との交友は終生続き、強い影響を与えた作家としても知られる。

《窓と顔》は、過去に当館で行った『第2回郷土物故作家展 池田快造、田中万吉、山路商、丸木スマ』(1972年)の出品作。画面中央下部にはサインが、また裏面には作者自筆と考えられる「窓と顔一九三八年三月 山路商」の書込みがある。制作時期に当たる1930年代後半期は、シュルレアリスムの受容が見られるなど、画業がさらに深化を見せる充実期であり、小品ながら本作においても作者の色彩感覚や画面構成力を見て取ることができる。広島出身の日本画家・綿谷行四郎(1900-1977)の旧蔵品である。《静物》は裏面に作家自筆と思われる「一九三三年七月 山路商」の書込みがあり、制作年が確認できる。1930年代前半期は、フォーヴィスム的な作風から丹念な写実描写に移行していた時期で、作風の変遷が確認できる。《家と人》は、晩年の作例にみられる暖色の色調で描いた作品。館蔵品にも家と少女を組み合わせた構図の作品があり、関連作といえる。



No.4 山路 商《窓と顔》



No.9 山路 商《静物》



No.10 山路 商《家と人》

(5) 清水 南山《執金剛神図飾皿》

清水南山(しみず なんざん 明治8年-昭和23年 1875-1948)は現在の広島県三原市生まれ。東京美術学校で加納夏雄、海野勝珉などについて彫金古作を研究。奈良での古美術研究の成果が認められ、1919(大正8)年に東京美術学校教授となり、以後日本金工界の重鎮として活躍した。わが国の近代工芸界を代表する作家であり、増田三男など、その後の多くの金工家に影響を与えた。

本作は、過去に当館で行った『彫金家 清水南山展』(2017年)の出品作。作者は1915(大正4)年から約1年3ヶ月間、奈良に滞在して古美術の研究に専念した。法隆寺や奈良帝室博物館などに連日赴き、各所の文化財を写生・研究し、写生帖(東京藝術大学大学美術館蔵)をはじめとする記録を残している。その写生帖から、本作の図様はこの時の写生をもとにしていると考えられる(東大寺の執金剛神像か)。本作は奈良滞在から25年近く経って制作されたもので、作者は奈良古美術研究の折の感得を生涯生かし続けたことがうかがえる。技法的には、毛彫りを主体に、片切彫(線刻の断面が斜めで墨線の濃淡のような陰影を生じる)や魚々子(先端が輪状に成形された鑿を打ち込み、輪文様を魚の卵状に充填する)などを組み合わせており、作者のバリエーション豊かな彫金技術を見て取ることができる。皿の見込み下方に「南山鑄」、共箱の蓋表に「執金剛神図飾皿」、蓋裏に「昭和十七年夏 南山作」(朱印)とある。



No.5 清水 南山《執金剛神図飾皿》

(6) 田村 由清《巖島図模写(頼春水賛)》

田村由清(たむら ゆうせい 生没年不詳)は広島藩士(落款に基づく推定)。広島藩士に田村姓を用いる家系は確認できるが、地域史に由清を号とする人物の名を欠き、人物の特定について今後の調査を必要とする。

本作は、巖島神社を中心に、画面左下、西の丘の多宝塔あたりから画面上の東町、手前左右に広がる西町まで、風景を広角に取り込み、いま他に知られない巖島図の類型を示す。

本図の来歴に関わる着賛(七言律詩)は、広島藩の儒者頼春水(1746-1816)が享和2(1802)年2月の広島藩主浅野齐賢巖島詣に遊従した際の詩作に基づき、同3年4月6日に柴野栗山のために記したという。しかし春水自筆とはみえず、あるいは臨摸して春水書の章法(字句の配置)を写したともみなしがたく、後世に飛び込んだ可能性がある。

他方、落款の記述内容にも慎重な判断は必要であるが、模写者が「謹識」と述べるように本図の筆法や彩色法は未熟ながらも謹直で、極端な横長画面には創意豊かな画家の構図感覚があることから、原本や栗山に寄せた模本、模写者の元に留められた副模本という在り方なども連想できる。江戸時代における巖島の風景、巖島に取材した風景表現の展開、原本や模写の関係、用途など、さまざまに興味を惹かれる。



No.6 田村 由清《巖島図模写(頼春水賛)》

[落款]江都 柴先生就本藩頼教授求巖島凶、教授因出一函使僕摹寫、田邨由清謹識「□□」(朱文連珠印)

[着賛]綵舩整棹發江(金)城、維纜洲頭雨亦晴、金榜映潮華表出、紅燈照夜畫廊暈、

一聲長笛鴉雙下、數道前呵鹿不驚、七浦風回来往便、安(當)知天意有將迎、

癸亥初夏六日、頼惟完拜題為「惟完」(朱文連珠印)栗山柴先生、是去歲壬戌仲春吾君命舟詣巖島、遊從之作也、正之(下線括弧内は漢詩底本の用字)

(7) 小林 千古《風景》

小林千古(こばやし せんこ 明治3年－明治44年 1870－1911)は、現在の広島県廿日市市出身。出稼ぎ労働者とともに渡米した後、画家を志してカリフォルニア・デザイン学校(後にマーク・ホプキンス美術学校と改称)に学んだ。基礎的な技術を習得して一時帰国するも、再び日本を離れてヨーロッパに留学。日本での活動期間は短いものの、海外で実地に学んだ画家であり、広島洋画壇の草創期を代表する重要な作家である。

本作は、山梨県大月市、桂川の溪谷と猿橋を描いた作品である。同時代の画家による類似の構図の作例も確認でき、観光名所として一般に知られた景観だったと思われる。色彩表現などから、ヨーロッパから帰国後の画業後半の可能性が考えられるが、写真等をもとに描いた可能性も視野に、今後制作年の検討を重ねたい。



No.7 小林 千古《風景》

(8) 南 薫造《海岸風景》

南薫造(みなみ くんぞう 明治16年－昭和25年 1883－1950)は広島県呉市安浦町出身。東京美術学校を卒業後、イギリスやフランスに留学。帰国後は、滞欧作を発表した有島壬生馬(生馬)との二人展や文展で好評を博した後、温和な画風で郷里の風景を描いた作品で文展での受賞を重ね、若くして画壇での地位を築いた。官展や光風展、日本水彩展などで活躍。風景画を得意とし、とりわけ水辺の風景を好んで描いた。本作は、温和な色彩で水辺の風景を爽やかに描き、樹木の緑を際立たせる補色の赤の差し色などにも、作者の画風の特徴が見える。



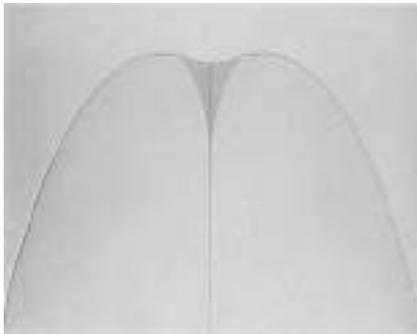
No.8 南 薫造《海岸風景》

(9) 高橋 秀の油彩画

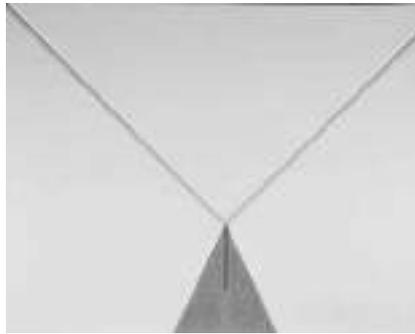
高橋秀(たかはし しゅう 昭和5年－1930-)は現在の広島県福山市出身。画業初期には抒情的な風景や静物を描き、主に独立展に出品。1961(昭和36)年の安井賞受賞を経て、1963(昭和38)年にイタリアに渡り、豊かで開放的な色彩と明快な形態を用いて生命やエロスに満ちた独特の抽象作品を生み出し、ヴェネツィア・ビエンナーレなどで国際的に活躍した。1990年代後半からは、金・銀の箔を用いた装飾的表現などに独自の琳派解釈を感じさせる日本の作品を制作するとともに、倉敷芸術科学大学で後進を指導。2004(平成16)年にローマから倉敷に転居した後には、「秀桜基金留学賞」や「沙美アートフェスト」を立ち上げるなど、美術の普及発展に貢献したことでも知られている。

《予言者》や《ブロンド》は、1980年代半ばに作品が赤、黒、白の色面構成になるのに先立って、白を多用していた時期の作品。《予言者》は当館と北九州市立美術館で開催した『高橋秀新作81展』(1981年)の出品作である。《遠心》《紅華》《翔んで!》は、赤と黒を基調とする力強く生命感に満ちた構成と、木工

ボンドとアクリル絵具を併用することで生まれるという艶のある絵肌など、作者の画風の特徴をよく伝えている。《弥生の空》《天啓》は、日本回帰が指摘される時代の作品。1990年代後半に倉敷芸術科学大学の教授に就任し、日本に長期滞在するようになったことで、現代の琳派とも称される作品など、日本美術の影響を受けた作品を生み出している。



No.11 高橋 秀《予言者》



No.12 高橋 秀《ブロンド》



No.13 高橋 秀《遠心》

(10) 児玉 希望《オルビエト》

児玉希望(こだま きぼう 明治31年－昭和46年 1898－1971)は広島県安芸高田市生まれ。川合玉堂の門下に入って、帝展・日展を舞台に活躍。師ゆずりの確かな筆法と自然観察の眼、鋭い色彩感覚を併せ持ち、山水・人物・花鳥など、いずれの主題にも洗練された大作を数多く発表。戦後には西洋絵画も積極的に学び、作風の転換を試みた。さらに、1957(昭和32)年に渡欧して、水墨画の優位を説いた。帰国後は抽象絵画も試み、生涯にわたって幅広い画業を展開した。奥田元宋・佐藤太清らはその弟子。

本作は、作者が1957(昭和32)年から1年間、イタリア・フランスに滞在した時に描かれたスケッチ。モチーフとなったオルヴィエトは、イタリア中部にある城塞都市。作者が滞欧中の動向を記した『水墨滞欧記』(誠文堂新光社、1958年)には、8月17日の日記として「山田氏の自動車を駆ってオルヴィエトに写生し一泊。」とあり、その折にスケッチしたものと考えられる。当館ですでに所蔵している滞欧中のスケッチと同様に、素早く、明快な線による的確な描写に作者らしさが見て取れる。なお、本作は『水墨滞欧記』の中で挿図として使用されている。



No.18 児玉 希望《オルビエト》

(11) 野見山 暁治の素描と版画

野見山暁治(のみやま きょうじ 大正9年－令和5年 1920－2023)は炭鉱の町であった福岡県穂波村に生まれ、戦時下に東京美術学校を卒業後、応召や終戦を経て活動を再開。原風景ともいえる炭坑を主題に制作に取り組んだ後、1950年代から12年近くを主にフランスで過ごした。西洋的な造形感覚、立体感や量感表現等を自らのものとする一方、東洋絵画に新たな可能性を見出し1964(昭和39)年に帰国。以後、美術団体に所属することなく作品発表を続け、今日に至っている。油彩画の制作を主としつつ版画や水彩・素描の発表も継続して行うほか、戦没画学生の顕彰のための取り組み、さらには文筆活動でも知られている。

作者は、西洋美術の造形性を学ぶために渡欧し、「空間を支配する量の重み」としての「かたち」の表現を身につける一方、留学の後半期には、中国絵画との出会いを経て、合理的な西洋絵画とは全く異なる東洋絵画の造形感覚に目を開かれたと語っている。新たな表現の可能性を見出して帰国した後は、かたちの制約から解放され、不定形な形や動きを伴った表現が見られる作風へと本格的に移行。1976(昭

和51)年に福岡県の岬にアトリエを構えた後は、広大な空や海と対峙しつつ、自然の変化に触発された大画面の作品を描くようになった。さらに1991(平成3)年、台風によってアトリエの甕が割れる現場に遭遇した作者は、自然の変化や恐ろしさを目の当たりにし、以後、変化し続ける自然の実態を突き止めるかのように、作者にとって「ある生きもの」であるがゆえに「静止していない」形を描き続けている。

このたびの8点のうち大半は制作時期が不明だが、《作品3》と《作品4》は連続性が感じられることから関連作の可能性があり、《作品6》は、類似の作例があることから1990(平成2)年頃の作とみられる。また、版画作品は館蔵品の《on y va (4) 消えた景色》(1988年)と共通する形態が見られ、同時期の可能性も考えられる。



No21 野見山 暁治《作品3》



No22 野見山 暁治《作品4》



No24 野見山 暁治《作品6》

(12) 四代金城一国齋《白蓮花に蛭高盛絵香筒》

金城一国齋(きんじょう いっこくさい)は、尾張徳川家のお抱えであった初代に始まり、二代により高盛絵の技法が創始されて広島に伝えられ、当地においてそれを受け継いだ三代により高盛絵の技法は完成され、以後、父子相伝により技法を継承して今日に至ったものである。四代(明治9年-昭和36年 1876-1961)は父・三代を師に漆芸を学び、父とともに精進して各種の博覧会や展覧会へ出品することで一国齋の名を全国へ広めた。高盛絵は漆工技法的には堆彩漆であり、生漆と砥の粉を混ぜ合わせたペーストを器物の上に盛り上げ、形を整えた後に色漆で彩色するもの。広島における数少ない伝統工芸(漆工)のひとつである。

本作は断面が方形の竹に、高盛絵で白蓮一輪と蛭2匹を表す。白蓮は一国齋高盛絵の定番のモチーフ。めくれた葉の厚みや、虫食いの葉の凹みに、高盛絵らしい立体感が見られる。筒の下方に緑色の漆で「一国齋」の銘と花押。共箱の蓋表に「白蓮花蛭模様四方竹香筒」(朱印)、蓋裏に「白蓮花蛭模様四方竹香筒 金城一国齋紫明作」(朱印)とある。香筒は線香をおさめる容器で、煎茶道具のひとつ。



No27 四代金城一国齋《白蓮花に蛭高盛絵香筒》

(13) 六角 紫水《刀筆双鳳文方盆》《山水蒔絵器局》

六角紫水(ろっかく しすい 慶応3年-昭和25年 1867-1950)は現在の広島県江田島市大柿町生まれ。東京美術学校第1回生として小川松民、白山松哉らに漆工を学んだ。卒業後に同校助教となるが、岡倉天心と共に辞して日本美術院の設立に参画。また、天心と共に1904(明治37)年に農商務省海外実業練習生として渡米、1908(明治41)に渡欧し、西洋の塗料を研究すると共に海外事情を見聞した。白漆や色漆の研究開発、アルミニウム酸化皮膜による漆工への活用、中尊寺金色堂をはじめ、各地の文化財調査や修復、国宝指定にも携わり、『東洋漆工史』の刊行、松田権六など昭和漆芸界の指導者たちの育成など、その活動は精力的で幅広い。



No28 六角 紫水《刀筆双鳳文方盆》

《刀筆双鳳文方盆》は、楽浪漆器に倣ったと考えられる作品。作者は、朝鮮半島の楽浪郡遺跡から出土した漆器の調査・保存・修復に関わりながら、生涯その技法の研究・復元を続けた。楽浪漆器の装飾技法は漆絵と毛彫りが主体で、作者はこの二つの技法を合わせて「刀筆」と称した。本作では、最外周の雲気文が筆で、そのほかの文様が彫りで表現されている。刻線は、彫ったというよりは小刀を筆と同じ心持ちで用いたと思われるような生き生きとした線で、楽浪漆器の繊細流麗な線描に学んだ成果が認められる。主文様である鳳凰が向かい合った樹下動物図は、漢時代的というよりは奈良朝的な雰囲気を感じられ、楽浪漆器の技術・意匠と日本の古典研究を融合させて独自の作風を確立していった作者の特徴がよく表われている。盆の見込左下に「紫水」の銘と花押。共箱の蓋表に「刀筆双鳳文 方盆」、蓋裏に「紫水作」(朱印)とある。《山水蒔絵器局》は、過去に当館で開催した『国宝を創った男 六角紫水展』(2008年)の出品作。蒔絵と、鏝絵と思われる技法で、蓋表に山水の景を描く。鏝絵は漆と砥の粉の混合ペーストである「鏝」に水を加えて筆で描くもので、肉付きが厚く筆勢やタッチが現れて絵画的な趣を出せるもので、作者が好んで用いた。器局の蓋表左下に「紫水」の銘と花押。箱に嵌め込まれた蓋表に「山水蒔絵器局」、蓋裏に「紫水作」(朱印)とある。



No.29 六角 紫水(山水蒔絵器局)

(14) 中央アジアとコーカサスの工芸作品

広義の中央アジア(トルキスタン)は旧ソ連領地域およびアフガニスタン北部(西トルキスタン)と中国西域地域(東トルキスタン)を指し(地域区分は諸説あり)、当館は前者の主にウズベクおよびトルクメンの民族衣装、トルクメンのシルバー・ジュエリーを多く所蔵している。新規収集作品のうち、衣装はウズベク、タジク、トルクメン、キルギス、カラカルパクといった民族のもので、時代は19世紀から20世紀、現代も含む。中にはウトキル・スルタノフ氏(1939生-2015没、1995-2003年にはイスラム・カリモフ大統領のもとでウズベキスタン首相)からの贈呈品、つまり現代制作の最高水準を示す作例を含む。

コーカサスは中央アジアの西側に位置する地域で、東のカスピ海、西の黒海に挟まれたコーカサス山脈とそれを取り巻く低地からなる地域で、北コーカサスはロシア、南コーカサスはアゼルバイジャン、アルメニア、ジョージアといった国々で構成される。ジョージア北東に位置するヘフスレティアのヘフスール人は、伝統様式を守る地域的特色がみられるとされる。彼らの衣装は男女ともに濃い青か茶色に染められた自家製の毛織物で作られ、細かな幾何学模様で飾られていた。刺繍は胸の装飾部分や額飾りだけでなく、襟や裾にも施され、アップリケやビーズも加えられている。ヘフスール人はキリスト教徒であるが、かつての信仰の名残も残っている。



No.30 ウズベク人《被衣(パランジャ)》



No.32 ウズベク人
《帽子付きベール(チャチワン)》



No.71 ジョージア、ヘフスレティア《外衣》

Ⅷ 美術品等の貸出し

| 種別 | 作者名など | 作品名 | 貸出先・会場 | 目的（展覧会名） | 会期 |
|------|---------------|---------------------------------------|---|---------------------------------|--|
| 版画 | マックス・エルンスト | 博物誌 | 諸橋近代美術館 秋田市立千秋美術館 大分県立美術館 横須賀美術館 | 生誕120周年 サルバドール・ダリ —天才の秘密— | 6. 4. 20～9. 1 (諸橋近代美術館) 6. 9. 14～11. 10 (秋田市立千秋美術館) 6. 11. 22～7. 1. 19 (大分県立美術館) 7. 2. 8～4. 6 (横須賀美術館) ※会場によって未陳作品あり |
| 油彩画 | ルネ・マグリット | 人間嫌いだち | | | |
| 複製 | サルバドール・ダリ | ヴィーナスの夢 | | | |
| 平面造形 | マン・レイ | サルバドール・ダリ | | | |
| | マン・レイ | 覚めて見る夢の会 | | | |
| | マン・レイ | アンドレ・ブルトン／ ソラリゼーション | | | |
| | マン・レイ | ジョアン・ミロ | | | |
| 書籍資料 | アルフレッド・バー Jr編 | 幻想芸術・ダダ・シュルレアリスム展（展覧会カタログ） | | | |
| | 書籍資料 | ニューヨーカー (1940年2月24日号) | | | |
| | 書籍資料 | ジェームズ・ソビー編 サルバドール・ダリ展 (展覧会カタログ) | | | |
| 日本画 | 横山大観 | 井筒 | 福井県立美術館 | 北陸新幹線福井・ 敦賀開業記念 横山大観展 | 6. 4. 26～6. 2 |
| 油彩画 | 小林和作 | 秋山 | 尾道市立美術館 | 坂道を歩く 小林 和作と中川一政 | 6. 9. 14～11. 10 |
| | 小林和作 | 春の山 | | | |
| | 小林和作 | 隠岐白鳥 | | | |
| | 小林和作 | 山湖の秋 | | | |
| 日本画 | 名草逸峰 | 高士観瀑図 | 田辺市立美術館 和歌山県立近代美術館 | 仙境 南画の聖地、 ここにあり | 6. 10. 5～11. 24 ※田辺市立美術館で展示 |
| 水彩画 | パウル・クレー | ある音楽家のための楽譜 | 愛知県美術館 兵庫県立美術館 静岡市美術館 | パウル・クレー展 創造をめぐる星座 | 7. 1. 18～3. 16 (愛知県美術館) 7. 3. 29～5. 25 (兵庫県立美術館) 7. 6. 7～8. 3 (静岡市美術館) ※会場によって未陳作品あり |
| 版画 | パウル・クレー | バウハウス版 新ヨーロッパ パ版画集 第1集 ホフマンの舞台 | | | |
| 油彩画 | ライオネル・ファイニンガー | 海辺の夕暮 | | | |
| 絵画資料 | ライオネル・ファイニンガー | バウハウス宣言書表紙 | | | |
| 彫塑 | ジャン (ハンス)・アルプ | 目覚め | | | |
| 油彩画 | 中谷ミユキ | 静物 | 一宮市三岸節子記念美術館 泉美術館 | 中谷ミユキ展 —語り合う静物 | 7. 1. 25～3. 16 (一宮市三岸節子記念美術館) 7. 5. 31～7. 27 (泉美術館) |
| | 中谷ミユキ | 洋梨 | | | |
| | 中谷ミユキ | 海 | | | |
| | 中谷ミユキ | 花と果実 | | | |

Ⅸ 関係法規

広島県立美術館条例

(昭和43年3月26日)
広島県条例第20号

全部改正 平成8年条例第16号

最終改正 令和5年3月13日

(設置)

第1条 美術に関する県民の知識及び教養の向上に資するため、広島県立美術館(以下「美術館」という。)を設置する。

(位置)

第2条 美術館の位置は、広島市中区上鞆町とする。

(業務)

第3条 美術館は、次の業務を行う。

- (1) 美術品等を収集し、保管し、又は展示して、県民の利用に供すること。
- (2) 美術品等の展示施設(以下「展示施設」という。)その他の美術館の施設を美術品等の展示等のための利用に供すること。
- (3) 美術品等に関する専門的及び技術的な調査研究を行うこと。
- (4) その他県民の美術に関する知識、教養、調査研究等に資するために必要な事業を行うこと。

(職員)

第4条 美術館に、館長その他必要な職員を置く。

2 館長は、前条第1号及び第3号に掲げる業務並びに同条第2号及び第4号に掲げる業務のうち次条第2項第1号に掲げる業務を除いたものを掌理し、所属職員を指揮監督する。

(指定管理者による管理)

第5条 美術館の管理は、広島県公の施設における指定管理者の指定手続等に関する条例(平成16年広島県条例第28号)の定めるところにより、教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

2 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 第三条第二号及び第四号に掲げる業務のうち教育委員会規則で定めるものを行うこと。
- (2) 美術館の展示施設及び講堂(以下「展示施設等」という。)並びに駐車場の利用の許可に関すること。
- (3) 展示施設等及び駐車場その他の美術館の施設並びに附属設備の維持及び修繕に関すること。
- (4) 展示施設等及び駐車場の利用に係る料金(以下「利用料金」という。)の収受に関すること。
- (5) 美術館の入館料の徴収に関すること。
- (6) その他教育委員会が別に定める業務を行うこと。

(開館時間等)

第6条 美術館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、金曜日は、午後7時まで開館時間を延長する。

2 講堂及び駐車場の利用時間は、次のとおりとする。

- (1) 講堂 午前9時から午後9時まで
- (2) 駐車場 午前9時から午後9時15分まで

3 前2項の規定にかかわらず、教育委員会又は指定管理者は、特に必要があると認めるときは、第1項の開館時間又は前項の利用時間を変更することができる。この場合においては、指定管理者は、あらかじめ教育委員会の承認を得なければならない。

(休館日等)

第7条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号。以下「祝日法」という。)に規定する休日当たる場合を除く。)
- (2) 12月25日から翌年の1月1日までの日

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会又は指定管理者は、特に必要があると認めるときは、前項の休館日以外の日において臨時に休館し、又は同項の休館日において臨時に開館することができる。この場合においては、指定管理者は、あらかじめ教育委員会の承認を得なければならない。

(利用の許可)

第8条 展示施設等及び駐車場を利用しようとする者は、教育委員会規則及び指定管理者の定めるところにより、指定管理者の許可を受けなければならない。

2 指定管理者は、前項の許可(以下「利用許可」という。)をする場合においては、美術館の管理上必要な限度において条件を付することができる。

(利用許可の制限)

第9条 指定管理者は、展示施設等及び駐車場の利用の目的又は方法が、次の各号のいずれかに該当するときは、利用許可をしてはならない。

- (1) 公益を害し、又は風俗を乱すおそれがあると認められるとき、その他住民の福祉を増進する目的に照らし適当でないと認められるとき。
- (2) 展示施設等及び駐車場並びに附属設備を損傷するおそれがあると認められるとき。
- (3) 集団的に又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織の利益になると認められるとき。
- (4) その他美術館の管理及び運営上支障があると認められるとき。

(展示施設等の利用期間)

第10条 展示施設等の利用期間は、引き続き7日を超えることはできない。ただし、指定管理者が必要と認めるときは、この限りでない。

(入館料の納付等)

第11条 美術館の展示する美術品等を観覧する者は、別表第一に定める入館料を納付しなければならない。

- 2 入館料は、知事が別に定める場合を除き、前納とする。
- 3 既納の入館料は、返還しない。

(利用料金の納付等)

第12条 展示施設等及び駐車場を利用する者は、指定管理者が別表第二及び別表第三に定める金額の範囲内で教育委員会の承認を受けて定める利用料金を納付しなければならない。

- 2 利用料金は、教育委員会が別に定める場合を除き、利用許可を受ける際に納付しなければならない。
- 3 既納の利用料金は、返還しない。ただし、利用許可を受けた者がその責めに帰することができない理由により利用できない場合その他教育委員会が別に定める場合には、指定管理者は、利用料金の全部又は一部を返還することができる。

(入館料の減免)

第13条 知事は、次の各号のいずれかに該当する者が美術館が所蔵する美術品等の展示(以下「所蔵作品展」という。)を観覧するときは、所蔵作品展に係る入館料を減免することができる。

- (1) 身体障害者手帳の交付を受けている者
 - (2) 戦傷病者手帳の交付を受けている者
 - (3) 療育手帳の交付を受けている者
 - (4) 精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者
 - (5) 六十五歳以上の者
 - (6) 県内の大学又はこれに準ずる学校に在学する外国人留学生
 - (7) 小学校、中学校、高等学校又はこれらに準ずる学校の校長が学校教育活動であることを証明した場合の小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者の引率者
 - (8) 祝日法第二条に規定するみどりの日又は文化の日に入館する者
 - (9) 教育委員会が単独で開催する所蔵作品展以外の展示(以下「特別展」という。)と併せて観覧する者
 - (10) その他知事が別に定める者
- 2 知事は、次の各号のいずれかに該当する者が特別展を観覧するときは、特別展に係る入館料を減免することができる。
- (1) 祝日法第二条に規定するこどもの日に入館する小学校の児童、中学校の生徒又はこれらに準ずる者
 - (2) 祝日法第二条に規定する文化の日に入館する者
 - (3) ひろしま教育の日を定める条例(平成十三年広島県条例第四十号)第三条に規定するひろしま教育ウィークに入館する小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者
 - (4) その他知事が別に定める者

(利用料金の減免)

第14条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、展示施設等の利用料金を減免することができる。

- (1) 教育委員会が、主催する事業のために展示施設等を利用するとき。
- (2) 前条第一項第一号から第四号までに掲げる者(以下「身体障害者等」という。)又は身体障害者等が主体となって構成する団体が、美術活動として展示施設等を利用するとき。
- (3) 国又は地方公共団体が、身体障害者等の美術の振興を図る行事のために展示施設等を利用するとき。
- (4) 社会福祉事業を推進する団体が当該団体の設立の目的のために利用するとき。
- (5) 幼保連携型認定こども園又は幼稚園、小学校、中学校若しくはこれらに準ずる学校の校長(幼保連携型認定こども園及び幼稚園にあっては、園長)が学校教育活動であることを証明した場合において、当該幼保連携型認定こども園の幼児又は当該幼稚園の幼児、当該小学校の児童、当該中学校の生徒若しくはこれらに準ずる者が利用するとき。
- (6) その他教育委員会が別に定める場合

2 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、駐車場の利用料金を減免することができる。

- (1) 教育委員会が、主催する事業のために駐車場を利用するとき。
- (2) 身体障害者等が、自ら車両を運転し、又は介護者の運転する車両に同乗して駐車場を利用するとき。

(利用料金の収入)

第15条 第12条第1項の規定により展示施設等及び駐車場を利用する者が納付する利用料金は、指定管理者の収入とする。

(利用許可の取消し等)

第16条 指定管理者は、利用許可を受けた者が次の各号のいずれかに該当するときは、利用許可の全部若しくは一部を取り消し、利用の方法を制限し、又は利用の停止を命じることができる。

- (1) 許可された利用目的以外に展示施設等を利用したとき。
- (2) 第九条各号のいずれかに該当するに至ったとき。
- (3) 偽りその他不正な手段により利用許可を受けたとき。
- (4) この条例若しくはこの条例に基づく教育委員会規則の規定又は第8条第2項の規定により付された条件に違反したとき。
- (5) 利用許可に基づく権利を譲渡し、又は他人に利用させたとき。

2 前項の規定により利用許可を取り消し、利用の方法を制限し、又は利用の停止を命じたことによって、利用許可を受けた者に損失が生じることがあっても、県又は指定管理者は、これに対して補償する義務を負わない。

(遵守事項)

第17条 美術館においては、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 展示施設等及び駐車場その他の美術館の施設並びに附属設備をき損し、又は汚損しないこと。
- (2) 展示資料、展示設備等に触れないこと。
- (3) 許可を受けずに、展示資料の模写又は撮影をしないこと。
- (4) 館内においては、静粛にし、他人に迷惑を掛ける行為又は他人に嫌悪の情を催させる行為をしないこと。
- (5) 所定の場所以外の場所で喫煙し、又は飲食しないこと。
- (6) 指定管理者の指示に従うこと。
- (7) その他教育委員会が定める事項

(禁止行為)

第18条 美術館においては、次に掲げる行為をしてはならない。ただし、教育委員会の許可を受けた場合は、この限りでない。

- (1) 寄附の募集
- (2) 爆発物その他危険物等の持込み
- (3) 行商その他これに類する行為
- (4) 宣伝その他これに類する行為
- (5) 広告物等の掲示若しくは配布又は看板、立札類の設置

(入館の制限等)

第19条 教育委員会又は指定管理者は、前2条の規定に違反するおそれのある者又はこれらの規定に違反した者に対して、美術館への入館を拒否し、又は美術館からの退去を命じることができる。

(原状回復義務)

第20条 展示施設等の利用者は、その利用を終了したとき(利用許可を受けた者が第16条第1項の規定により利用許可を取り消されたときを含む)は、直ちに利用場所を原状に復し、指定管理者の検査を受けなければならない。

(損害賠償義務)

第21条 展示施設等及び駐車場その他の美術館の施設、附属設備又は展示資料等をき損し、汚損し、又は滅失した者は、これによって生じた損害を賠償しなければならない。

(指定管理者の指定を取り消した場合等の特例)

第22条 知事は、指定管理者の指定を受ける者がいないとき、指定管理者を指定することができないとき、又は指定管理者の指定を取り消し、若しくは期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときは、指定管理者を指定し、又は当該停止の期間が終了するまでの間、美術館の管理を行うものとする。

- 2 知事は、前項の規定により美術館の管理を行う場合においては、展示施設等及び駐車場を利用する者から、使用料を徴収する。
- 3 第十二条第一項及び第三項並びに第十四条の規定は、前項の使用料について準用する。この場合において、これらの規定中「指定管理者が別表第二及び別表第三に定める金額の範囲内で教育委員会の承認を受けて定める」とあるのは「別表第二及び別表第三に定める金額の範囲内で教育委員会が定める」と、「利用料金」とあるのは「使用料」と、「利用許可を受けた者」とあるのは「使用料を納付した者」と、「指定管理者は」とあるのは「知事は」と読み替えるものとする。

(委任規定)

第23条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

- 1 この条例は、昭和43年4月1日から施行する。
- 2 第5条第1項の規定にかかわらず、別表の通常の展示の場合に係る入館料は、この条例の施行の日後において知事その徴収を開始すべき日を定めて公示するまでの間は、これを徴収しないものとする。

附 則(平成19年3月15日条例第21号抄)

(施行期日)

- 1 この条例は、規則で定める日から施行する。(平成20年1月規則第2号で、平成20年4月1日から施行)

(経過措置)

- 3 この条例の施行前にこの条例による改正前のそれぞれの条例(これに基づく規則その他の規程を含む。)の規定によってした処分、手続その他の行為であって、この条例による改正後のそれぞれの条例(これに基づく規則その他の規程を含む。)中相当する規定があるものは、それぞれこれらの相当する規定によってした処分、手続その他の行為とみなす。
- 4 この条例の施行前にこの条例による改正前のそれぞれの条例(これに基づく規則その他の規程を含む。)の規定により利用の許可を受けている者に係る使用料については、なお従前の例による。

附 則(平成19年12月25日条例第56号)

この条例は、学校教育法等の一部を改正する法律(平成19年法律第96号)附則第1条本文に規定する政令で定める日から施行する。
(定める日=平成19年12月26日)

附 則(平成22年6月28日条例第31号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成23年7月11日条例第31号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月26日条例第23号)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成27年3月16日条例第三号)

この条例は、平成27年4月1日から施行する。

附 則(平成28年3月22日条例第7号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成28年10月12日条例第47号)

この条例は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(平成31年3月8日条例第5号抄)

(施行期日)

- 1 この条例は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定める日から施行する。

一～三 略

四 前三号に掲げる規定以外の規定 平成31年10月1日

附 則(令和3年3月22日条例第3号)

この条例は、令和3年4月1日から施行する。

附 則(令和5年3月13日条例第4号)

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

別表第1(第11条関係)

- 1 所蔵作品展の利用料金の範囲

| 区 分 | 個 人 | 団体(20人以上の場合とする。) | 広島県縮景園との 共通券による場合 |
|---|----------|------------------|----------------------|
| 大学生及びこれに準ずる者 | 1人1回310円 | 1人1回250円 | 1人1回250円 |
| その他15歳以上の者 (中学校又は高等学校の生徒 及びこれに準ずる者を除く。) | 1人1回510円 | 1人1回410円 | 1人1回410円 |

- 2 特別展の場合

1人1回 2,100円以内で知事が定める額

別表第2(第12条関係)

展示施設等の利用料金の範囲

| 利用区分 | 施設区分 | 第1展示室 | 第2展示室 | 第3展示室 | 第4展示室 | 第5展示室 | 講堂 |
|-------------|--------|-------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 入場料有料の場合 | 1時間につき | 1,790円以内 | 3,050円以内 | 3,050円以内 | 3,050円以内 | 3,250円以内 | 4,930円以内 |
| | 1日につき | 13,630円以内 | 24,320円以内 | 24,320円以内 | 24,320円以内 | 25,780円以内 | |
| 入場料無料の場合 | 1時間につき | 950円以内 | 1,580円以内 | 1,580円以内 | 1,580円以内 | 1,680円以内 | 2,520円以内 |
| | 1日につき | 6,820円以内 | 12,170円以内 | 12,170円以内 | 12,170円以内 | 12,900円以内 | |
| 電気設備を利用する場合 | | 実費を基準として教育委員会が定める範囲とする。 | | | | | |

備考

- この表において「1日」とは、美術館の開館時間とする。
- 日曜日、土曜日及び祝日法に規定する休日における入場料有料の場合の利用料金の額は、指定管理者が定める額の2割を加算する。
- 展示物の搬入及び撤去に係る利用料金の額は、指定管理者が定める額に2分の1を乗じて得た額とする。
- 利用料金の額に10円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てるものとする。

別表第3(第12条関係)

駐車場の利用料金の範囲

| 駐車することができる自動車の範囲 | 単 位 | 利用料金の範囲 |
|---|-------------------------------------|------------------|
| 道路運送車両法(昭和26年法律第185号)第3条に規定する自動車のうち、普通自動車並びに2輪自動車以外の小型自動車及び軽自動車 | 1台につき 1時間まで 1時間を超える時間30分までごとに | 420円以内 220円以内 |

広島県博物館協議会条例

(平成13年3月26日)
広島県条例第3号

(設 置)

- 第1条 広島県教育委員会(以下「教育委員会」という。)に、広島県博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。
- 第2条 協議会は、広島県立美術館、広島県立歴史民俗資料館、広島県立歴史博物館の運営に関し教育委員会の諮問に応じるとともに、教育委員会に対して意見を述べる機関とする。

(組 織)

- 第2条 協議会は、委員15人以内で組織する。
- 第2条 委員は、教育委員会が任命する。

(委員の任期)

- 第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 第2条 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

- 第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によってこれを定める。
- 第2条 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。
- 第3条 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会 議)

- 第5条 協議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が召集し、会長がその議長となる。
- 第2条 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 第3条 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶 務)

- 第6条 協議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(雑 則)

- 第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

- 第1条 この条例は、平成13年4月1日から施行する。

(広島県立美術館協議会条例の廃止)

- 第2条 広島県立美術館協議会条例(昭和43年広島県条例第38号)は、廃止する。

広島県立美術館管理運営規則

(昭和43年4月1日)
教育委員会規則第1号

最終改正 平成29年3月23日教育委員会規則第1号

(趣旨)

第1条 この教育委員会規則は、広島県立美術館(以下「美術館」という。)の管理及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(指定管理者が行う業務)

第2条 広島県立美術館条例(昭和43年広島県条例第20号。以下「条例」という。)第5条第2項第1号の教育委員会規則で定める業務は、次に掲げる業務とする。

- (1) 美術館の利用促進に関すること。
- (2) 美術館の利用案内に関すること。
- (3) 県民の美術に関する学習活動の支援に関すること。

(開館時間等の周知)

第3条 条例第6条第3項又は第七条第2項の規定により、美術館の開館時間若しくは講堂若しくは駐車場の利用時間を変更し、又は美術館の全部若しくは一部を臨時に休館し、若しくは休館日に開館する場合は、あらかじめ、その旨を美術館に掲示する等周知のために必要な措置を講じなければならない。

(展示施設等の利用の申込み等)

第4条 美術館の展示施設及び講堂(以下「展示施設等」という。)を利用しようとする者は、展示施設等利用申込書を指定管理者に提出し、条例第8条第1項の許可(以下「利用許可」という。)を受けなければならない。

2 前項の規定による利用の申込みは、次に掲げる期間内にしなければならない。ただし、特別の事情があると指定管理者が認める場合は、この限りでない。

- (1) 展示施設 利用開始日の1年前から1月前まで
- (2) 講堂 利用開始日の4月前から7日前まで

(展示施設等利用許可書の交付)

第5条 指定管理者は、利用許可をしたときは、展示施設等利用許可書を申込者に交付するものとする。

2 展示施設等利用許可書は、展示施設等を利用する際必ず携帯し、係員の請求があるときは、これを提示しなければならない。

(駐車場の利用手続)

第6条 駐車場を利用しようとする者(以下「駐車場利用者」という。)は、自動車を入庫させる際、駐車券の発給を受けるものとする。この場合においては、当該発給を受けたときに利用許可を受けたものとみなす。

2 駐車場利用者が自動車を出庫させようとする際は、駐車時間に応じた利用料金を納付しなければならない。

(利用料金の周知)

第7条 指定管理者は、条例第12条第1項の規定により教育委員会の承認を受けて利用料金を定めたときは、美術館に掲示する等周知のために必要な措置を講じなければならない。

(利用料金の返還)

第8条 条例第12条第4項ただし書の規定により、指定管理者は、利用許可を受けた者がその責めに帰することができない理由により利用することができない場合は、当該利用料金の全額を返還する。

2 前項の規定により利用料金の返還を受けようとする者は、利用料金返還申請書に第5条第1項の展示施設等利用許可書を添えて、指定管理者に提出しなければならない。

(利用料金の減免)

第9条 条例第14条第1項第1号又は同条第2項第1号若しくは第2号に該当する場合は、利用料金(条例別表第2に規定する電気設備を利用する場合の利用料金を除く。以下本条において同じ。)を免除する。

2 条例第14条第1項第2号又は第3号に該当する場合は、利用料金の額の2分の1に相当する額を減額する。

3 条例第14条第1項第4号又は第5号に該当する場合は、利用料金の額の5分の1に相当する額を減額する。

4 前2項の規定により算定した減額後の利用料金の額に10円未満の端数が生じたときは、その端数を切り捨てるものとする。

(利用料金の減免の申請)

第10条 前条第1項の規定により利用料金の免除を受けようとする者のうち条例第14条第2項第2号に該当するものは、該当することを証する書類を指定管理者に提示しなければならない。

2 前条第2項又は第3項の規定により利用料金の減額を受けようとする者は、第4条第1項の展示施設等利用申込書の提出時に併せて利用料金減額申請書を指定管理者に提出し、その承認を受けなければならない。

(補則)

第11条 この教育委員会規則に定めるもののほか、美術館の管理及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則(平成29年3月23日教育委員会規則第1号)抄

(施行期日)

1 この教育委員会規則は、平成29年4月1日から施行する。

(広島県美術展開催運営規則の廃止)

2 広島県美術展開催運営規則(昭和52年広島県教育委員会規則第2号)は、廃止する。

広島県立美術館美術品等収集基本方針

(昭和63年12月9日)

広島県立美術館の美術品等収集に関する基本方針を次のとおり定める。

- 1 本県ゆかりの作家の美術品等については、次項に準拠しつつ、各作家ごとの体系的なコレクションの形成につとめる。
- 2 次に掲げる美術品等の収集に主眼を置き、日本美術の特質を味わうことのできる体系的なコレクションの形成につとめる。
 - (1) 近・現代作家の特色ある美術作品
近代から現代にいたる絵画等の平面・立体造形作品のうち、時代の特徴と制作意図の明確な作品。
 - (2) 近代の工芸作品
わが国工芸の特色を示す陶芸、染色、漆芸、金工等のうち、主として近代以降に制作された作品。
 - (3) 近代の彫塑作品
近代以降のわが国の彫塑界で特に重要と認められる作家の作品。
 - (4) その他の美術作品
上記(1)~(3)に掲げる美術作品のほか、美術館において収蔵するにふさわしいと認められる美術工芸作品。
 - (5) 美術資料
収蔵する美術品等に関する作家並びに美術作品を理解するうえで必要な日記、書簡、下絵等の美術資料等。
 - (6) 補助的関連資料
収集する美術品等に関する調査研究及び教育普及事業に必要な視聴覚教材、図書、複製品等の補助的関連資料
- 3 その他、美術館において所蔵するにふさわしい東洋・西洋の美術品等を収集する。

広島県立美術館美術品等特別収集基本方針

(平成3年3月8日 館長決裁)

- 1 本県ゆかりの作家の作品並びに本県にゆかりのある美術品等
 - (1) 本県ゆかりの作家の作品及び美術資料
 - (2) 本県ゆかりの作家に関連する系譜的作品
 - (3) 本県ゆかりの美術品等
- 2 近世から現代までの造形的に優れたわが国の美術作品及びこれらの作品を理解するために必要な外国作品
 - (1) 絵画作品
 - 1) 近世絵画の流れが理解できる作品のうち、主として花鳥画を主題とする作品及び近代日本画確立期の作品
 - 2) 油彩画等の受容と展開を示す明治・大正・昭和三代の代表的作家の作品
 - 3) 戦後における国際的評価の高い作家の作品
 - (2) 工芸作品
 - 1) 東洋的伝統を受け継ぐわが国の代表的作家又は様式作品
 - 2) わが国と関係の深いアジア各国の工芸作品
 - 3) 近代工芸確立期(1920年代)及び戦後昂揚期(1960年代)の作品
 - 4) 収蔵作品を理解するために必要な外国作品及び特に注目される現代の工芸作品
- 3 国際的視野から特色をもった作品
1920 - 1930年代の両大戦間を中心とする世界美術の多様性が理解できる作品
 - 1) 欧米作家等の作品
 - 2) 日本人作家の作品
- 4 近代以降の彫刻(立体)作品
 - (1) 主として戦後期に活躍した作家の作品
 - (2) “手で見る彫刻”作品
 - (3) 新館及び街区等、周囲の環境に即した作品

県立美術館特別収集重点方針

- 1 本県ゆかりの作家の作品など
近代以降の美術界に大きな足跡をのこした作家の作品を中心に収集し、その系譜的作品も併せて収集する。
- 2 日本及びアジアの工芸作品など
わが国とアジア各国の優れた工芸作品（陶磁、染色、漆芸など）を収集する。
- 3 1920-1930年代(両大戦間)の美術作品など
現代美術に先行する両大戦間美術の多様性を示す作品を世界と日本との関連で収集する。

広島県立美術館美術品等取扱要綱

(趣 旨)

第1条 広島県立美術館(以下「美術館」という。)で取り扱う美術品及び美術資料の管理、寄託、寄附及び貸付けについては、広島県物品管理規則(昭和39年規則第33号。)に定めるもののほか、この要綱の定めるところによる。

(定 義)

第2条 この要綱において「美術品等」とは、美術作品及び美術に関する資料をいう。

(管 理)

第3条 美術館で管理する美術品等については、別表の美術品等分類表により区分するとともに、別記様式第1号による備品出納簿を備え付け、その出納及び保管の状況を記録管理しなければならない。

(寄 託)

第4条 美術品等を、美術館に保管又は展示するために寄託しようとする者は、広島県立美術館長(以下「館長」という。)に別記様式第2号による美術品等寄託申請書を提出し、寄託の承認を受けなければならない。

2 館長は、前項の規定により寄託を承認した場合は、美術品等を寄託する者(以下「寄託者」という。)に対して別記様式第3号による受託証書を交付するものとする。

3 前項の規定により寄託を承認した美術品等(以下「寄託品」という。)の記録管理は、別記様式第4号による受託カードにより行うものとする。

(寄託期間)

第5条 寄託期間は3年とする。ただし、館長が特別の理由があると認めた場合は、寄託者の承諾を得て寄託期間を変更することができる。

(一時返還)

第6条 寄託者は、寄託品の一時返還を受けるときは、館長に別記様式第5号による寄託品一時返還願を提出しなければならない。

(返還の手続)

第7条 館長は、寄託者に寄託品を返還するとき、受託証書と引換えに返還するものとする。

2 寄託者の代理人が、寄託品の返還を受けようとするときは、館長に委任状その他これを証する書類を受託証書に添付して提出しなければならない。

(受託証書の記載事項変更)

第8条 寄託者は、受託証書の記載事項について、譲渡、相続その他の事情により変更があったときは、館長に記載事項の変更を証する書類を受託証書に添付して提出し、記載事項の書換えを受けなければならない。

(受託証書の再交付)

第9条 寄託者は、受託証書を破り、汚し、又は失ったときは、館長に別記様式第6号による受託証書再交付申請書を提出して、受託証書の再交付を受けなければならない。

(寄託品の保管)

第10条 館長は、寄託品を常に良好な状態で保管しなければならない。

(寄託品の修繕)

第11条 館長は、寄託品に修繕をする必要を認めたときは、寄託者に対して適正な指示を行うことができる。

(寄 附)

第12条 美術品等を、美術館に保管又は展示するために寄附しようとする者は、館長に別記様式第7号による寄附申込書を提出しなければならない。

2 館長は、前項の規定により寄附申込書の提出があったときは、寄附を受けることについて適否を決定し、美術品等を寄附しようとする者に対して適否を通知するものとする。

(貸付け)

第13条 館長は、美術館の事業に支障を及ぼさないと認めるときは、美術品等を他の美術館又はこれに準ずる施設に無償で貸し

付けることができる。

- 2 美術品等を、前項の規定により貸付けを受けようとする者は、館長に別記様式第8号による美術品等借受願又は別記様式第8号に準じた書面を提出しなければならない。ただし、貸付けを受けようとする美術品等が寄託品である場合は、寄託者の承諾書を美術品等借受願に添付するものとする。
- 3 館長は、第1項の規定により美術品等の貸し付けを決定したときは、貸付けを受けようとする者に対して貸し付けの通知をするものとする。

(借用書の提出)

第14条 前条第3項の規定により通知を受けた者は、館長に別記様式第9号による借用書又は別記様式第9号に準じた書面を提出しなければならない。

(貸付け期間)

第15条 貸付け期間は60日以内とする。ただし、館長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(貸付けの条件)

第16条 第13条第1項の規定により美術品等を貸し付ける場合の条件は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 貸付けを受けた者(以下「借用者」という。)は、貸し付けを受けた美術品等(以下「借用美術品等」という。)を転貸し、又は貸し付けにより生じた権利を担保に供し、若しくは譲渡してはならない。
- (2) 借用者は、借用美術品等を常に良好な状態で保管しなければならない。
- (3) 借用者は、借用美術品等を失い、又は傷付けたときは、直ちにその損害を賠償しなければならない。
- (4) 美術品等の貸付けに必要な経費は、借用者が負担するものとする。
- (5) 館長は、前各号に定めるもののほか、美術品等の貸し付けに必要な条件を付することができる。

(報告義務)

第17条 館長は、第12条第2項の規定により美術品等の寄附受納を決定した場合及び第13条第3項の規定により美術品等の貸付けを決定した場合は、速やかに広島県環境県民局長(以下「局長」という。)に報告しなければならない。

(補 則)

第18条 館長は、前各条に規定する事務のうち、重要及び異例若しくは疑義のある事項については、あらかじめ局長に報告し、局長は広島県教育委員会に協議をして、その承認を受けなければならない。

附 則

この要綱は、昭和58年7月1日から施行する。

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

広島県立美術館展示施設等運営要領

(平成8年7月24日 館長決裁)

この要領は、広島県立美術館管理運営規則(昭和43年4月1日教育委員会規則第1号)に基づき美術館の展示施設及び講堂の適正かつ効果的な運営を図るため、利用の形態及び許可の基準その他の必要な事項を定めるものとする。

1 利用形態

① 常設展示室(2階)

第1から第4展示室及び彫刻展示スペースは、所蔵作品による常設展示を行う。

② 企画展示室(3階)

北、東、西及び展示前室は、美術館が企画・主催し又は共催する展覧会事業に使用する。ただし、美術館が共催する展覧会は、国若しくは地方公共団体(その機関を含む。)又は公共性の高い機関が企画・主催する事業で、美術館が共催するにふさわしい、開催意義の高い事業に限る。

なお、これらの展覧会を実施しても、なお、空室が生じる場合は、「広島県教育委員会の共催・後援・協賛に関する基準について(昭和54年3月29日)」に基づき共催・後援に該当する展覧会に限り使用することができる。

③ 県民ギャラリー(地階)

条例第1条により、団体又は個人が美術に関する事業を目的として利用する場合に、これを許可する。

④ 講堂兼ハイビジョンギャラリー(地階)

通常はハイビジョンギャラリーとして入館者が自由に鑑賞できるように毎日一定時間使用する。また、団体又は個人が芸術に関する県民の知識及び教養の向上に資する目的で講演会などの催しのために利用する場合には、美術館が企画・主催する事業に支障のない範囲内でこれを許可する。

⑤ 図書館(1階)

美術に関する図書及び参考図書を公開し、利用者に提供する。また、室内にハイビジョン・データ・ブースを設置し、美術館の所蔵品に関するデータベースを提供して利用者の学習の便を図る。

⑥ 情報ギャラリー(1階)

ポスター、パンフレットなど、さまざまな広報媒体を掲示して、利用者に情報を提供するとともに、時機に応じて比較的小規模の企画展示を行う。また、一部にハイビジョン・ブースを設置し、美術館の所蔵品に関するオリジナル番組を提供して、利用者の作品理解の一助とする。

2 利用の申込み

県民ギャラリーの利用の申込みは、原則として年度を前・後期に分け、前期については、前年度の9月1日から9月30日まで、後期については、前年度の3月1日から3月31日までの間に受け付けるものとする。

講堂の利用の申込みは、利用日の2ヶ月前から随時行うものとする。

3 利用の期間及び回数

県民ギャラリーの利用期間は原則2週間をこえないこととし、利用回数は同一の団体又は個人につき原則年1回とする。

X 名 簿

美術品等収集評価委員会

| | | |
|-------|---------|---------------|
| 委 員 長 | 山 梨 俊 夫 | 元国立国際美術館館長 |
| 委 員 | 唐 澤 昌 宏 | 独立行政法人国立工芸館館長 |
| 〃 | 正 村 美 里 | 岐阜県美術館副館長 |
| 〃 | 菅 村 亨 | 元広島大学教授 |
| 〃 | 速 水 豊 | 三重県立美術館館長 |
| 〃 | 不 動 美 里 | 姫路市立美術館館長 |
| 〃 | 古 田 亮 | 東京藝術大学大学美術館教授 |

職 員

| | |
|------------|-----------------------|
| 館 長 | 千 足 伸 行 |
| 副 館 長 | 原 田 英 樹 |
| 総 括 企 画 監 | 小 別 所 智 昭 |
| 総 務 課 長 | 津 田 春 奈 |
| 主 査 | 井 手 ノ 瀬 美 由 紀 |
| 主任 (エルダー) | 中 神 良 樹 |
| 事 務 従 事 員 | 一 色 直 香 |
| 〃 | 福 原 美 和 |
| 〃 | 岡 田 準 子 |
| 学 芸 課 長 | 福 田 浩 子 |
| 主任学芸員(シニア) | 角 田 新 |
| 主任学芸員 | 藤 崎 綾 |
| 〃 | 神 内 有 理 |
| 〃 | 山 下 寿 水 |
| 〃 | 隅 川 明 宏 |
| 〃 | 岡 地 智 子 |
| 学 芸 員 | 森 万 由 子 (～ R6. 6. 30) |

令和6年度

広島県立美術館年報

令和7年8月29日発行

発行者 **広島県立美術館**
〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22
電話 (082) 221-6246

印刷所 株式会社 タカトープリントメディア

(人名については敬称略)